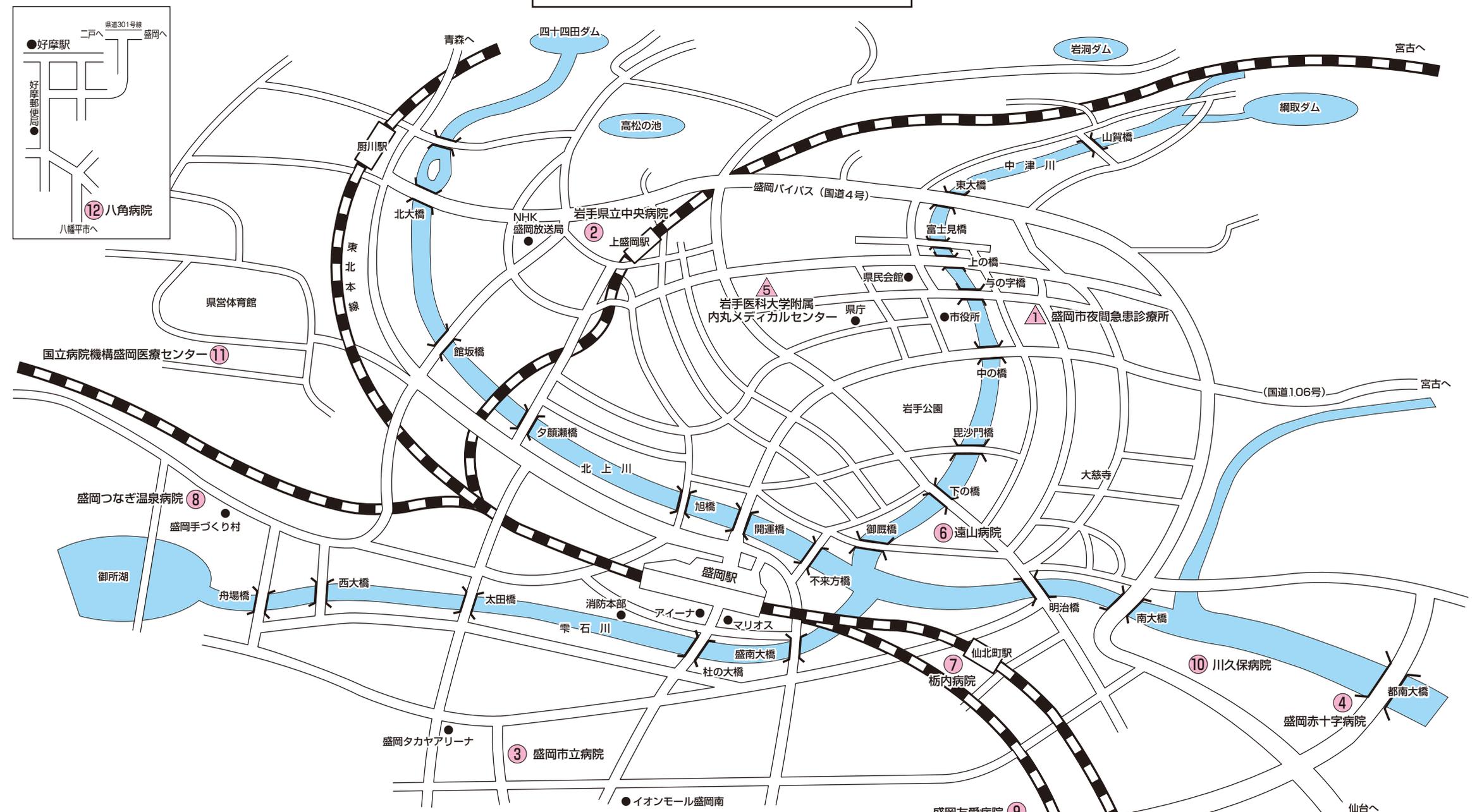


盛岡地区
救急医療体制
のあゆみ

2025

盛 岡 市
盛 岡 市 医 師 会
盛岡地区二次救急医療対策委員会

盛岡地区救急医療施設配置図

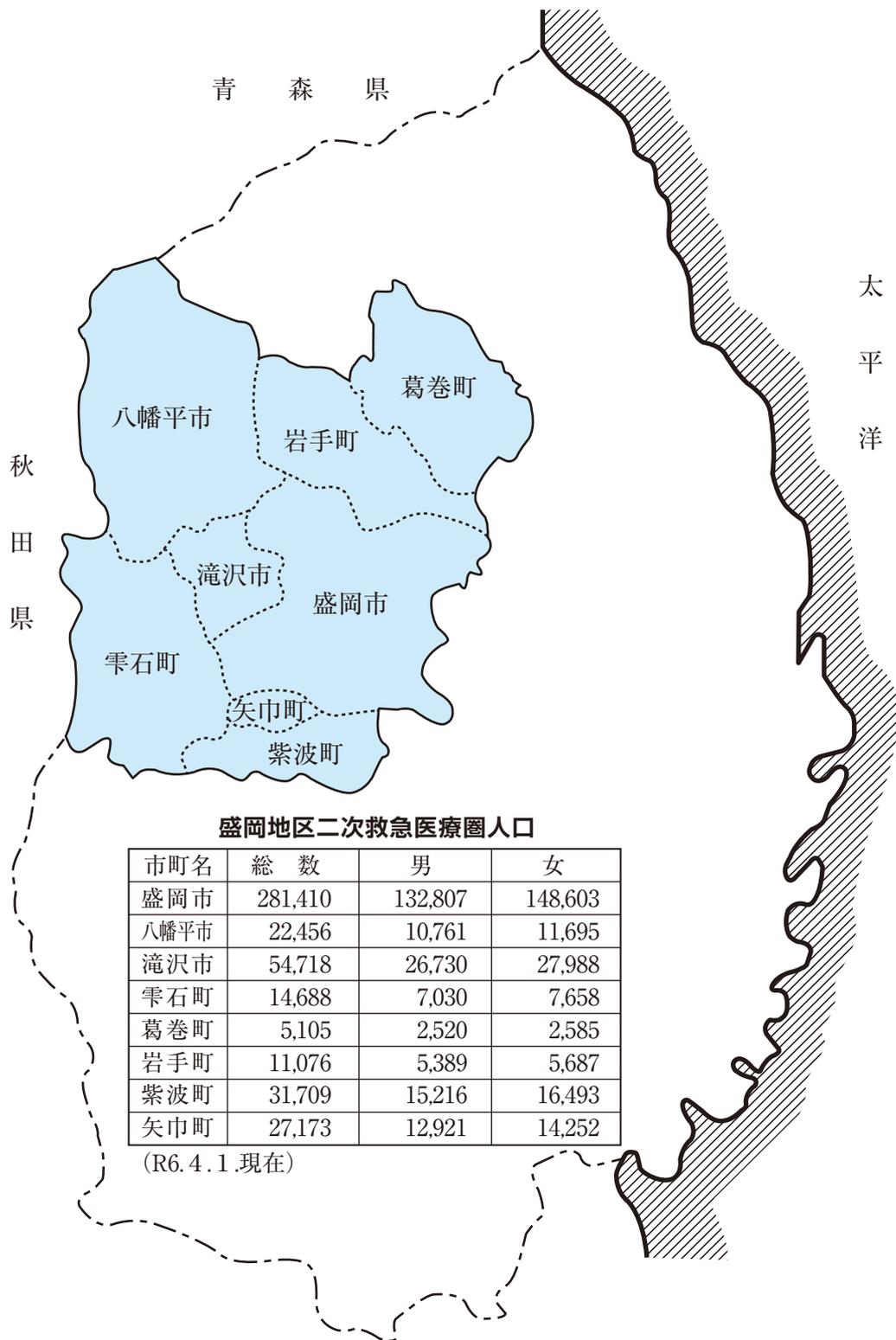


△1—盛岡市夜間急患診療所 神明町3-29 TEL 654-1080	⑧—盛岡つなぎ温泉病院 繫字尾入野64-9 TEL 689-2101
②—岩手県立中央病院 上田一丁目4-1 TEL 653-1151	⑨—盛岡友愛病院 永井12-10 TEL 638-2222
③—盛岡市立病院 本宮五丁目15-1 TEL 635-0101	⑩—川久保病院 津志田26-30-1 TEL 635-1305
④—盛岡赤十字病院 三本柳6-1-1 TEL 637-3111	⑪—国立病院機構盛岡医療センター 青山一丁目25-1 TEL 647-2195
△5—岩手医科大学附属内丸メディカルセンター 内丸19-1 TEL 613-6111	⑫—八角病院 好摩字夏間木70-190 TEL 682-0201
⑥—遠山病院 下ノ橋町6-14 TEL 651-2111	⑬—岩手医科大学附属病院 岩手県高度救命救急センター 矢巾町医大通二丁目1-1 TEL 613-7111
⑦—栃内病院 西仙北一丁目15-7 TEL 681-3575	



盛岡地区二次救急医療圏

(3市5町)



盛岡地区二次救急医療圏人口

市町名	総数	男	女
盛岡市	281,410	132,807	148,603
八幡平市	22,456	10,761	11,695
滝沢市	54,718	26,730	27,988
雫石町	14,688	7,030	7,658
葛巻町	5,105	2,520	2,585
岩手町	11,076	5,389	5,687
紫波町	31,709	15,216	16,493
矢巾町	27,173	12,921	14,252

(R6.4.1.現在)

宮城県

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ」2025年版

目 次

序	盛岡市医師会会長 盛岡地区二次救急医療対策委員会委員長 吉 田 耕太郎	7
I	盛岡市夜間急患診療所 48 年目のあゆみ	8
1.	実態報告	8
2.	経過報告・決算・予算	12
3.	診療所日誌から	13
4.	診療所の現状	18
①	出勤医名簿	18
②	役職員名簿	22
5.	運営協議会	23
	令和6年度第1回盛岡市夜間急患診療所運営協議会	23
II	岩手県高度救命救急センター報告	26
1.	疾病別患者数（令和5年）	27
2.	来院時間帯別入院患者数	28
3.	地域別入院患者数	28
4.	搬入先・搬入方法別入院患者数	29
5.	主な手術件数および内視鏡的治療件数	29
III	お盆及び年末年始の救急医療	30
1.	令和6年度お盆休み期間中の外来患者実態調査報告	30
2.	令和6年度年末年始外来患者実態調査報告	45
IV	盛岡地区二次救急医療体制 44 年目のあゆみ	54
1.	実態報告	54
2.	経過報告	102
3.	盛岡地区二次救急医療対策委員会	104
4.	盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会	112
5.	盛岡市医師会・盛岡市保健福祉部・子ども未来部との打合せ会	115
6.	第17回盛岡救急医療人のつどい	120
7.	第41回救急医療学術講演会（初期・二次・高次救急医療研修会）	125

8. 令和6年度盛岡地区二次救急医療関係市町会議	128
9. 岩手県小児救急電話相談事業（令和6年1月から令和6年12月までのまとめ）	131
V 救急医療年譜	137
VI 規程・協定書及び設置要項等資料	140
1. 盛岡市夜間急患診療所運営協議会会則	140
2. 災害時の医療救護活動に関する協定書	141
① 岩手県と岩手県医師会との協定書	142
② 岩手県医師会と盛岡市医師会との協定書	144
③ 盛岡市と盛岡市医師会との協定書	146
3. 盛岡地区二次救急医療対策委員会設置要項	148
VII 編集後記	150



序 「盛岡地区救急医療体制のあゆみ」

盛岡市医師会会長
盛岡地区二次救急医療対策委員会 委員長

吉 田 耕太郎

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ 2025」の発行にあたりご挨拶申し上げます。盛岡地区救急医療体制は昭和 51 年に「夜間急患診療所」が開設され、54 年には「盛岡地区二次救急医療体制」の運用が開始されました。さらに昭和 55 年には「高次救急センター」の開設、平成 24 年からはドクターヘリの運行も開始となり救急医療体制が整備されました。その後、令和元年に岩手医科大学附属病院が矢巾に移転した事で救急医療体制への影響が危惧されましたが、関係各位のご尽力で現在まで維持されています。また、3 年前から県立中央病院が救命救急センターに指定されて三次救急の更なる充実に貢献されています。救急体制整備に当初からご尽力を頂いた多くの方々と現在も運用にご協力いただいている全ての方々に心から感謝申し上げます。

年末年始はインフルエンザと新型コロナウイルス感染症が同時流行しました。連日多くの方々が医療機関を受診され、医療現場は混乱状態となりました。今年度は感染の予測情報をもとに体制を整えなければならないと考えております。また今後も新興感染症の発生を想定した体制構築を協議する場を、定期的に設ける必要があると思っています。昨年度は救急搬送困難事例を解消するために、脳卒中や心筋梗塞などの疾患別搬送先の選定など機能分化に取り組みました。今後も他疾患に関しても関連機関との連携を強化していきます。また小児救急に関しては、医師の高齢化も含め遠からず担当する医師不足のために休日一次救急、夜間急患診療所も含め体制の見直しが必要になっております。喫緊の課題として関係各位と協議を進めていきます。

以前から在宅や施設からの高齢者の救急搬送に関して、治療方針が不明のため搬送現場で DNAR (do not attempt resuscitation) 関連で混乱するケースが問題になっています。今後は、現在も医師会で研修会・市民公開講座などで啓発している ACP (アドバンス・ケア・プランニング) の充実を目指していきます。

近年、全国各地で自然災害が多く発生しています。岩手県でも大船渡で全国最大級の林野火災が発生しました。現在も定期的に防災訓練は行われていますが、災害はいつ何処で起こるか予測がつきませんので、医療機関、救急隊、行政等多くの方々と普段から顔の見える連携が重要となります。今後、その様な機会を多く設定していきたいと思っておりますのでご協力のほど宜しくお願い致します。

I 盛岡市夜間急患診療所 48年目のあゆみ

1. 実態報告

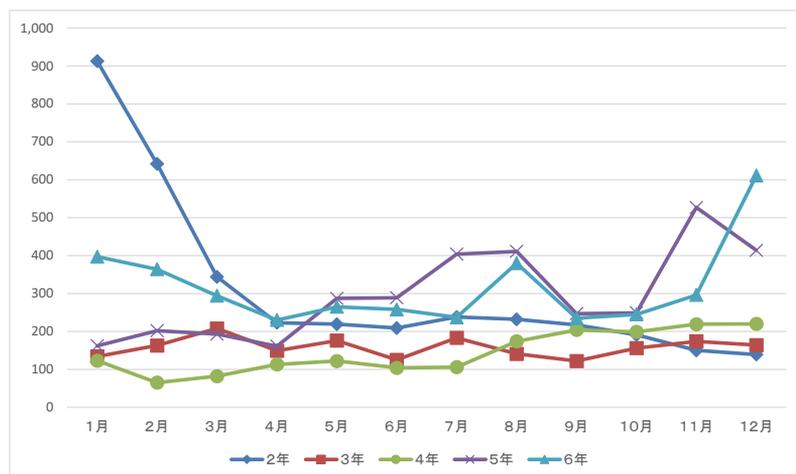
盛岡市医師会、盛岡市夜間急患診療所運営協議会委員

吉田 耕太郎 ・ 金子 博 純 ・ 工 藤 卓 次
金 濱 誠 己 ・ 久保田 公 宜 ・ 小 林 有 一
米 沢 俊 一 ・ 村 田 淳

盛岡市、盛岡市夜間急患診療所運営協議会事務局 ※R 6.12.31 現在

図1 過去5年間の月別患者分布 (人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	一日平均
2年	913	642	344	223	219	209	238	232	217	191	150	139	3,717	10.2
3年	134	163	208	149	176	125	183	141	122	156	174	164	1,895	5.2
4年	123	65	82	113	122	104	106	174	204	199	219	220	1,731	4.7
5年	162	202	193	161	287	289	404	411	247	249	527	414	3,546	9.7
6年	397	364	294	230	265	258	237	380	235	245	296	611	3,812	10.4



表(1) 患者総数及び科別実績 (人)

区分	月												合計	比率 (%)	前年 実績	増減	
	6年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月					
患者総数	397 (12.8)	364 (13.0)	294 (9.5)	230 (7.7)	265 (8.5)	258 (8.6)	237 (7.6)	380 (12.3)	235 (7.8)	245 (7.9)	296 (9.9)	611 (19.7)	3,812 (10.4)	100.0	3,546 (9.7)	266 (0.7)	
科別	内科	213 (3.0)	148 (5.3)	119 (3.8)	104 (3.5)	119 (3.8)	101 (3.4)	111 (3.6)	176 (5.7)	109 (3.6)	113 (3.6)	156 (5.2)	360 (11.6)	1,829 (5.0)	48.0	1,477 (4.0)	352 (1.0)
	小児科	184 (5.9)	216 (7.7)	175 (5.6)	126 (4.2)	146 (4.7)	157 (5.2)	126 (4.1)	204 (6.6)	126 (4.2)	132 (4.3)	140 (4.7)	251 (8.1)	1,983 (5.4)	52.0	2,069 (5.7)	△86 (△0.2)

- ・患者総数は3,812人で前年より266人の増。
- ・一日の患者数は平均10.4人。年間を通じては12月が最も多かった。
- ・内科と小児科との利用割合は、内科48%、小児科52%。

表(2) 年齢別患者分布

(人)

年齢	月	6年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
	1月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
年 齢 別	0	25	27	12	16	17	16	14	36	12	9	12	23	219	5.7	197	22
	1～5	78	81	79	52	69	75	70	88	54	57	53	100	856	22.5	942	△ 86
	6～12	64	84	65	50	49	52	37	67	50	52	60	95	725	19.0	754	△ 29
	13～15	19	26	18	10	17	16	10	16	14	15	20	47	228	6.0	212	16
	16～24	65	35	32	23	29	15	20	45	37	35	40	88	464	12.2	396	68
	25～34	47	39	20	20	28	21	18	22	23	16	32	61	347	9.1	298	49
	35～44	33	27	23	16	16	15	11	26	12	14	29	70	292	7.7	241	51
	45～54	23	13	16	13	13	12	17	19	14	15	23	67	245	6.4	206	39
	55～64	25	10	11	13	5	14	16	23	5	9	8	34	173	4.5	123	50
	65～74	6	8	9	7	8	10	13	22	9	11	13	18	134	3.5	89	45
	75～	12	14	9	10	14	12	11	16	5	12	6	8	129	3.4	88	41
計														3,812	100.0	3,546	266

・年齢別では、1～5歳児が最も多く、全体の22.5%を占めている。

表(3) 地域別患者分布

(人)

地域	月	6年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
	1月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
地 域 別	盛岡市	300	276	228	176	203	205	184	276	118	197	245	453	2,932	76.9	2,772	160
	雫石町	2	2	7	5	2	6	5	7	9	5	2	2	47	1.2	38	9
	葛巻町	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0.0	0	1
	岩手町	0	3	4	0	1	3	1	3	0	1	0	6	23	0.6	16	7
	八幡平市	2	1	2	3	5	2	0	4	1	2	1	6	29	0.8	31	△ 2
	滝沢市	35	50	27	18	18	15	18	37	1	18	26	61	344	9.0	312	32
	紫波町	12	8	8	7	3	7	12	12	21	9	8	26	116	3.0	110	6
	矢巾町	13	15	10	14	14	10	6	9	4	7	11	27	141	3.7	128	13
	その他の県内	10	3	3	0	2	4	3	7	5	1	0	6	41	1.1	55	△ 14
	県外	23	5	5	7	17	6	8	25	2	5	3	24	138	3.6	84	54
計														3,812	100.0	3,546	266

・地域別で1番多いのは盛岡市の2,932人(全体比76.9%)であり、前年より160人増。

・盛岡市に次いで2番目に多いのは滝沢市の344人(同9.0%)、3番目が矢巾町の141人(同3.7%)。

表(4) 曜日別患者分布

(人)

月		6年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
曜 日 別	月	66	42	31	33	23	27	50	55	42	28	43	119	559	14.7	423	136
	火	70	40	22	43	26	26	27	49	24	36	30	121	514	13.5	418	96
	水	57	31	37	23	28	27	23	51	23	35	34	34	403	10.6	412	△ 9
	木	34	49	31	20	41	29	29	60	21	35	34	39	422	11.1	426	△ 4
	金	37	41	43	19	38	29	23	41	24	25	29	47	396	10.4	425	△ 29
	土	75	90	82	44	58	63	53	74	50	43	73	118	823	21.6	818	5
	日	58	71	48	48	51	57	32	50	51	43	53	133	695	18.2	624	71
計														3,812	100.0	3,546	266

・曜日別では、土・日曜が多くなっており、合わせて39.8%を占めている。

表(5) 時間帯別患者分布

(人)

月		6年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
時 間 帯 別	午後7:00～	172	143	112	87	103	98	94	163	111	98	134	217	1,532	40.2	1,514	18
	午後8:00～	118	103	90	72	78	68	56	103	58	70	92	150	1,058	27.8	969	89
	午後9:00～	64	71	49	49	53	60	49	65	36	54	45	172	767	20.1	697	70
	午後10:00～	43	47	43	22	31	32	38	48	29	23	25	55	436	11.4	355	81
	午後11:00～	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	17	19	0.5	11	8
計														3,812	100.0	3,546	266

・時間帯別では、午後7:00～8:00までが多く、40.2%を占めている。

表(6) 時間帯別有救急度患者分布

(人)

月		6年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
時 間 帯 別	午後7:00～	28	38	20	18	13	17	14	16	13	7	23	35	242	36.9	250	△ 8
	午後8:00～	16	21	14	12	8	12	7	19	5	10	19	35	178	27.1	159	19
	午後9:00～	10	16	7	6	9	12	6	7	2	10	9	51	145	22.1	100	45
	午後10:00～	9	11	7	0	2	4	4	13	6	2	5	17	80	12.2	61	19
	午後11:00～	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	11	1.7	2	9
計														656	100.0	572	84

・有救急度患者は患者全体の17.2%を占め、時間帯別では、午後7:00～8:00までが多く、36.9%を占めている。

表(7) その他事項別人数

(人)

月		6年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	比率 (%)	前年 実績	増減
電 話 問 合	医師指導	14	10	0	3	1	21	0	3	1	1	2	4	40	1.4	139	△ 99
	看護師等助言	253	234	229	236	218	228	221	325	220	211	201	238	2,814	95.9	4,137	△ 1,323
救急車搬入		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0
二次救急転送		6	1	0	9	12	13	5	6	5	8	7	7	79	2.7	70	9
計														2,933	100.0	4,346	△ 1,413

・電話問合に対する看護師等の助言件数は2,814件で前年より1,323件減少した。

表（８） 転送先二次・三次救急病院別診療科別患者分布（令和６年１月～令和６年１２月）

救急病院	診療科	内科	小児科	外科	耳鼻科	泌尿器科	眼科	産婦人科	歯科	計
岩手県高度救命救急センター										0
岩手県立中央病院		28	24							52
盛岡市立病院										0
盛岡赤十字病院			13							13
岩手医科大学附属病院		3	3							6
遠山病院										0
栃内病院										0
高松病院										0
盛岡つなぎ温泉病院										0
盛岡友愛病院										0
川久保病院										0
盛岡医療センター			14							14
盛岡療育センター										0
計		31	54	0	0	0	0	0	0	85
比率（％）		36.5	63.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

- ・内科が36.5%、小児科が63.5%を占めている。
- ・岩手県立中央病院が最も多く、転送件数の約半数61.2%を占めている。

表（９） 転送患者疾患別分類（令和６年１月～令和６年１２月）

疾患名	人	疾患名	人
胃・腸炎（急性・感冒性他）	5	気管支炎（急性・喘息様他）	8
虫垂炎	6	気管支喘息	2
急性腹症	3	上気道炎（急性他）	1
腸重積	0	肺炎	2
腹痛	3	その他呼吸器系	1
便秘	1	インフルエンザ	0
イレウス	0	心臓疾患等循環器系	2
その他消化器系	4	脳血管障害等循環器系	0
脱水症	1	尿管結石等泌尿器系	2
嘔吐	0	その他	38
じんま疹・アナフィラキシー	6	計	85

- ・消化器系が27.1%、呼吸器系が16.5%を占めている。

2. 経過報告・決算・予算

経過報告

令和6年 9月30日
令和7年 2月17日

第1回盛岡市夜間急患診療所運営協議会
第2回盛岡市夜間急患診療所運営協議会

予算・決算

歳入

(円)

科目	5年度決算	6年度予算	説明
使用料	57,887,748	63,298,000	診療報酬収入
国庫補助金	4,474,487	0	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金
県支出金	300,000	0	新型インフルエンザ等患者入院医療機関等整備事業費補助金
雑入	429,220	1,000	事務手数料等、保険医療機関等向け医療提供体制設備整備交付金
合計	63,091,455	63,299,000	

歳出

(円)

科目	5年度決算	6年度予算	説明
報酬	18,583,985	19,691,000	管理者、看護師報酬
共済費	2,417,684	2,570,000	社会保険料
報償金	172,800	173,000	運営協議会委員謝金
旅費	304,768	289,000	研修会参加旅費、看護師通勤手当
需用費	5,935,452	5,099,000	消耗品、燃料、食糧、印刷、修繕、医薬材料
役務費	526,334	539,000	医療事故賠償保険、電話料、洗濯代
委託料	53,596,661	52,719,000	医療事務委託料、診療業務委託料等
使用料及び賃借料	2,553,676	3,009,000	医事会計システム借上料等
備品購入費	37,180	0	機械器具購入費
合計	84,128,540	84,089,000	

3. 診療日誌から

内 科

令和6年1月4日(木) C.K

67才♀ 39℃(発症2hしかたっていない)検査キット不足でもあり本人希望のコロナのみ処方して翌日受診を指示

23才♂ 38℃発症30分以内→同上だがコロナは不要と判断

39才♀ 前日からの発症→元気であり、与薬なしで帰宅

19才♂ 前日からの発熱—A型インフルエンザ

24才♀ 胃炎

令和6年1月10日(水) T.K

① 27才♀ COV19 ⊖ FluAB ⊖

② 43才♀ 急性上気道炎

③ 50才♀ COV19 + (1/7 ~ 1/11 療養期間) —1/8 診断受けるも療養期間内だが胸部痛あり娘と受診。

④ 19才♀ 昨夜より発熱 38.7℃

日中受診せず COV19 可能性大
喘息ありコロナ薬希望したため夜間には在庫ない事説明、解熱剤のみ処方

令和6年2月20日(火) Y.N

本日、甘日会で今年度幹事でしたが、明日夕方から雪なので、本日の方がよかったか。前回12/2(土)で15名、次回4/29で昭和の日なので大変そうだ。

令和6年3月12日(火) J.K

ゼロでした。

令和6年5月26日(日) H.K

紹介状等を円滑にするため電子カルテの導入が望ましい。

[回答]

現在、予算の都合により、電子カルテ導入の予定はございません。ご了承願います。

企画総務課

令和6年6月11日(火) N.C

1 19M 食物アレルギー 呼吸苦あり
県立中央病院
救急車 → 救急外来紹介状

令和6年6月13日(木) T.K

1、27才♂ 急性上気道炎

2、65才♂ 発熱 COV19 ⊖ FUAB ⊖

高血糖で県中救急紹介 息子と2人で紹介状持たせてタクシーに乗ったが、受診せず自宅に帰ったとの事!! 県中 Dr. には大変ご迷惑をかけてしまいました。

3、35才♂ 急性気管支炎

令和6年6月28日(金) Y.T

① 51才 女性 腹痛、下痢、発熱
急性胃腸炎の診断で処方

② 20才 男性 てんかんの治療中の方、息苦しさ

嘔気、下痢、発熱
急性胃腸炎の診断で処方

③ 85才 女性 心房細動でペースメーカー装着の方

咳・息苦しきで受診
感冒の診断で鎮咳薬処方

令和6年7月3日(水) N.M

1. 16才♀ めまい、はき気

2. 20才♂ だるさ、熱 COVID(-) インフル A(-) B(-)

本日は雨のためか2人です。

令和6年7月22日(月) Y.M

1. 71y.o F COVID-19 (+): 初感染
 2. 50y.o M COVID-19 (+): 初感染
 3. 36y.o M COVID-19 (+): 初感染
 4. 23y.o M COVID-19 (+)
- 4名全員陽性でした。 5日分処方

令和6年8月6日(火) S.T

No more Hisoshima!

令和6年8月10日(土) M.K

- 29才 ♀ 発熱 COVID-19 ⊖ インフル ⊖
37才 ♂ 咽頭痛
71才 ♀ 咽頭痛
24才 ♀ 咽頭痛
25才 ♂ 発熱 COVID-19 ⊖ インフル ⊖
22才 ♀ 頭痛、二日酔い

令和6年9月18日(水) K.I

明日の仕事のため、発熱後数時間での新型コロナウイルス検査希望される方もいました。翌日の再検査を勧めています。

令和6年9月24日(火) J.K

終わらまぎわに cold, cough が一人 47 ♀

令和6年10月1日(火) K.K

本日3名でした。

内、covid-19 1名

最近の暑い秋の天候で松茸が生えたまま腐っているとの事、心配です。

令和6年11月7日(木) K.N

室温 20℃

診察室としては低すぎだと思います。寒い!

[回答]

この度は、ご迷惑をお掛けしてしまい、申し訳ございませんでした。

今後は従事される皆さんや患者さんが寒い思いをしないように、エアコンの設定温度を上げる、ファンヒーターを使用するなど、対策を講じて参ります。

ご勤務中、寒いと感じられた際は、ご遠慮

なく看護師にお申し出ください。

企画総務課

令和6年11月23日(土) K.O

- 1 30才 F 急性気管支炎
- 2 60才 M インフルエンザ A
- 3 15才 F インフルエンザ A
- 4 43才 M 急性気管支炎
コロナ (-) Flu (-)
- 5 44才 F 感染性胃腸炎
- 6 43才 F COVID-19
- 7 24才 M 急性気管支炎 急性咽頭炎
コロナ (-) Flu (-)
- 8 15才 F インフルエンザ A
- 9 38才 M インフルエンザ A
- 10 71才 M 帯状疱疹
- 11 16才 M インフルエンザ A
- 12 33才 M COVID-19

連休初日、コロナ、インフルエンザ共に流行、予想通りとても忙しかった。

令和6年12月5日(木) K.K

本日は8名でした。

内、抗原検査施行6名、全員陰性でした。

1名は covid-19 みなし陽性。

本日、小院内では肺炎2名あり、いよいよ冬の感染症流行期を迎えた感でした。それもマイコ、コロナ、インフルのトリプル流行。「ウイルス干渉説」を真正面から否定する勢いです。

令和6年12月29日(日) T.S

インフルエンザ A 型 多数 27名

COVID-19 5名

尿路感染症、急性中耳炎、他 45名

令和6年12月31日(火) Y.N

52名 インフル A 多数 AM 1:40

コロナ(7名)

小児科

令和6年1月7日(日) T.M

小児科8名

22:30 来院の6M男子、嘔吐

浣腸で血便確認、腸重積疑いで日赤にお願いしました。

令和6年1月8日(月) Y.U

3名

A型インフルエンザ 1名

きのうの当番医は91名でした。

インフルエンザA 22名

アデノ 6名

コロナ 6名

溶連菌 1名

令和6年1月20日(土) T.M

小児科 8名 コロナ 2

インフルA 2

令和6年1月26日(金) Y.F

11名来院

FluB 2名

他に嘔吐の児が多かったです。

令和6年2月7日(水) T.T

2月にしては暖かい日が続き、今年は桜がさらに早く開花するのでは!! インフルエンザは相変わらず流行中。コロナも出てはいます。世間はすでに忘れた感あり。

小児科 7名

インフルエンザB 2名

同じ保育園の1才児2名嘔吐

内科5名

コロナ陽性あり

令和6年2月22日(木) W.Y

小児科7名

インフルB 3名

令和6年2月23日(金) T.M

小児科 10名

22:50 10才男児

S/O パンケーキ症候群

令和6年3月3日(日) A.S

4名

FluB 3名

令和6年3月13日(水) T.T

本日は寒い夜でした。インフルエンザBがまだ流行中、もうすぐ春が来る。花粉も飛ぶ。

小児科6名 インフルエンザB(2名)

内科5名

令和6年3月15日(金) M.K

7人

雫石では、コロナ、フル、まだまだ流行しています。

令和6年3月16日(土) T.M

小児科14名

19:00 トップの3才♀ S/O IgA血管炎で中央HPへお願いしました。

令和6年3月25日(月) A.M

小児科受診1名(感染性腸炎)のみ。

※内科は多数受診していました。

令和6年4月19日(金) Y.U

なんと 0名 でした。

令和6年5月1日(水) I.U

小児科

一般2名→うち1名精巣捻転 S/O で医大へ
ありがとうございました。

発熱3名

令和6年5月2日(木) S.O

6名

喘息大発作の入院、中央病院の先生方本当に
ありがとうございました。

令和6年6月29日(土) K.T

小児科受診 10名

(1) 嘔声・犬吠様咳嗽あり、との両親の訴え。

胸部聴診上、乾性ラ音聴取。

→急性RSウイルス感染症(疑)

当番の盛岡医療センターに紹介。

(2) 4才女児。臍から何か出ていて出血して
いる、との訴え。

1) 外尿道口 np 2) 肛門部：粘膜脱等
(一)、3) 臍口：経10～15mm大の赤色
の粘膜性腫溜を認め、一部出血している。

～#1：臍部、#2：子宮胞、#3：その
他…何か??

小児外科・産婦人科的対応が必要と考えられるので、
県立中央病院に紹介。

外科当直、産婦人科外来を経て、私の外来に
紹介されました。腫瘤中央に尿道口を同定し、
『尿道脱』と診断しました。小児外科に依頼し、
保存的に対応しました。ご紹介いただきあり
がとうございました。 中央病院小児科 K

令和6年6月30日(日) Y.K

発熱 7名、一般 5名、計 12名

今日は激しい雨の日でしたが、けっこう患者
さんいらっしゃいました。

コロナ、インフル流行している学校もある
そうです。

令和6年7月31日(水) H.M

12歳の気管支喘息大発作～呼吸不全を盛
岡医療センターに紹介させていただき SpO2
80%台なので救急車で搬送した。S先生あり
がとうございました。

他便秘2人、発熱1人、じんましん1人
計小児科5人でした。

令和6年8月8日(木) T.T

最近は亜熱帯性気候のためかスコールの様
な大雨が降り大変です。手足口病、マイコ
プラズマ肺炎 RSV など感染症で病棟が埋まっ
ています。

小児科 3名(蕁麻疹、リンパ肥大、腹痛)

電話で連絡の魚の骨をひっかけた乳児→医
大へ案内

RSV感染、呼吸悪化→中央病院へ案内

内科4名

令和6年8月12日(月) T.M

小児科19名

8才亀頭包皮の翻転もどせず、県中M先生
にうけて頂きました。

令和6年8月20日(火) A.T

小児科9名

・4才、発熱：喘鳴・陥没呼吸、SPO2 91% (吸
入で改善せず)

日赤を紹介しました。ありがとうございました。

・3人兄弟と母親：ジャガイモによる食中毒
の疑い。昼食で、4人ジャガバターを食べ
た後、4人とも嘔気(嘔吐)腹痛、けん怠感、

不快感。受診時は回復傾向。ジャガイモは家庭自家栽培のもの！

ネットで調べたら、毎年ジャガイモ食中毒が発生しているそうです。家庭や学校で育てて皆でたべたというケースが多いそうです。

令和6年8月30日（金） Y.F

小児の来院0

成人の来院1名

令和6年10月30日（水） N.T

11月になろうとする頃、気温も下がってきています。マイコプラズマの流行はまだ続いています。クラリスが効きにくく、トスフロも効かない例もあります。

小児科 1名（喘鳴の強い児）

内科 7名

（コロナ多数）

令和6年10月31日（木） K.T

6名受診

1 アナフィラキシーでアドレナリン筋注

2 2日間持続する腹痛

の2名を中央病院へ紹介しました。

令和6年11月15日（金） T.N

小児科6名でした。

令和6年12月20日（金） Y.F

19時からつぎつぎ発熱の児来院しました。
9名

COVID-19 1名

FluA 5名

陰性 2名

他 1名

令和6年12月25日（水） T.T

本年最後の出務。インフルエンザ大流行、年末年始が大変そうだ。来年はどんな年になるか!!

小児科 10名

インフルエンザA 6名、疑い1名

胃腸炎、結膜炎、蕁麻疹、各1名

内科7名

令和6年12月27日（金） H.M

小児科5名

うちインフルエンザA 3名でした。

令和6年12月30日（月） A.M

小児科24名、ほぼFluAでした。

令和6年12月31日（火） Y.U

きのうの当番医、受付207名（キャンセルが10名ほど）

終了は20時30分。受付をしていなくなるので電話で呼び出す手間がかかりました。3月まで毎月当番医があるのでやり方を考えなければ…。

最後の方は、集中力がなくなりやっぱり私年をとっているんだと実感しました。当番医をこれからどうするか早急に検討しましょう。

本日、内科、小児科合わせて76人

小児科 29人

インフル 8人

コロナ 0人

きのうの今日でへろへろです。

4. 診療所の現状

① 夜間急患診療所出動医名簿

令和6年1月1日～令和6年12月31日

青山 洋 二	向中野二丁目 54-18	ゆい内科呼吸器科クリニック
朝倉 賀 子	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
阿部 弘 一	菜園二丁目 5-29	あべ菜園内科クリニック
阿部 礼 司	長橋町 17-45	あべ内科・消化器科クリニック
池田 亘 政	上太田弘法清水 10-3	池田内科
石井 基 嗣	中ノ橋通一丁目 420 水晶堂ビル 4F	いしい内科・糖尿病クリニック
石井 基 弘	東緑が丘 23-26	石井内科消化器科医院
伊藤 俊 一	津志田 26-30-1	川久保病院 内科
伊藤 雅 天	津志田 26-30-1	川久保病院 内科
白井 雄 太	松園二丁目 2-10	白井循環器呼吸器内科
白井 由紀子	松園二丁目 2-10	白井循環器呼吸器内科
打越 崇	西松園三丁目 22-3	松園第二病院
梅木 郁 美	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
永塚 健	緑が丘四丁目 1-7	えいづか内科胃腸科クリニック
遠藤 昌 樹	大通三丁目 9-3	開運橋消化器内科クリニック
小穴 修 平	永井 17-36-1	いわて飯岡駅前内科クリニック
及川 寛 太	上田一丁目 18-38	おいかわ内科クリニック
大浦 慎之介	津志田西二丁目 13-3	大浦内科・歯科クリニック
大澤 宏 之	茶畑二丁目 8-3	大澤クリニック
大庭 英 樹	盛岡駅前通 13-8	盛岡駅前おおば脳神経内科クリニック
大平 篤 志	梨木町 2-2	おおひら内科循環器科クリニック
大屋 敬一郎	西青山一丁目 16-43	大屋内科胃腸科クリニック
荻野 義 信	本宮一丁目 6-12	荻野病院
小田 淳 一	みたけ四丁目 36-32	盛岡さくらクリニック
小田 翔 一	みたけ四丁目 36-32	盛岡さくらクリニック
織笠 俊 輔		
角田 亮	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
桂 永 行	本宮字小板小瀬 13-2	かつら内科クリニック
加藤 隆 幸	天神町 11-8	加賀野消化器内科・内科クリニック
加藤 幸	津志田 26-30-1	川久保病院 内科
金澤 格	上堂一丁目 18-24	かなざわ内科クリニック
金矢 宣 紀	津志田中央三丁目 7-7	循環器内科 金矢クリニック

金子博純	乙部 13-135-3	金子胃腸科内科
金濱誠己	向中野三丁目 10-6	杜のこどもクリニック
鎌田潤也	大通二丁目 7-23	おおどおり鎌田内科クリニック
鎌田広基	本宮二丁目 20-1	鎌田内科クリニック
上原充郎	岩手郡雫石町八卦 1-16	上原小児科医院
菊池光洋	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 放射線治療科
岸本功太郎	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
金正門	向中野五丁目 18-30	まさと脳神経内科クリニック
金正めぐみ	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
久喜寛之	緑が丘三丁目 2-34	久喜内科・脳神経内科医院
工藤卓次	前九年三丁目 16-15	くどう医院
工藤宏紀	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
工藤真大	中ノ橋通一丁目 7-13	工藤内科ハートクリニック
久保田公宜	大館町 26-10	久保田医院
久保田望	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
黒田咲季	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
肥田龍彦	菜園一丁目 4-7	菜園循環器内科医院
肥田親彦	青山一丁目 25-1	国立病院機構 盛岡医療センター
小坂崇	永井 24-3-7	小坂消化器内科クリニック
児島陽一	みたけ三丁目 11-36	児島内科医院
小谷康慈	上厨川字横長根 76-3	こたに内科・甲状腺クリニック
小林仁	盛岡駅西通二丁目 9-1	マリオス小林内科クリニック
小林有一	三本柳 11-12-4	小林小児科クリニック
才川博敬	菜園一丁目 6-13 公園通りプラザビル 2F	公園通りクリニック
齋藤明宏	月が丘二丁目 2-60	さいとう小児科クリニック
齊藤慎二	みたけ四丁目 11-46	みたけ消化器内科クリニック
斉藤宏之	みたけ二丁目 21-42	みんなのクリニック
佐々木駿	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
佐々木透	高松二丁目 27-27	おはようクリニック
佐々木朋子	青山一丁目 25-1	国立病院機構 盛岡医療センター
佐々木正孝	中野一丁目 27-10	ささき医院
佐々木美香	青山一丁目 25-1	国立病院機構 盛岡医療センター
佐藤邦彦	中ノ橋通二丁目 3-2	もりおか胃腸科内科クリニック
佐藤悠	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
佐藤由香子	下ノ橋町 4-15	船山内科クリニック
澤田哲伸	上田一丁目 6-11	澤田内科医院
塩畑健	中ノ橋通り一丁目 6-8 monaka3F	しおはたファミリークリニック

小豆嶋 立 頼	仙北三丁目 13-20	小豆嶋胃腸科内科クリニック
菅 原 健	大通一丁目 3-4	大通りクリニック
鈴木 一 彦	津志田 13-18-4	盛岡南病院
鈴木 知 己	八幡町 2-17	鈴木内科医院
高野 長 邦	三本柳 6-1-1	盛岡赤十字病院 小児科
高橋 明 雄	上田字松屋敷 11-14	子どもは未来もりおかこどもクリニック
高橋 智	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
高橋 進	下米内二丁目 4-12	中津川病院
滝川 佐波子	西松園三丁目 22-1	西松園内科クリニック
滝川 康 裕	西松園三丁目 22-1	西松園内科クリニック
田口 真理奈	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
武田 薫	花巻市東宮野目 13-112	介護老人保健施設サンホーム
田中 健太郎	紫波郡矢巾町大字西徳田 5-2-4	けんたろうこどもクリニック
田村 悦 子	下ノ橋町 6-14	遠山病院 内科
千田 明 紀	東安庭一丁目 23-60	ちだ内科・外科クリニック
千葉 直 樹	中央通三丁目 1-10	ちばクリニック
千葉 芳 久	向中野三丁目 10-3	本宮Cクリニック
栃内 秀 貴	神明町 10-35	栃内内科医院
中島 淳	月が丘二丁目 8-30	中島内科クリニック
中塚 明 彦	中太田新田 25-270	なかつか消化器内科クリニック
中村 富 雄	上厨川字杉原 50-47	中村こどもクリニック
中村 義 明	若園町 2-5	中村内科医院
西島 浅 香	上田一丁目 19-11	西島こどもクリニック
西野 美奈子	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
二宮 一 見	愛宕町 2-47	二宮内科クリニック
二宮 由香里	愛宕町 2-47	二宮内科クリニック
原田 達 男	山岸三丁目 2-1 山岸中央ビル 1F	原田内科脳神経機能クリニック
樋口 清 一	津志田西二丁目 13-3	大浦内科・歯科クリニック
平井 大 士	紫波町日詰字下丸森 138-2	平井医院
平井 みなみ	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 消化器内科
平野 邦 夫	西青山二丁目 18-60	平野医院
藤井 裕	八幡平市柏台 2-8-2	東八幡平病院
藤島 敏 智	愛宕町 4-18	藤島内科医院
本間 博 之	上田二丁目 20-13	本間内科医院
米沢 俊 一	上田字松屋敷 11-14	子どもは未来もりおかこどもクリニック
前多 治 雄	盛岡駅前通 9-10 丸善ビル 5F	前多小児科クリニック

蒔 苗 剛	津志田 26-30-1	川久保病院 小児科
増 本 佳 泰	青山一丁目 25-1	国立病院機構 盛岡医療センター
松 嶋 大	仙北二丁目 1-20	なないろのとびら診療所
松 本 敦	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
三 浦 義 孝	中野一丁目 16-10	みうら小児科
三 上 仁	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
水 沼 吉 美	中央通二丁目 11-12 明治生命館 1F	水沼内科循環器クリニック
峯 岸 英 博	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
三 船 俊 英	天昌寺町 9-10	三船内科
宮 川 聖 史	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 糖尿病・代謝・内分泌内科
宮 本 康 弘	上厨川字杉原 101-4	みやもと内科クリニック
武 藤 秀 和	紫波中央駅前 2-3-94	紫波中央小児科
村 田 淳	紺屋町 3-4	村田小児科医院
村 田 望	北飯岡一丁目 2-25	ゆうあいの街クリニック
森 田 順	緑が丘四丁目 1-50 アスティ緑が丘 1F	森田小児科医院
森 田 友 明	緑が丘四丁目 1-50 アスティ緑が丘 1F	森田小児科医院
森 谷 耕太郎	高松三丁目 11-29	森谷医院
八 木 千 栄	北飯岡三丁目 20-3	もりおか往診ホームケアクリニック
八 木 悠 貴	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
山 内 航	上田一丁目 4-1	県立中央病院 小児科
山 田 峻	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 消化器内科
山 田 宏 之	津志田中央二丁目 18-31	やまだ胃腸内科クリニック
吉 田 研 一	梨木町 2-13	吉田小児科
吉 田 信 一	西仙北一丁目 30-50	よしだクリニック
吉 田 俊 巳	東見前 8-20-16	吉田消化器科内科
和 田 泰 格	紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1	岩手医大 小児科
渡 邊 活 見	高松三丁目 9-8	わたなべ内科・神経内科クリニック
渡 邊 健	永井 12-10	盛岡友愛病院

② 役員名簿

(令和6年12月31日現在)

開設者	盛岡市長	内 舘 茂
管理者	盛岡市医師会会長	吉 田 耕太郎
運営協議会		
委 員	盛岡市医師会副会長	金 子 博 純
〃	盛岡市医師会副会長	工 藤 卓 次
〃	盛岡市医師会理事	金 濱 誠 己
〃	〃	久保田 公 宜
〃	〃	小 林 有 一
〃	盛岡市医師会小児科医会会長	米 沢 俊 一
〃	盛岡市医師会小児科医会幹事	村 田 淳
〃	盛岡薬剤師会会長	佐々木 俊
〃	盛岡薬剤師会副会長	佐々木 宣 好
〃	岩手県看護協会会長	相 馬 一二三
〃	盛岡市保健福祉部保健衛生監	川 目 昌 竜
〃	盛岡市保健所次長	高 橋 宏 英
事務局	盛岡市医師会事務局長	及 川 敬一郎
〃	盛岡市医師会事務局課長	佐 藤 泰 之
〃	盛岡市医師会事務局課長	谷 藤 慎 治
〃	盛岡市保健所企画総務課長	田 村 聡
〃	盛岡市保健所企画総務課長補佐	西 條 幸 希
〃	盛岡市保健所企画総務課企画係長	板 垣 充
〃	盛岡市保健所企画総務課企画係主任	山 二 翔 太

5. 運営協議会

令和6年度 第1回盛岡市夜間急患診療所運営協議会

日 時：令和6年9月30日（月） 午後7時
場 所：盛岡市医師会館 会議室



令和6年9月30日(月)午後7時から盛岡市医師会館会議室において開催された。

出席した委員の紹介があった後、会長、副会長が選出された。会長に川目昌竜 委員、副会長に金子博純 委員が選ばれた。

次に、会長である川目 昌竜 盛岡市保健福祉部保健衛生監、および管理者の吉田耕太郎 盛岡市医師会会長から挨拶があった。

1. 報告事項

1) 令和5年度夜間急患診療所統計報告

令和4年度に比べて令和5年度の受診者数は増加しており、小児科は2,311人（令和4年度比+1,139人）、内科は1,733人（令和4年度比+887人）であった。令和5年度の収入は約5,750万円（令和4年度比+2,500万円）増加していたが、支出も多く、約2,350万円の赤字であった。

2) 令和6年度第1回薬品選定結果について

(1) 採用医薬品の廃止、採用について

ブコラム口腔液2.5mg、5.0mg、フランドルテープ40mgは廃止しない。

マイスリー錠10mg、ミノマイシンカプセル50mg、ソリタT配合2号、ソセゴン注射液15mg、ボルタレン錠25mg、ピソルボン吸入液0.2%は廃止、ジアゼパム注射液10mg「NIG」を採用することとなった。

2. 協議事項

1) 溶連菌、RSV等各種検査の再開、及びマイコプラズマ抗原検査の導入について

重症化する可能性があるため溶連菌、RSV検査は再開することに決まった。アデノウイルス抗原検査、ロタウイルス抗原検査、マイコプラズマ抗原検査については、緊急性が低いという意見があり導入は見送りとなった。

2) 診療所内の土足の解禁について

雨や雪の日には、土足で入ると診療所内に水が溜まる、暖房で雪が溶けるため水滴が診療所内に広がる、診療中に看護師や他のスタッフが拭き掃除を行う必要があり業務が増える、患者が少ない時は対応可能だが混雑時には難しい等の現場の意見が出た。

発熱外来では土足のまま診察室に入るが、一般の患者はスリッパに履き替えている。現在のところ、スリッパに対する不潔感や煩わしさの苦情は聞いていないが、二度履きは避けるべきであり、その都度消毒したスリッパを使用するのが望ましい。当面はスリッパの使用を継続し、スリッパの在庫数を確認・検討するなどして、二度履きを避けるための体制を検討することとなった。

3) X線撮影装置の不具合による今後の方針について

画像をデジタル化して診察室内の画面に表示するFCRシステムに不具合が発生し、年齢が正しく表示されない場合がある。システムの買い替えの必要性があるが、現在の財政状況では早急な予算化が困難である、との説明があった。

年齢が正しく表示されなくても、画像と名前がはっきりしていれば使用可能であるため、現状のシステムを継続使用し、財政状況が改善するまでの間、必要性を訴えるための資料を準備することが決まった。

4) 採用医薬品の後発品の使用について

夜間急患診療所で使用されている医薬品の採用には時間がかかること、コロナ禍以降、医薬品の出荷調整品目が増加し、調達困難な状況が続いている等の現状について説明があり、安定的

な医薬品の確保のため、先発品を採用している医薬品であれば後発品も使用できる体制にしたいと要望があった。

後発品の採用にあたっては、盛岡薬剤師会の委員に助言を得て、採用が決定した場合は、運営協議会委員に報告し、採用医薬品のリストを内科・小児科それぞれに設置することとした。

5) 小児科における3か月未満の乳児・新生児の受診対応について

3か月未満の乳児・新生児の受診対応にばらつきがあり、看護師が対応に苦慮しているため、統一的な基準を設けることができないか要望があった。

統一基準を設けるのは難しいため、当日の担当医師が来た際に、医師に受け入れ方針を確認し、その日ごとの方針を決定することとした。

3. その他

1) 市立病院の未利用地への移転について
今年の2月に、市立病院の未利用地への移転について各委員に説明をしたが、移転の話は中止となった。今後の方向性は未定である。

2) 人材の配置について

5月22日以降、発熱患者のトリアージとして1名の受付案内事務員を採用していたが、今年度いっぱい事務員の配置を終了する予定である。

(小林有一)

出席者一覧

運協役職	氏名	団体及び職名		
管理者	吉 田 耕太郎	盛岡市医師会	会長	
委 員	金 子 博 純		副会長	
	工 藤 卓 次		副会長	
	金 濱 誠 己		理事	
	久保田 公 宜		理事	
	小 林 有 一		理事	
	米 沢 俊 一		小児科医会会長	
	村 田 淳		小児科医会幹事	
	佐々木 俊		盛岡薬剤師会	会長
	佐々木 宣 好			副会長
	相 馬 一二三		岩手県看護協会	会長
	川 目 昌 竜		盛岡市	保健福祉部保健衛生監
	高 橋 宏 英		盛岡市	保健所次長
	従事者		川 村 康 子	夜間急患診療所
事務局	及 川 敬一郎	盛岡市医師会事務局	事務局長	
	佐 藤 泰 之		業務課長	
	谷 藤 慎 治		総務課長	
	田 村 聡	盛岡市保健所	企画総務課長	
	西 條 幸 希		企画総務課長補佐	
	板 垣 充		企画係長	
	滝 村 步 美		主任	
	山 二 翔 太		主任	

Ⅱ 岩手県高度救命救急センター報告

(令和6年1月～12月)

診療状況

1. 疾病別患者数
2. 来院時間帯別入院患者数
3. 地域別入院患者数
4. 搬入先・搬入方法別入院患者数
5. 主な手術件数および内視鏡的治療件数

診 療 状 況

1. 疾病別患者数

1) 令和6年1月～12月

全身疾患	患者数	患者数	患者数
感染症	111 (27)	栄養疾患	0 (0)
寄生虫病	0 (0)	代謝疾患	45 (7)
新生物	144 (11)	免疫異常	1 (0)
内分泌疾患	0 (0)		
小 計			301 (45)

系統疾患	患者数	患者数	患者数
血液・造血器疾患	26 (2)	泌尿器生殖器疾患	132 (50)
精神障害	163 (10)	周産期	0 (0)
神経・感覚器疾患 (てんかんを含む)	196 (14)	皮膚皮下組織	26 (4)
心不全・不整脈など	362 (15)	筋骨格・結合組織	56 (29)
虚血性心疾患など	284 (11)	先天異常	3 (0)
(心筋梗塞・狭心症・動脈瘤)		妊娠	0 (0)
脳血管障害	396 (13)	症状・徴候	334 (33)
呼吸器疾患	216 (78)	診断不明確	0 (0)
消化器疾患	460 (187)	その他	30 (5)
小 計			2684 (451)

損傷・中毒	患者数				
	交通事故	その他の事故	事故の後遺症	故意的加害	小 計
骨折	41 (38)	288 (230)	0 (0)	13 (4)	342 (272)
関節脱臼	0 (0)	8 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (2)
捻挫	13 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (3)
頭蓋内損傷	15 (10)	114 (85)	0 (0)	2 (2)	131 (97)
内臓損傷	13 (12)	11 (10)	0 (0)	2 (1)	26 (23)
開放創	5 (0)	41 (6)	0 (0)	11 (3)	57 (9)
血管損傷	0 (0)	3 (1)	0 (0)	2 (1)	5 (2)
表在損傷	1 (1)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)
挫創	20 (3)	39 (6)	0 (0)	1 (0)	60 (9)
圧挫損傷	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
異物	0 (0)	16 (9)	0 (0)	0 (0)	16 (9)
熱傷	0 (0)	19 (10)	0 (0)	1 (1)	20 (11)
神経損傷	5 (3)	17 (14)	0 (0)	4 (1)	26 (18)
中毒・薬物中毒	0 (0)	6 (5)	0 (0)	44 (15)	50 (20)
毒作用	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (1)
後遺症	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他・外因作用	10 (5)	61 (15)	0 (0)	7 (2)	78 (22)
外科・内科合併症	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
小 計	123 (75)	628 (394)	0 (0)	87 (30)	838 (499)
合 計					3,823 (995)

総患者数 3,823人 () はセンター入院患者数 995人

2. 来院時間帯別入院患者数

1) 令和6年1月～12月

月	AM0時～AM6時		AM6時～AM9時		AM9時～PM5時		PM5時～PM8時		PM8時～PM12時		小計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1月	6	2	5	1	24	14	9	4	5	6	49	27	76
2月	3	2	3	4	35	23	7	3	9	4	57	36	93
3月	4	1	3	3	36	11	7	4	9	6	59	25	84
4月	1	1	3	3	25	17	5	3	7	3	41	27	68
5月	4	3	6	2	31	16	8	7	4	4	53	32	85
6月	5	2	3	5	32	18	6	8	6	6	52	39	91
7月	2	1	4	2	31	17	10	3	3	3	50	26	76
8月	2	4	2	1	26	19	9	6	3	2	42	32	74
9月	4	2	2	1	26	23	12	9	2	4	46	39	85
10月	4	3	3	4	30	21	7	7	6	1	50	36	86
11月	3	2	2	2	31	19	11	6	5	3	52	32	84
12月	4	0	3	1	31	20	15	7	6	6	59	34	93
合計	42	23	39	29	358	218	106	67	65	48	610	385	995

3. 地域別入院患者数

1) 令和6年1月～12月

地域別	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均	比率
盛岡市		21	29	34	22	20	36	27	27	32	27	25	33	333	27.8	33.5%
滝沢市		6	4	3	6	6	2	5	1	4	4	5	4	50	4.2	5.0%
八幡平市・岩手郡		9	7	9	4	10	12	3	6	2	4	9	7	82	6.8	8.2%
紫波郡		19	17	21	20	16	18	19	15	21	24	25	26	241	20.1	24.2%
花巻市		6	10	7	5	10	8	3	10	6	7	4	8	84	7.0	8.4%
北上市・西和賀町		2	2	1		3	1	3	2	2	1	2	3	22	1.8	2.2%
奥州市・水沢江刺		1	4	1	1	1	3	3	4	2	2	5	1	28	2.3	2.8%
一関市・西磐井郡		2	3			2		1		4	3	2		17	1.4	1.7%
大船渡市・気仙郡		1	2	1			1		1				1	7	0.6	0.7%
釜石市・遠野市		3	2	1	2	7	5	2	3	3	5	2		35	2.9	3.5%
宮古市・下閉伊郡		2	3	2	3	5		3	1	4	3	1	6	33	2.8	3.3%
久慈市・九戸郡			1	2		1				2	1			7	0.6	0.7%
二戸市・二戸郡			2			2	2	1	1		3		1	12	1.0	1.2%
青森県		1		1	1			1			1			5	0.4	0.5%
秋田県		1	2		1	1	1	2				1	1	10	0.8	1.0%
宮城県			4		2			2			1	1	1	11	0.9	1.1%
その他の		2	1	1	1	1	2	1	3	3		2	1	18	1.5	1.8%
合計		76	93	84	68	85	91	76	74	85	86	84	93	995	82.9	100.0%

4. 搬入先・搬入方法別入院患者数

1) 令和6年1月～12月

搬入先 区分	初期救急医療施設			2次救急医療施設			3次救急医療施設			その他			小計		計
	救急車	その他	計	救急車	その他	計	救急車	その他	計	救急車	その他	計	救急車	その他	
1月	11	4	15	7	5	12	1	0	1	42	6	48	61	15	76
2月	18	1	19	13	3	16	2	0	2	48	8	56	81	12	93
3月	22	1	23	10	3	13	1	0	1	43	4	47	76	8	84
4月	8	3	11	8	6	14	0	0	0	36	7	43	52	16	68
5月	16	3	19	20	2	22	1	0	1	37	6	43	74	11	85
6月	21	2	23	14	10	24	0	0	0	36	8	44	71	20	91
7月	18	0	18	12	4	16	0	0	0	32	10	42	62	14	76
8月	17	3	20	10	5	15	0	0	0	34	5	39	61	13	74
9月	13	1	14	23	4	27	0	0	0	39	5	44	75	10	85
10月	14	3	17	5	5	10	1	0	1	50	8	58	70	16	86
11月	18	3	21	12	3	15	0	0	0	41	7	48	71	13	84
12月	24	2	26	16	6	22	1	0	1	40	4	44	81	12	93
合計	200	26	226	150	56	206	7	0	7	478	78	556	835	160	995

5. 主な手術件数および内視鏡的治療件数

1) 令和6年1月～12月

月	頭部疾患	胸部疾患	腹部疾患	四肢・骨盤疾患	脊椎・脊髄損傷	内視鏡的治療 対象疾患	計
1月	6	1	5	14	1	10	37
2月	7	2	5	17	6	7	44
3月	4	1	5	10	3	9	32
4月	4		2	22		2	30
5月	3	2	7	10	6	14	42
6月	3	1	2	14	6	4	30
7月	1		6	19	8	10	44
8月	8	2	3	17	6	2	38
9月	7	1	1	15	5	8	37
10月	6	3	2	26	8	3	48
11月	3		1	20	5	12	41
12月	9	1	8	18	4	9	49
合計	61	14	47	202	58	90	472

Ⅲ お盆及び年末年始の救急医療

1. 令和6年度お盆休み期間中の外来患者数 実態調査報告

令和6年8月10日(土)～18日(日)の期間に盛岡市内の医療機関を受診した外来患者数の調査結果を報告します。

対象医療機関は27病院、214診療所、計241医療機関で、アンケートの回収率は100%であった(表1)。

医療機関の診療科別診療所および病院数を表2に、上記期間の診療状況を表3に示す。

表1. アンケート回収率(盛岡市)

	医療機関数	回収数	回収率
病院	27	27	100%
診療所	214	214	100%
合計	241	241	100%

※予防医学協会・対がん協会・健康管理センターは除く

表2. 診療科別診療所及び病院数

	診療科	医療機関数	計
診療所	内科	99	214
	外科	41	
	産婦人科	11	
	小児科	14	
	眼科	19	
	皮膚・泌尿器科	18	
	耳鼻咽喉科	11	
	夜間急患診療所	1	
病院	二次救急病院	11	27
	その他の病院	16	

表3. お盆期間中の休診・診療状況(240医療機関)

	8月10日 (土)	8月11日 (日)	8月12日 (月・祝)	8月13日 (火)	8月14日 (水)	8月15日 (木)	8月16日 (金)	8月17日 (土)	8月18日 (日)
全日休診	49	232	231	204	219	222	202	97	231
半日休診	171	1	0	9	1	0	5	125	3
診療	20	2	5	27	20	18	33	18	2
休日救急当番医	0	5	4	0	0	0	0	0	4
合計	240	240	240	240	240	240	240	240	240

※盛岡市夜間急患診療所はのぞく

8月10日(土)は診療所：6,474名(91%)／病院：640名(9%)、8月17日(土)は診療所：5,930名(88%)／病院：799(12%)であった。いずれも長期休暇中の前後の土曜日であった

め、多くの診療所が開設しており、患者数は8割以上を診療所が占めた。

8月11日(日)は診療所：502名(60%)／病院：323名(40%)、8月12日(月・祝)は診療所：

表 4. 病院及び診療所（令和 6 年 8 月 10 日～ 8 月 18 日）の来院患者数（時間帯別）

月日	曜日	時間 期間	AM0時	AM6時	AM9時	PM5時	PM8時	合計
			～ AM6時	～ AM9時	～ PM5時	～ PM8時	～ PM12時	
8 月 10 日	土	病院	11	33	536	29	31	640
		診療所	0	383	6,041	39	11	6,474
		合 計	11	416	6,577	68	42	7,114
8 月 11 日	日	病院	17	22	224	27	33	323
		診療所	1	0	469	28	4	502
		合 計	18	22	693	55	37	825
8 月 12 日	月・祝	病院	22	28	160	24	22	256
		診療所	0	22	613	42	18	695
		合 計	22	50	773	66	40	951
8 月 13 日	火	病院	18	178	3,524	35	24	3,779
		診療所	0	34	670	81	15	800
		合 計	18	212	4,194	116	39	4,579
8 月 14 日	水	病院	12	198	3,178	23	29	3,440
		診療所	0	8	238	79	13	338
		合 計	12	206	3,416	102	42	3,778
8 月 15 日	木	病院	15	188	2,876	40	26	3,145
		診療所	0	11	240	33	15	299
		合 計	15	199	3,116	73	41	3,444
8 月 16 日	金	病院	13	177	2,906	32	27	3,155
		診療所	0	30	984	103	11	1,128
		合 計	13	207	3,890	135	38	4,283
8 月 17 日	土	病院	13	44	678	32	32	799
		診療所	1	285	5,586	49	9	5,930
		合 計	14	329	6,264	81	41	6,729
8 月 18 日	日	病院	14	20	98	37	27	196
		診療所	1	56	581	25	11	674
		合 計	15	76	679	62	38	870
総 計		病院	135	888	14,180	279	251	15,733
		診療所	3	829	15,422	479	107	16,840
		総 計	138	1,717	29,602	758	358	32,573

図 1. お盆中外来患者実態調査（3 年間）

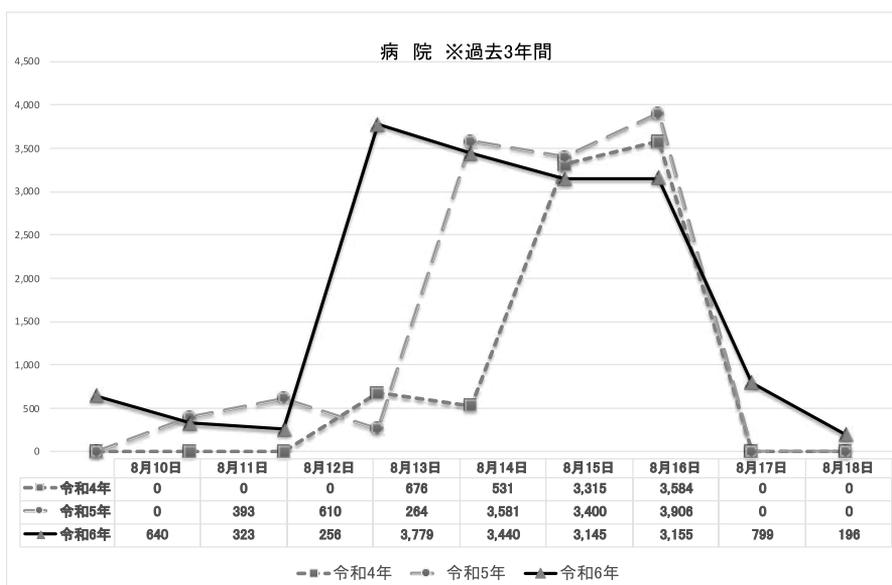
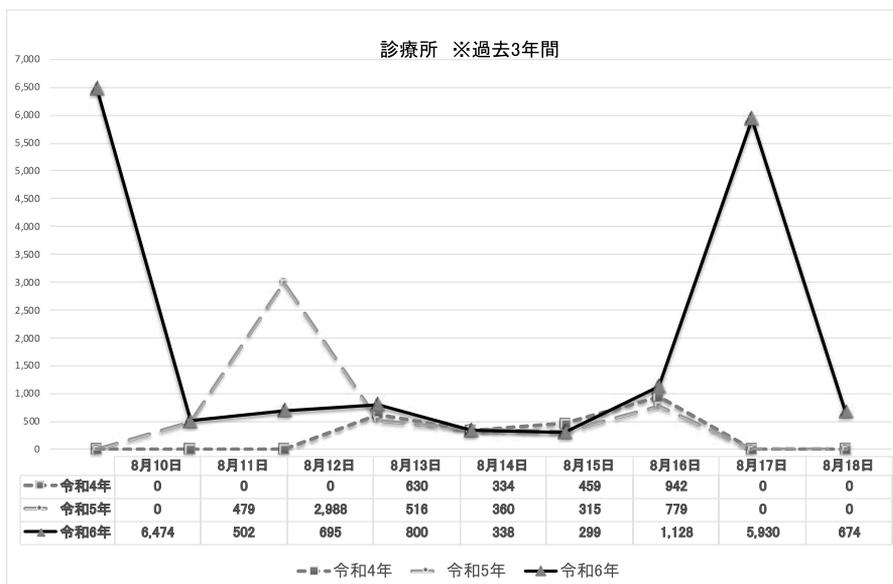


図1. お盆中外来患者実態調査（3年間）



695名（73%）／病院：256名（27%）、8月18日（日）は診療所：674名（78%）／病院：196名（22%）であった。主に休日救急当番医だけの診療体制であるため、患者数は少なめであった。

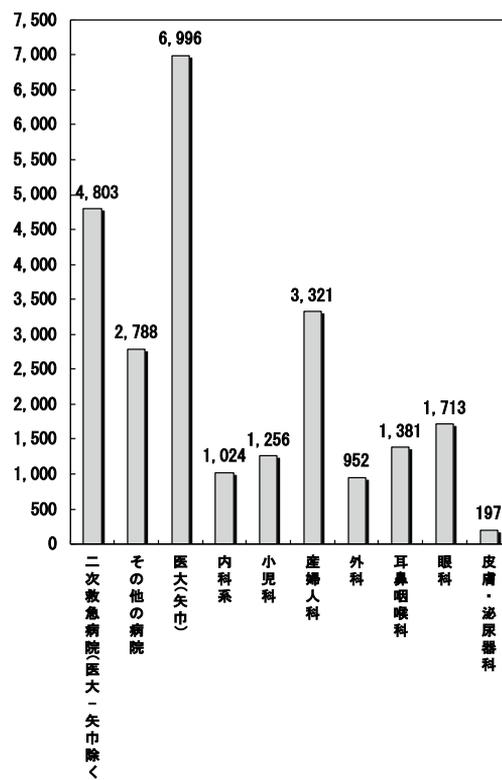
8月13日（火）は診療所：800名（18%）／病院：3,779名（82%）、8月14日（水）は診療所：338名（9%）／病院：3,440名（91%）、8月15日（木）は診療所：299名（9%）／病院：3,145名（91%）、8月16日（金）は診療所：1,128名（26%）／病院：3,155名（74%）であった。8月13日～15日は診療所の休診が多かったため、平均で88%は病院受診であったが、8月16日（金）は診療所の開設が若干あったため、診療所：1,128名（26%）／病院：3,155名（74%）の割合であった。

8月13～16日の昨年との比較は、13日：4,579名（R5：780名）、14日：3,778名（R5：3,941名）、15日：3,444名（R5：3,715名）、16日：4,283名（R5：4,685名）と令和5年と比較すると4日間で2,963名の増加となった（表4、図1）。

各科別の外来患者の受診状況を図2に示す。

岩手医大（矢巾）は6,996人（昨年2,060名）、二次救急病院（医大・矢巾除く）は4,803人、二次救急病院以外（その他の病院）受診者は

図2. 各科別の外来患者状況



====※調査期間：令和6年8月10日（土）～18日（日）

2,788 (R5:4,051人)であった。

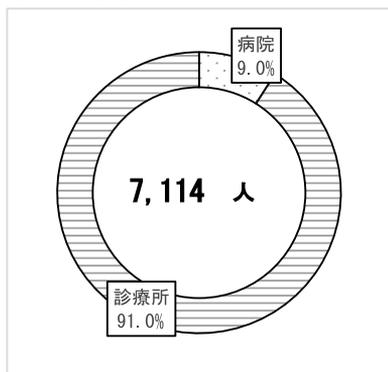
診療所受診者の内訳は、内科系6,996人、外科系3,321人、産婦人科1,256人、小児科1,024人、耳鼻咽喉科952人、眼科1,381人、皮膚科・泌尿器科1,713人であった。

調査期間中の夜間急患診療所は197人 (R5:135人)であった。

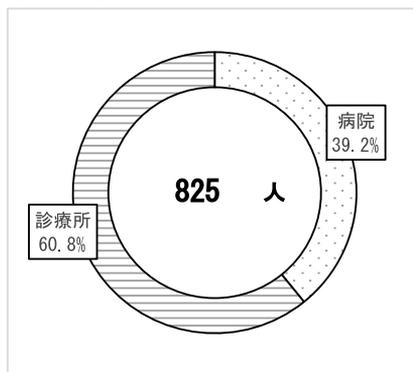
8月10日(土)～18日(日)の時間帯別の病院および診療所来院患者比率を図3から図8に円グラフに示す。

図3. 病院および診療所来院患者比率

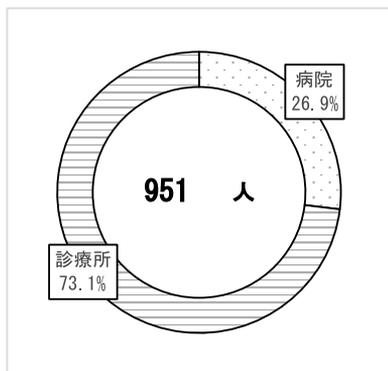
8月10日(土)



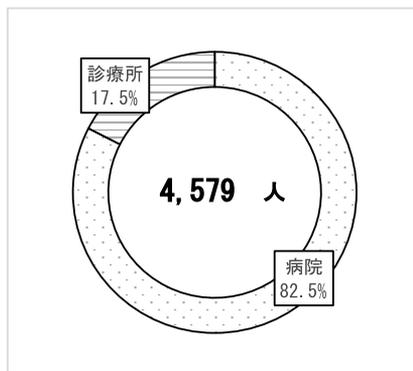
8月11日(日)



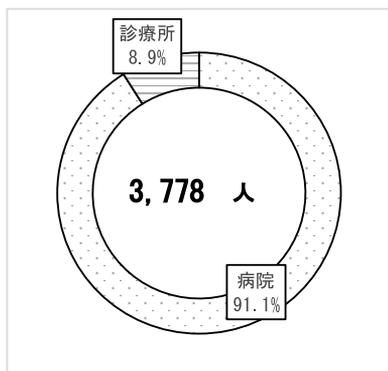
8月12日(月・祝)



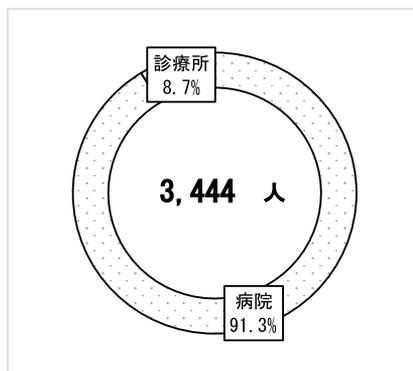
8月13日(火)



8月14日(水)



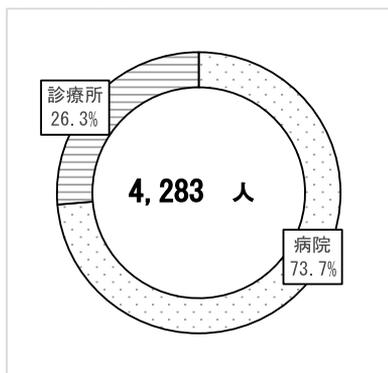
8月15日(木)



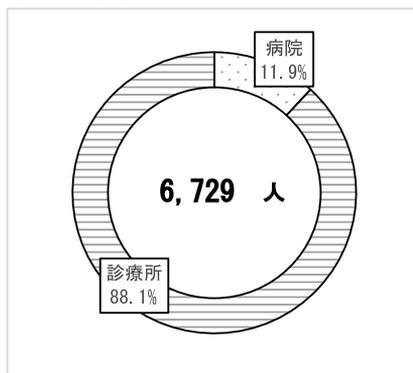
今年度は8月11日(金)～13日(日)までは診療所での受診3,983人(75.9%)と多く、14日(月)から16日(水)の多くの来院患者は病院：10,887人(88.2%)であり、岩手医大(2,060人)、

県立中央病院(2,046人)・盛岡赤十字病院(1,069人)、その他の二次救急病院で多くの診療を受けていた。

8月16日(金)



8月17日(土)



8月18日(日)

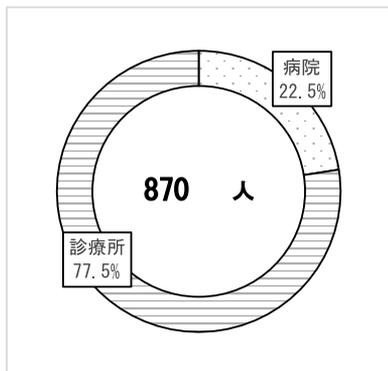
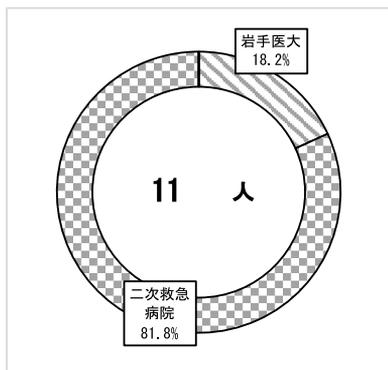
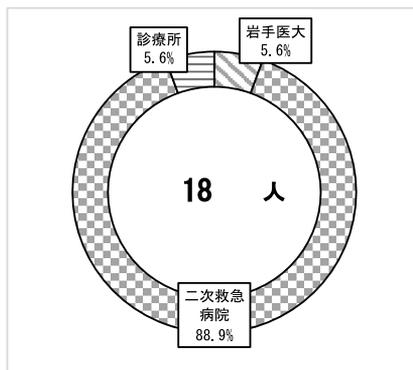


図4. 深夜(AM0:00～6:00)の来院患者比率

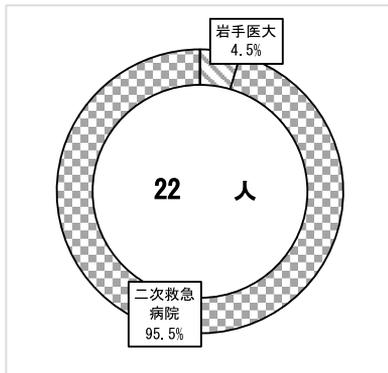
8月10日(土)



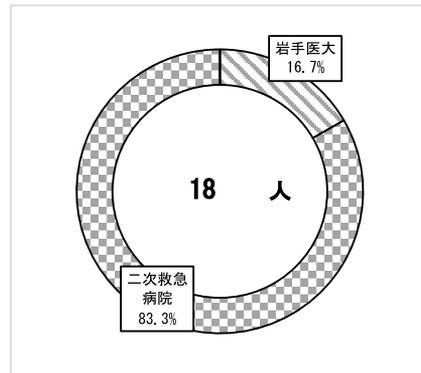
8月11日(日)



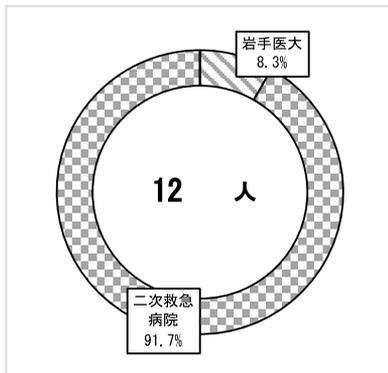
8月12日 (月・祝)



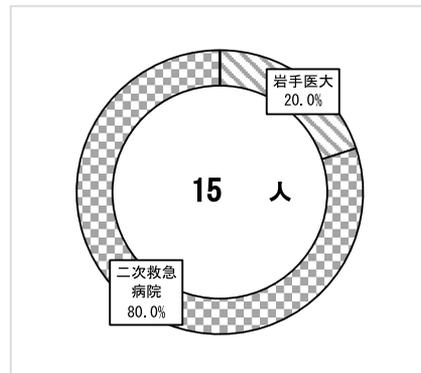
8月13日 (火)



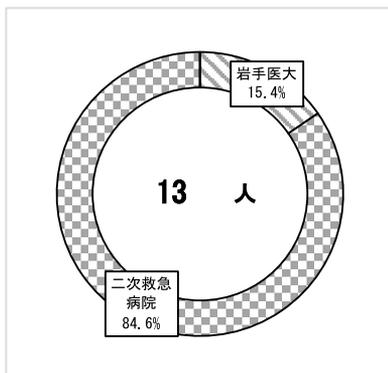
8月14日 (水)



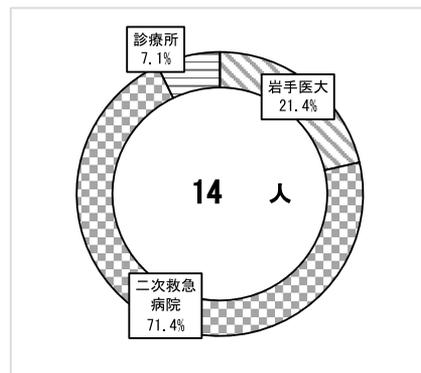
8月15日 (木)



8月16日 (金)



8月17日 (土)



8月18日（日）

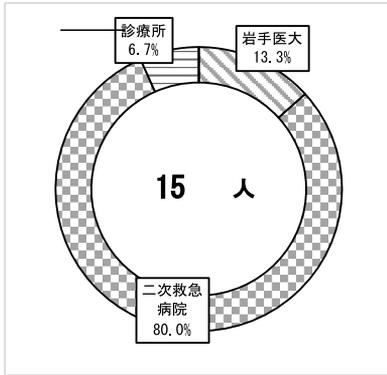
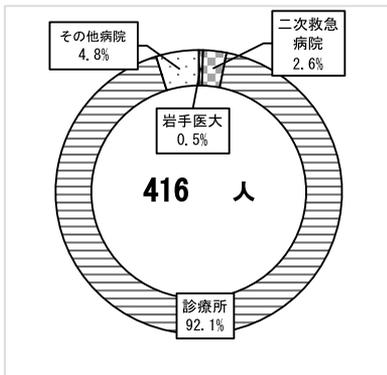
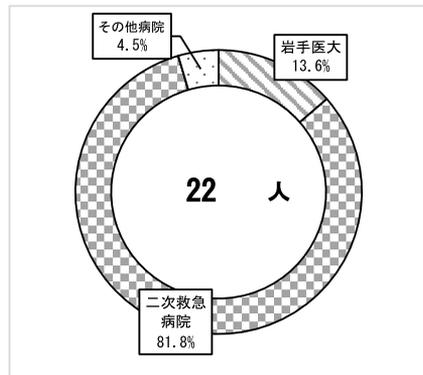


図 5. 時間外 A（AM6:00～AM9:00）の来院患者比率

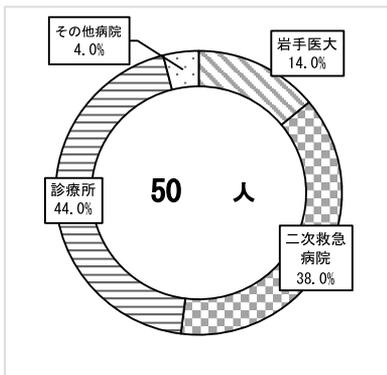
8月10日（土）



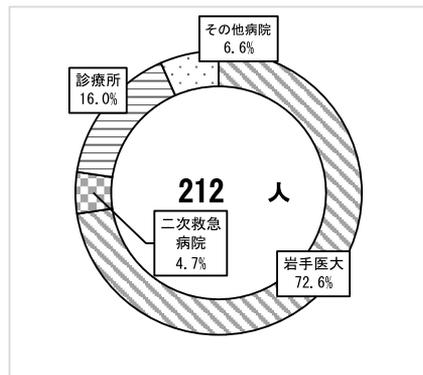
8月11日（日）



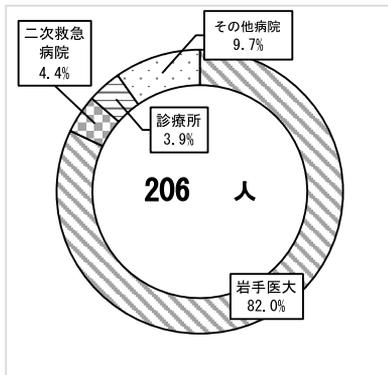
8月12日（月・祝）



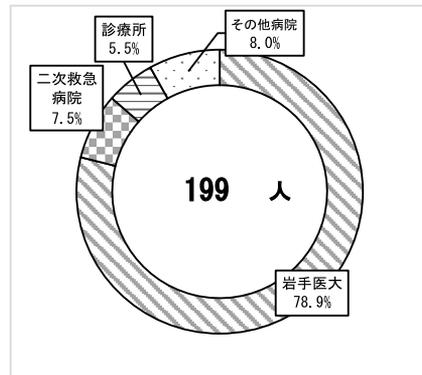
8月13日（火）



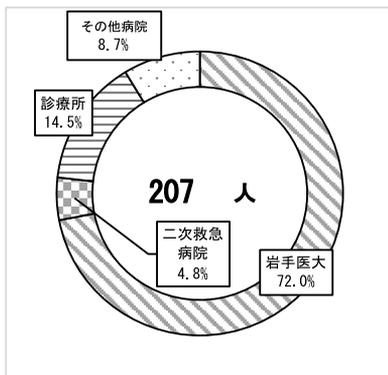
8月14日 (水)



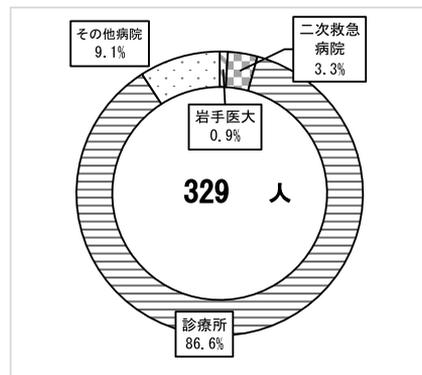
8月15日 (木)



8月16日 (金)



8月17日 (土)



8月18日 (日)

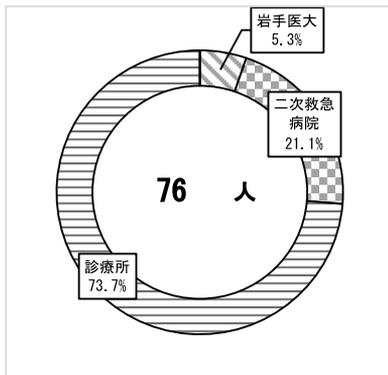
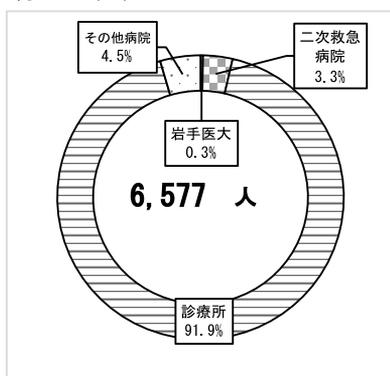
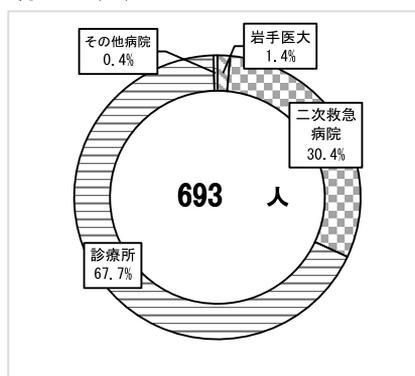


図 6. 日中 (AM9:00~PM5:00) の来院患者比率

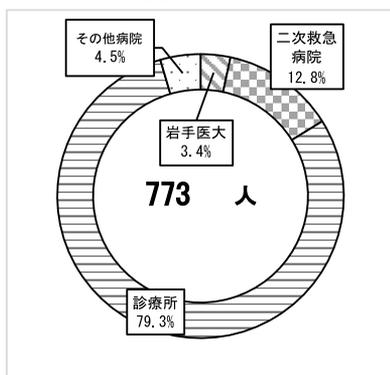
8月10日 (土)



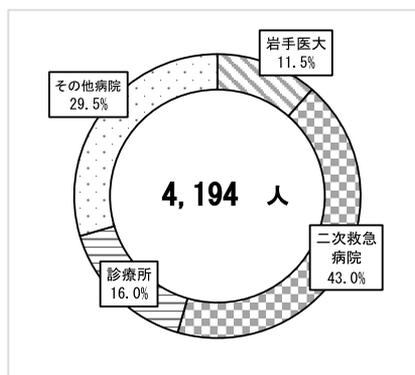
8月11日 (日)



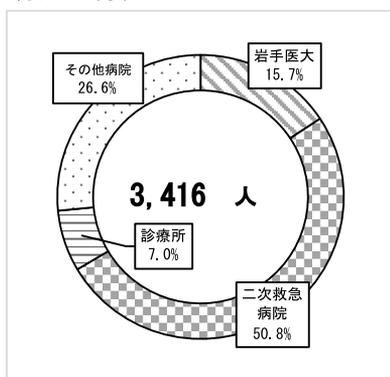
8月12日 (月・祝)



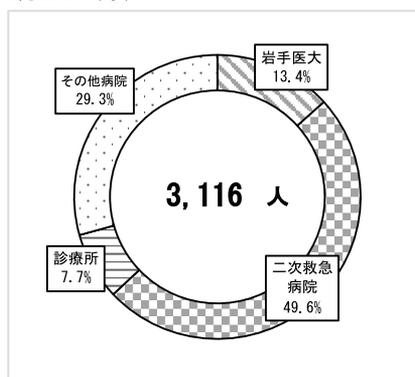
8月13日 (火)



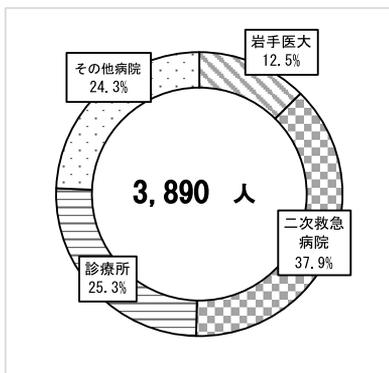
8月14日 (水)



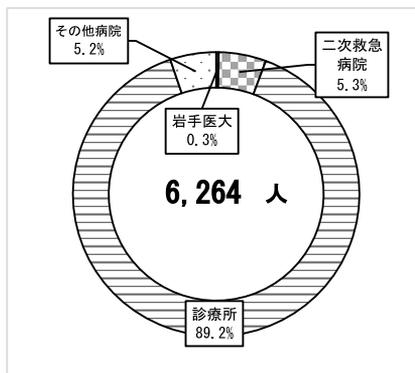
8月15日 (木)



8月16日（金）



8月17日（土）



8月18日（日）

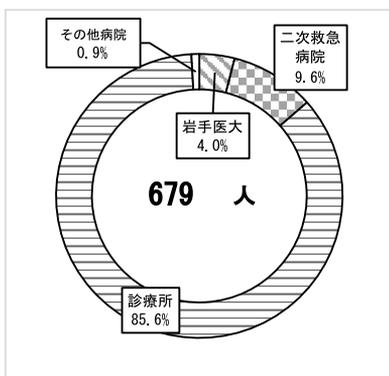
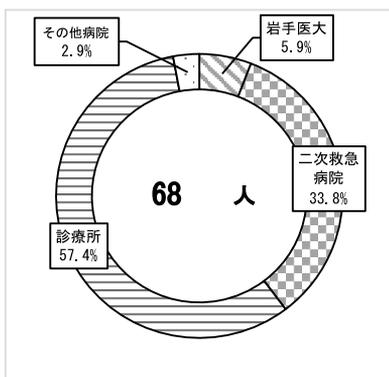
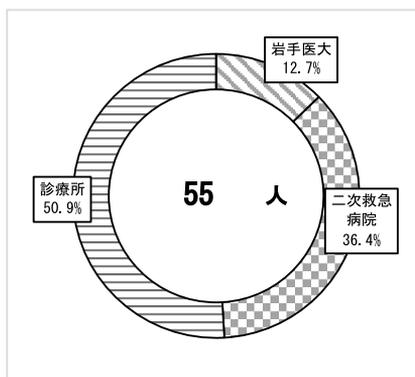


図 7. 時間外B（PM5:00～PM8:00）の来院患者比率

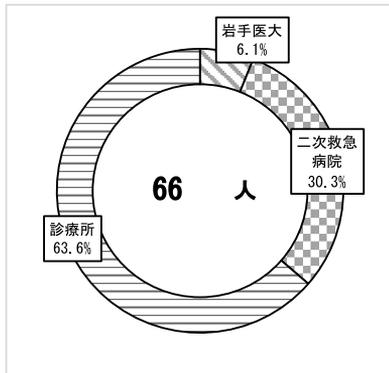
8月10日（土）



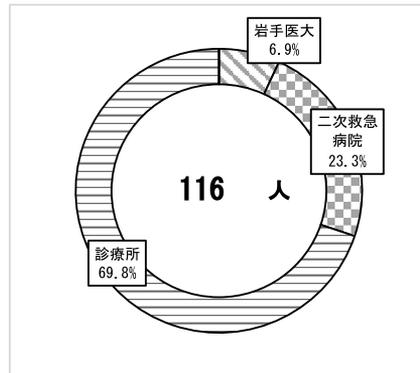
8月11日（日）



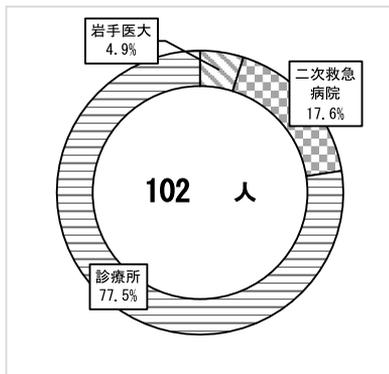
8月12日 (月・祝)



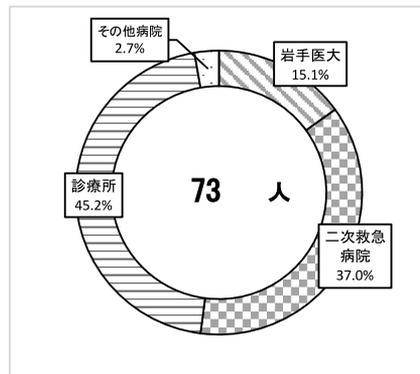
8月13日 (火)



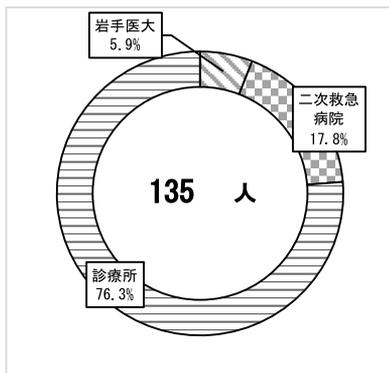
8月14日 (水)



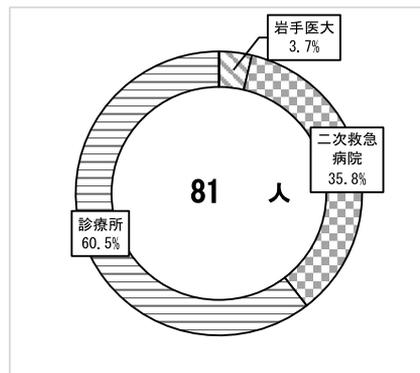
8月15日 (木)



8月16日 (金)



8月17日 (土)



8月18日（日）

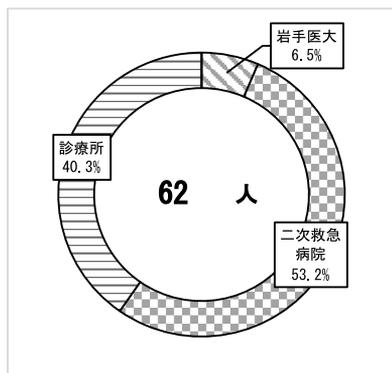
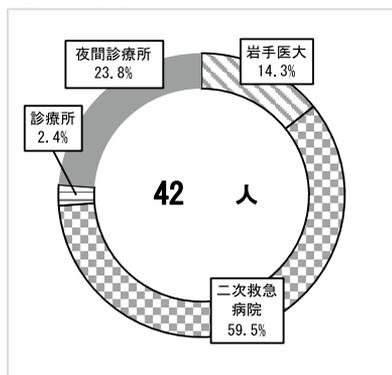
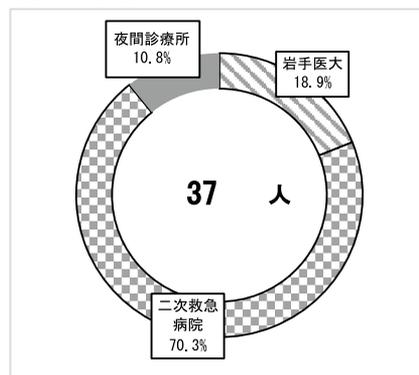


図 8. 夜間診療時間（PM8:00～PM12:00）の来院患者比率

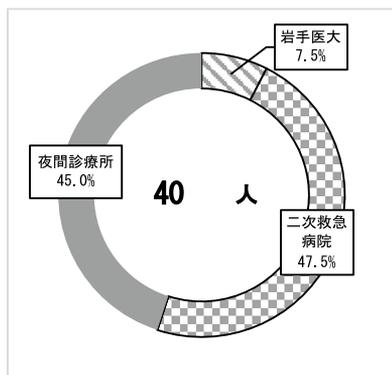
8月10日（土）



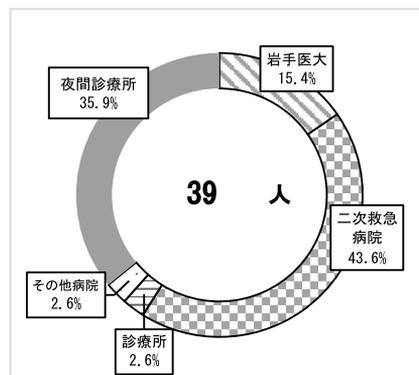
8月11日（日）



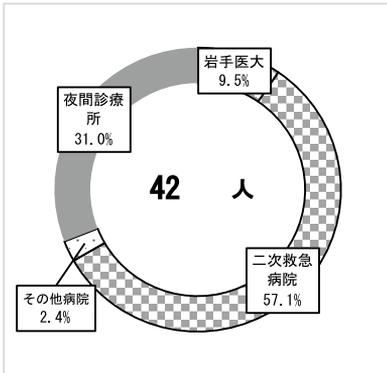
8月12日（月・祝）



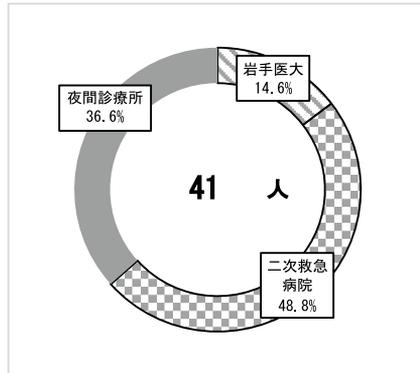
8月13日（火）



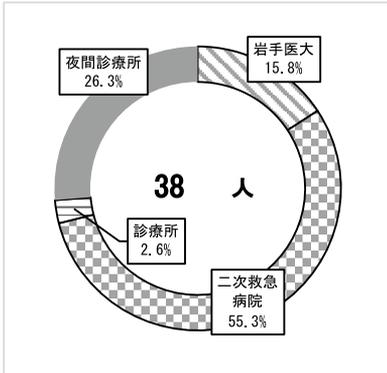
8月14日 (水)



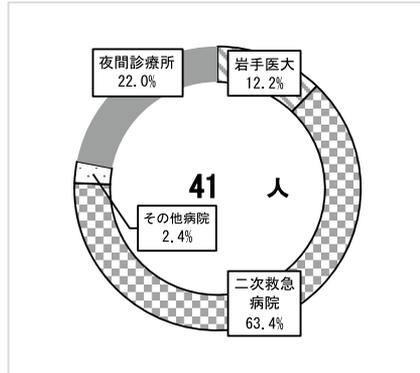
8月15日 (木)



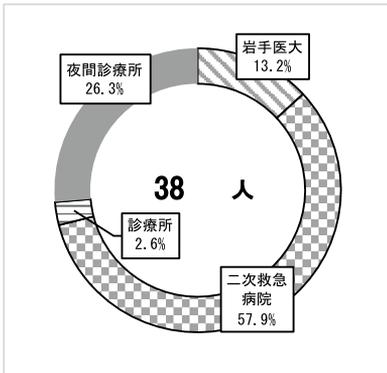
8月16日 (金)



8月17日 (土)



8月18日 (日)



※夜間急患診療所のみ現行時間 (PM7:00 ~ PM11:30) とする。

【その他】 お盆期間中の感染症発生状況について

1. 新型コロナウイルス感染症

日付	陽性者数
8/10 (土)	145
8/11 (日)	87
8/12 (月・祝)	104
8/13 (火)	125
8/14 (水)	99
8/15 (木)	109
8/16 (金)	156
8/17 (土)	177
8/18 (日)	100
合計	1,102

2. インフルエンザ感染症

日付	陽性者数
8/10 (土)	2
8/11 (日)	1
8/12 (月・祝)	1
8/13 (火)	0
8/14 (水)	1
8/15 (木)	0
8/16 (金)	2
8/17 (土)	1
8/18 (日)	0
合計	8

3. 盛岡市夜間急患診療所 受診者数について

日付	内科			小児科		
	受診者数	コロナ陽性者数	インフルエンザ陽性者数	受診者数	コロナ陽性者数	インフルエンザ陽性者数
8/10 (土)	7	0	0	11	0	0
8/11 (日)	3	1	0	8	0	0
8/12 (月・祝)	13	4	0	19	0	0
8/13 (火)	8	3	0	19	1	0
8/14 (水)	10	3	0	12	1	0
8/15 (木)	14	4	0	17	0	0
8/16 (金)	7	3	0	13	0	0
8/17 (土)	9	3	0	7	0	0
8/18 (日)	12	2	0	8	0	0
合計	83	23	0	114	2	0

4. 休日救急当番医患者数について

1) 8月11日(日)

	患者数	コロナ陽性者数	(陽性率)	インフルエンザ陽性者数	(陽性率)	終了時刻
内科(南)	109	37	33.9	0	0	17:45
内科(北)	19	12	63.2	0	0	17:05
内科(玉山地区)	46	9	19.6	0	0	17:30
外科・整形外科 ・脳神経外科	69	-	-	-	-	18:00
小児科	125	4	3.2	0	0	18:10
合計	368	62	16.8	1	0	

2) 8月12日（月・祝）

	患者数	コロナ 陽性者数	(陽性率)	インフルエンザ 陽性者数	(陽性率)	終了時刻
内 科（南）	52	17	32.7	1	1.9	17：45
内 科（北）	80	29	36.3	0	0.0	20：30
外科・整形外科 ・脳神経外科	28	-	-	-	-	17：00
小 児 科	196	5	2.6	0	0.0	19：40
合 計	356	51	14.3	1	0.3	

3) 8月18日（日）

	患者数	コロナ 陽性者数	(陽性率)	インフルエンザ 陽性者数	(陽性率)	終了時刻
内 科（南）	57	29	50.9	0	0.0	17：45
内 科（北）	50	25	50.0	0	0.0	17：00
外科・整形外科 ・脳神経外科	15	-	-	-	-	17：30
小 児 科	86	1	1.2	0	0	17：00
合 計	208	55	16.8	0	0	

最後に、今年度はお盆がすべてウィークデーであったため、その前後の土曜日である8月10日と17日の受診者数が目立って多い結果となりました。新型コロナウイルス感染症が感染症法5類に分類されて1年が経過し、withコロナが定着してきたのではないかと思います。岩手県感染症週報を見ますと、昨年同様に7月下旬から新型コロナ患者が増え始め、8月下旬から9月上旬にピークを迎えました。成人の新型コロナ陽性率をみると、30～60%台と、増加途上であることをうかがい知ることができました。

休日救急当番医の終了時刻では20時台のところもありましたが、概ね定時に終了し、大きな混乱はなかったと思われます。

本アンケート調査に当たりましては、お忙しい中、各医療機関の皆様にご協力いただきました。誌上をもちまして感謝申し上げます。今回のアンケート結果以降、withコロナそしてpostコロナのデータとして積み上げられていくものと思われます。引き続きご協力のほど、よろしく願い申し上げます。

（高橋 進）

2. 令和6年度 年末年始外来患者実態調査報告

— 医療機関アンケート集計結果 —

令和6年12月28日(土)～令和7年1月5日(日)の期間に盛岡市内の医療機関を受診した外来患者数の調査結果を報告します。

対象医療機関は27病院、214診療所、計241医療機関で、アンケートの回収率は100%でした(表1)。

医療機関の診療科別診療所および病院数を表2に、上記期間の診療状況を表3に示す。

9日間の来院患者数は病院：5,333人、診療所：15,938人となりました(表4)。

過去5年間における年末年始の来院患者数は表5をご覧ください。

表1. アンケート回収率(盛岡市)

	医療機関数	回収数	回収率
病院	27	27	100%
診療所	214	214	100%
合計	241	241	100%

表2. 診療科別診療所及び病院数

	診療科	医療機関数	計
診療所	内科	99	214
	外科	41	
	産婦人科	11	
	小児科	14	
	眼科	19	
	皮膚/泌尿器科	18	
	耳鼻咽喉科	11	
	夜間急患診療所	1	
病院	二次救急病院	11	27
	その他の病院	16	

表3. 年末年始診療状況(237医療機関)

	12月28日 (土)	12月29日 (日)	12月30日 (月)	12月31日 (火)	1月1日 (水)	1月2日 (木)	1月3日 (金)	1月4日 (土)	1月5日 (日)
全日休診	49	232	231	204	219	222	202	97	231
半日休診	171	1	0	9	1	0	5	125	3
診療	20	2	5	27	20	18	33	18	2
休日救急当番医	0	5	4	0	0	0	0	0	4
合計	240	240	240	240	240	240	240	240	240

※盛岡市夜間急患診療所はのぞく

表 4. 病院及び診療所（令和 6 年12月28日～令和 7 年 1 月 5 日）の来院患者数（時間帯別）

月 日	曜日	時刻 機関	0 AM	6 AM	9 AM	5 PM	8 PM	合 計
			6 AM	9 AM	5 PM	8 PM	12 PM	
12月28日	土	病 院	17	132	1,124	31	39	1,343
		診 療 所	0	350	5,655	79	97	6,181
		合 計	17	482	6,779	110	136	7,524
12月29日	日	病 院	17	19	144	39	38	257
		診 療 所	0	1	487	68	68	624
		合 計	17	20	631	107	106	881
12月30日	月	病 院	15	36	328	58	37	474
		診 療 所	0	3	781	76	85	945
		合 計	15	39	1,109	134	122	1,419
12月31日	火	病 院	26	21	240	51	33	371
		診 療 所	0	20	314	30	64	428
		合 計	26	41	554	81	97	799
1 月 1 日	水	病 院	21	34	195	31	35	316
		診 療 所	0	0	576	94	44	714
		合 計	21	34	771	125	79	1,030
1 月 2 日	木	病 院	25	23	227	46	53	374
		診 療 所	0	1	604	27	66	698
		合 計	25	24	831	73	119	1,072
1 月 3 日	金	病 院	21	31	316	42	18	428
		診 療 所	0	1	640	89	54	784
		合 計	21	32	956	131	72	1,212
1 月 4 日	土	病 院	12	144	1,252	31	21	1,460
		診 療 所	0	181	4,679	53	45	4,958
		合 計	12	325	5,931	84	66	6,418
1 月 5 日	日	病 院	21	28	219	22	20	310
		診 療 所	0	13	546	31	16	606
		合 計	21	41	765	53	36	916
総 計		病 院	175	468	4,045	351	294	5,333
		診 療 所	0	570	14,282	547	539	15,938
		総 計	175	1,038	18,327	898	833	21,271

(人)

表 5. 過去 5 年間における年末年始来院患者総数の比較

年度 月日	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
12月28日	未調査	未調査	未調査	未調査	7,524 (土)
12月29日	4,461 (火)	4,894 (水)	4,012 (木)	4,311 (金)	881 (日)
12月30日	672 (水)	858 (木)	859 (金)	1,104 (土)	1,419 (月)
12月31日	588 (木)	552 (金)	629 (土)	742 (日)	799 (火)
1 月 1 日	525 (金)	492 (土)	461 (日)	846 (月)	1,030 (水)
1 月 2 日	450 (土)	422 (日)	680 (月)	933 (火)	1,072 (木)
1 月 3 日	338 (日)	584 (月)	727 (火)	799 (水)	1,212 (金)
1 月 4 日	未調査	未調査	未調査	未調査	6,418 (土)
1 月 5 日	未調査	未調査	未調査	未調査	916 (日)
計	7,034	7,802	7,368	8,735	21,271

* 令和6年度の患者数が多いのは、調査期間が9日間であるため

(人)

表 6. 夜間急患診療所来院患者数

月日 時間帯	12月28日 (土)	12月29日 (日)	12月30日 (月)	12月31日 (火)	1月1日 (水)	1月2日 (木)	1月3日 (金)	1月4日 (土)	1月5日 (日)	計
午後7時 ～ 午後8時	14	12	12	17	15	14	22	19	12	137
午後8時 ～ 午後11時30分	32	50	61	64	43	66	18	45	16	395
計	46	62	73	81	58	80	40	64	28	532

(人)

【昨年度との比較】※12/29～1/3

5年度	内 科		
	患者数	コロナ陽性者数	インフル患者数
12月29日(木)	10	2	3
30日(金)	17	4	6
31日(土)	14	3	4
1月1日(日)	16	0	5
2日(月)	25	2	6
3日(火)	10	4	0
合計	92	15	24

6年度	内 科		
	患者数	コロナ陽性者数	インフル患者数
12月29日(金)	45	5	27
30日(土)	49	7	28
31日(日)	52	7	28
1月1日(月)	41	5	21
2日(火)	68	8	43
3日(水)	25	4	17
合計	280	36	164

	小 児 科		
	患者数	コロナ陽性者数	インフル患者数
12月29日(木)	17	1	4
30日(金)	17	1	6
31日(土)	24	1	7
1月1日(日)	29	0	8
2日(月)	17	1	5
3日(火)	12	1	7
合計	15	0	1

	小 児 科		
	患者数	コロナ陽性者数	インフル患者数
12月29日(金)	17	1	6
30日(土)	24	1	7
31日(日)	29	0	8
1月1日(月)	17	1	5
2日(火)	12	1	7
3日(水)	15	0	1
合計	114	4	34

表 7. 夜間診療時間(8:00P.M.～12:00P.M.)の来院患者数

()内%

	12月28日 (土)	12月29日 (日)	12月30日 (月)	12月31日 (火)	1月1日 (水)	1月2日 (木)	1月3日 (金)	1月4日 (土)	1月5日 (日)	計
二次救急病院 (医大を除く)	51(20.7)	53(24.9)	73(28.5)	67(37.6)	50(24.5)	68(35.4)	44(21.7)	38(25.3)	31(34.8)	475(27.4)
岩手医大附属病院 (矢 巾)	18(7.3)	23(10.8)	22(8.6)	17(9.6)	15(7.4)	27(14.1)	16(7.9)	10(6.7)	11(12.4)	159(9.2)
その他の病院	1(0.4)	1(0.5)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.5)	4(2.1)	0(0.0)	4(2.7)	0(0.0)	11(0.6)
診 療 所	130(52.8)	74(34.7)	88(34.4)	13(7.3)	80(39.2)	13(6.8)	103(50.7)	34(22.7)	19(21.3)	554(32.0)
夜間急患診療所 (8:00～11:30)	46(18.7)	62(29.1)	73(28.5)	81(45.5)	58(28.4)	80(41.7)	40(19.7)	64(42.7)	28(31.5)	532(30.7)
計	246(100)	213(100)	256(100)	178(100)	204(100)	192(100)	203(100)	150(100)	89(100)	1,731(100)

(人)

表 8. 二次救急病院各病院別来院患者数

() 内%

	12月28日 (土)	12月29日 (日)	12月30日 (月)	12月31日 (火)	1月1日 (水)	1月2日 (木)	1月3日 (金)	1月4日 (土)	1月5日 (日)	合計
岩手医科大学	288(44.2)	62(24.5)	89(21.1)	72(22.0)	67(23.8)	87(26.0)	62(15.9)	332(38.5)	41(13.4)	1,100(28.8)
岩手県立中央病院	94(14.4)	76(30.0)	99(23.5)	114(34.8)	86(30.6)	120(35.8)	81(20.8)	89(10.3)	59(19.3)	818(21.4)
盛岡赤十字病院	24(3.7)	22(8.7)	52(12.3)	18(5.5)	25(8.9)	18(5.4)	54(13.9)	21(2.4)	22(7.2)	256(6.7)
盛岡市立病院	11(1.7)	23(9.1)	22(5.2)	23(7.0)	13(4.6)	20(6.0)	15(3.9)	12(1.4)	9(3.0)	148(3.9)
遠山病院	6(0.9)	2(0.8)	5(1.2)	6(1.8)	6(2.1)	7(2.1)	4(1.0)	7(0.8)	3(1.0)	46(1.2)
栃内病院	74(11.4)	3(1.2)	1(0.2)	6(1.8)	1(0.4)	3(0.9)	1(0.3)	75(8.7)	4(1.3)	168(4.4)
盛岡つなぎ温泉病院	6(0.9)	5(2.0)	6(1.4)	7(2.1)	5(1.8)	7(2.1)	13(3.3)	27(3.1)	103(33.8)	179(4.7)
盛岡友愛病院	13(2.0)	13(5.1)	14(3.3)	4(1.2)	9(3.2)	24(7.2)	17(4.4)	10(1.2)	9(3.0)	113(3.0)
川久保病院	84(12.9)	2(0.8)	9(2.1)	18(5.5)	11(3.9)	0(0.0)	6(1.5)	220(25.5)	3(1.0)	353(9.2)
国立病院機構盛岡医療センター	9(1.4)	28(11.1)	17(4.0)	13(4.0)	24(8.5)	10(3.0)	8(2.1)	7(0.8)	26(8.5)	142(3.7)
八角病院	42(6.5)	17(6.7)	108(25.6)	47(14.3)	34(12.1)	39(11.6)	128(32.9)	62(7.2)	26(8.5)	503(13.1)
合計	651(100)	253(100)	422(100)	328(100)	281(100)	335(100)	389(100)	862(100)	305(100)	3,826(100)

※ 1/2(木)の川久保病院は休日救急当番医(小児科)として計算しているため0名とした。

(人)

表 9. 二次救急病院来院患者数(時間帯別)

時間 月日	AM 0 } AM 6	AM 6 } AM 9	AM 9 } PM 5	PM 5 } PM 8	PM 8 } PM 12	合計
	12月28日(土)	16	112	454	30	
12月29日(日)	17	19	141	38	38	253
12月30日(月)	15	36	276	58	37	422
12月31日(火)	26	21	197	51	33	328
1月1日(水)	21	34	161	31	34	281
1月2日(木)	25	23	192	44	51	335
1月3日(金)	20	31	278	42	18	389
1月4日(土)	12	132	670	28	20	862
1月5日(日)	21	28	214	22	20	305
合計	173	436	2,583	344	290	3,826

(人)

夜間診療時間帯の来院患者数は9日間で1,731人(昨年232人)のうち、岩手医大附属病院(矢中)が159人(昨年44人)、二次救急病院(医大除く)が475人(昨年128人)でした(表7)。

二次救急病院の全時間帯における来院総数は3,826人(昨年2,449人)で、そのうち岩手医大附属病院は28.8%を占める結果となりました(表8)。

二次救急病院の来院患者数3,826人のうち、最も受診が多かった受診時間帯は午前9時～午後5時の時間帯に2,583人(昨年1,600人)でした(表9)。

*注)今年度は9日間の調査であるため、例年との比較(6日間)では多めの受診者数となっている。

表10. 岩手県高度救命救急センター来院患者数（3次）

時間 月日	AM 0	AM 6	AM 9	PM 5	PM 8	合 計
	AM 6	AM 9	PM 5	PM 8	PM 12	
12月28日(土)	0	1	6	3	1	11
12月29日(日)	1	0	3	0	4	8
12月30日(月)	0	2	6	3	3	14
12月31日(火)	4	1	1	2	1	9
1月1日(水)	2	2	5	3	1	13
1月2日(木)	2	1	9	0	4	16
1月3日(金)	0	1	1	2	0	4
1月4日(土)	1	2	6	1	0	10
1月5日(日)	0	1	1	1	2	5
合 計	10	11	38	15	16	90

(人)

岩手県高度救命救急センター（3次）の来院患者数は90人（昨年58人）で、最も多かった時間帯は午前9時～午後5時の38人（昨年32人）でした（表10）。

内科系受診者が6,624人（昨年2,548人）と最も多く、続いて二次救急病院受診者が3,826人（昨年2,449人）でした（図1）。

12月28日(土)と1月4日(土)は午前診療が多かったため、病院・診療所共に来院患者数が多かった。12月29日(日)～1月3日(金)はインフルエンザやコロナウイルスの影響もあり例年より多くの患者が受診しました（図2）。

※調査期間が9日間であったため、昨年6日間の調査より患者数は多くなっている。

図1. 病院（医大、その他病院）診療所（診療科別）来院患者数

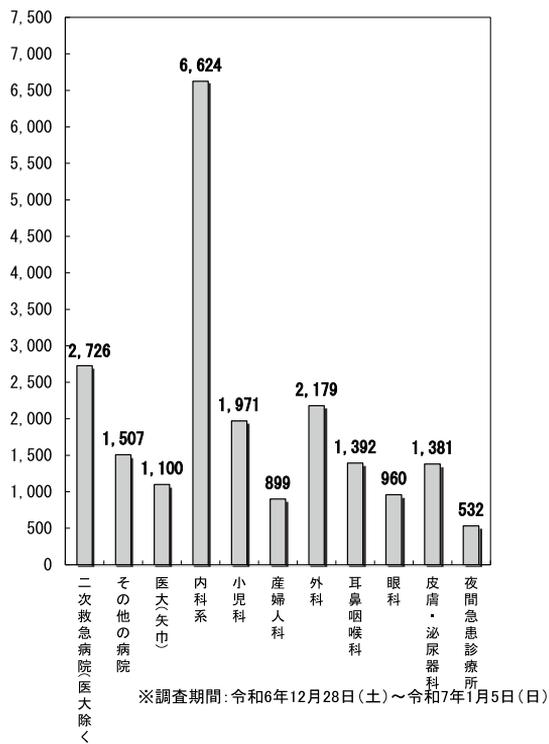
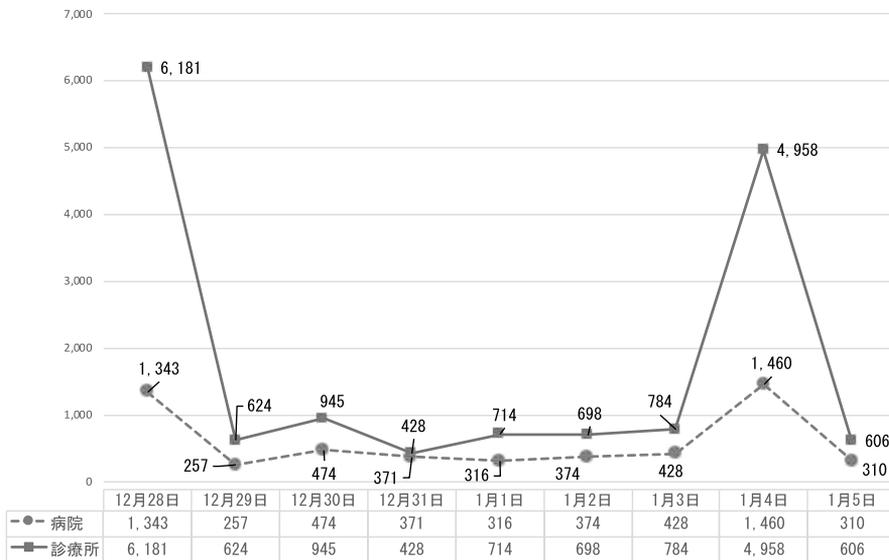


図2. 病院および診療所の日別来院患者数



年末年始期間中の感染症発生状況について

1. 新型コロナウイルス感染症

日付	陽性者数
12/28(土)	146
12/29(日)	91
12/30(月)	98
12/31(火)	104
1/1(水)	99
1/2(木)	62
1/3(金)	87
1/4(土)	198
1/5(日)	84
合計	969

2. インフルエンザ感染症

日付	陽性者数
12/28(土)	355
12/29(日)	234
12/30(月)	294
12/31(火)	297
1/1(水)	298
1/2(木)	296
1/3(金)	354
1/4(土)	470
1/5(日)	255
合計	2,853

3. 盛岡市夜間急患診療所 受診者数について

日付	内 科			小 児 科		
	受診者数	コロナ陽性者数	インフルエンザ陽性者数	受診者数	コロナ陽性者数	インフルエンザ陽性者数
12/28(土)	29	8	9	17	1	4
12/29(日)	45	5	27	17	1	6
12/30(月)	49	7	28	24	1	7
12/31(火)	52	7	28	29	0	8
1/1(水)	41	5	21	17	1	5
1/2(木)	68	8	43	12	1	7
1/3(金)	25	4	17	15	0	1
1/4(土)	46	10	18	18	0	6
1/5(日)	22	4	9	6	0	0
合計	377	58	200	155	5	44

4. 休日救急当番医患者数について

1) 12月29日(日)

	患者数	コロナ陽性者数(陽性率) %		インフルエンザ陽性者数(陽性率) %		終了時刻
内科(南)	193	37	19.2	98	50.8	22:30
内科(北)	124	22	17.7	52	41.9	22:10
外科・整形外科・脳神経外科	34	-	-	-	-	17:00
小児科	151	4	2.6	88	58.3	20:30
合計	502	63	12.5	238	47.4	

2) 12月30日(月)

	患者数	コロナ陽性者数(陽性率) %		インフルエンザ陽性者数(陽性率) %		終了時刻
内科(南)	164	35	21.3	61	37.2	22:30
内科(北)	92	11	12.0	23	25.0	17:30
内科(玉山地区)	108	10	9.3	26	24.1	19:00
外科・整形外科・脳神経外科	62	-	-	-	-	19:30
小児科	193	6	3.1	69	35.8	20:45
合計	619	62	10.0	179	28.9	

3) 12月31日(火)

	患者数	コロナ陽性者数(陽性率) %		インフルエンザ陽性者数(陽性率) %		終了時刻
内科(南)	180	25	13.9	91	50.6	21:50
内科(北)	158	18	11.4	50	31.6	21:10
外科・整形外科・脳神経外科	43	-	-	-	-	18:50
小児科	146	6	4.1	43	29.5	18:45
合計	527	49	9.3	184	34.9	

4) 1月1日(水)

	患者数	コロナ陽性者数(陽性率) %		インフルエンザ陽性者数(陽性率) %		終了時刻
内科(南)	109	23	21.1	58	53.2	22:45
内科(北)	186	25	13.4	83	44.6	21:55
外科・整形外科・脳神経外科	53	-	-	-	-	17:00
小児科	162	6	3.7	59	36.4	20:20
合計	510	54	10.6	200	39.2	

5) 1月2日(木)

	患者数	コロナ陽性者数(陽性率) %		インフルエンザ陽性者数(陽性率) %		終了時刻
内科(南)	134	4	3.0	64	47.8	20:00
内科(北)	194	29	14.9	103	53.1	0:20
外科・整形外科・脳神経外科	56	-	-	-	-	19:30
小児科	225	5	2.2	48	21.3	17:15
合計	609	38	6.2	215	35.3	

6) 1月3日(金)

	患者数	コロナ陽性者数(陽性率) %		インフルエンザ陽性者数(陽性率) %		終了時刻
内科(南)	138	21	15.2	72	52.2	20:00
内科(北)	151	18	11.9	76	50.3	23:00
内科(玉山地区)	135	8	5.9	51	37.8	19:00
外科・整形外科・脳神経外科	74	4	5.4	9	12.2	19:25
小児科	213	5	2.3	55	25.8	21:00
合計	711	56	7.9	263	37.0	

7) 1月5日(日)

	患者数	コロナ陽性者数(陽性率) %		インフルエンザ陽性者数(陽性率) %		終了時刻
内科(南)	160	15	9.4	71	44.4	20:40
内科(北)	103	18	17.5	67	65.0	18:15
外科・整形外科・脳神経外科	32	-	-	-	-	17:00
小児科	82	4	4.9	30	36.6	17:15
合計	377	37	9.8	168	44.6	

図2. 令和6年12月～令和7年1月の休日救急当番医 受診者数

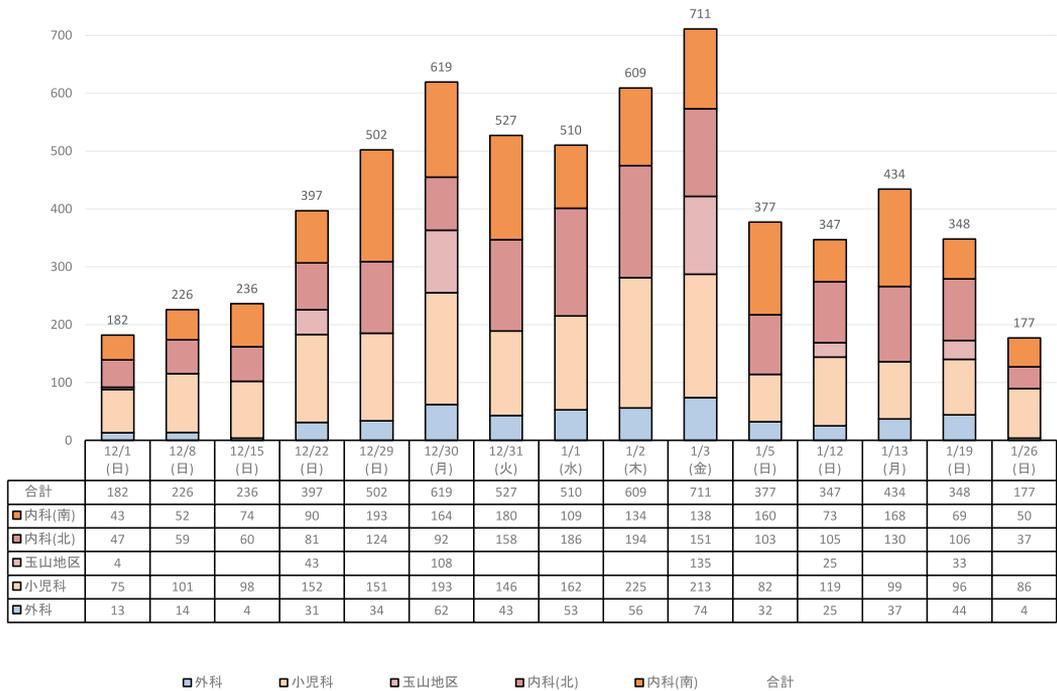
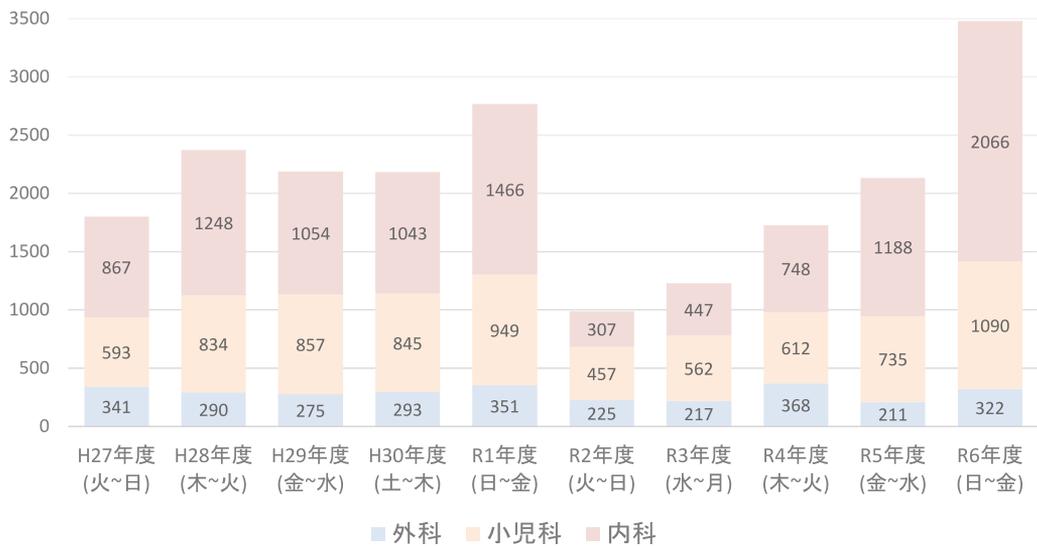


図3. 年末年始期間 受診者数 (過去10年)



(おわりに)

令和6年12月28日～令和7年1月3日までの休日救急当番医の患者数は患者総数3,478名で、前年より1,344名増加(63%増)した。内科系2,066名で前年より878名増(74%増)、外科系322名で前年より111名増加(53%増)、小児科1,090名で355名増加(48%増)した。夜間急患診療所でも内科系280名と前年より188名増加(204%増)し、小児科114名で前年より41名増加(56%増)した。内科、小児科ともにインフルエンザ患者数が新型コロナ患者の約5倍となっており、これらの患者数増加は主にインフルエンザ患者の増加によるものと考えられた。これらの患者数の増加により休日当番医より対象患者数に対して当番医数が少なく診療能力を超えた。また、患者

にも長時間の待機を強いることになり、患者、当番医双方に相当の負担がかかったという意見が医師会に寄せられた。令和6年度年末年始の受診者数は過去10年で最多で、過去9年間に対して80%増(+2.76SD)であり明らかに今年度の患者数は多かったと言える。インフルエンザの増加はその一要因と考えられるが、社会的要因などについても精査が必要と考えられた。

本アンケート調査に当たりましては、お忙しい中、各医療機関の皆様にご協力いただきましたことに誌上をもちまして感謝申し上げます。引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

(高橋 進)

Ⅳ 盛岡地区二次救急医療体制 45年目のあゆみ

盛岡地区二次救急医療対策委員会

1. 実態報告

2024年の二次救急医療体制について、表1から表3に示すような各病院の割当回数と日程により行われた。二次救急および小児救急における患者データはそれぞれ表4、表5のように報告されている。表6には病院毎の月別患者数と年間総数を示す。2024年の二次救急患者総数は34,132名であり、2023年と比較して622名減少した。図1に2022～2024年の月別患者数分布を示す。2024年を含めて、長期休暇期間である5、7～8月、12月に増加をみるが、2024年は12月の急増が特徴であった。これは、二次救急のみならず、休日夜間救急医療機関でも2024年12月～2025年1月の急増とそれに伴い医療機関の受容を超えたことによる患者の受診困難が問題になっていた。インフルエンザ患者の急増が主要因であると考えられたが、社会的要因についても検討が必要と考えられた。

二次救急病院来院患者数においては外来受診のみ患者が26,964名であり、前年より540名の減少、入院を要した患者は7,168名、前年より82名減少した。外来患者数を入院患者数で割った外来：入院比は、3.76であり、2023年より0.03減少した。病院別割合では県立中央病院が40.7%、岩手医科大学附属病院が19.1%、盛岡赤十字病院が10.3%であり、市立病院、5.9%、八角病院、7.5%、盛岡医療センター、5.0%、川久保病院、3.3%であった。他の4病院は3%未満であった。救急車搬送数は9,881名で、前年より90名減少した。救急者搬送数の病院別割合は県立中央病院が53.1%、盛岡赤十字病院が12.0%、盛岡医療センター、8.3%、市立病院、7.2%、友愛病院、4.2%、つなぎ温泉病院、3.5%であり、他の病院は3%未満であった。

2024年は各病院で新型コロナウイルス感染症のクラスター発生による病棟閉鎖や救急受け入れ中止は生じなかった。

表1

二次救急病院当番表

令和6年1月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
二	県立中央病院	日直	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外
	盛岡市立病院	日直	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内
次	盛岡赤十字病院	日直	循	内	脳	内	脳	内	脳	内	脳	内	脳	内	脳	内	脳	内	脳	内	脳	内	脳	内	脳	内	脳	内	脳	内	脳	
	若手医大	日直	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	
救	遠山病院	日直	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	
	病盛岡つなぎ温泉	日直	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	
病	盛岡友愛病院	日直	婦	泌	整	整	内	外	脳	内	内	整	整	泌	内	外	外	内	外	整	内	内	内	外	内	整	整	脳	内	脳	内	
	川久保病院	日直	内	内	内	内	小	内	内	眼	内	小	内	内	内	内	小	内	内	内	眼	内	小	内	内	内	内	内	内	内	内	
院	盛岡国立病院	日直	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	
	八角病院	日直	内	外	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	
受	A	日	赤	大	央	赤	大	央	大	大	央	赤	大	央	赤	大	央	大	央	赤	大	大	央	赤	大	大	央	赤	大	大	央	
	B	内	立	角	愛	つ	な	ぎ	保	山	立	内	角	立	愛	つ	な	ぎ	保	山	立	内	角	立	愛	つ	な	ぎ	保	山	立	

【注意事項】

- 各病院の当直医(診療科)が変更されることがありますので、事前に電話で確認することをおすすめします。
※消防量(救急隊)は患者の状態により、直近または最も適していると考えられる二次救急病院を選定して連絡を入れますので、救急隊から受入を要請された場合は可能な限り受入をお願いします。
- 最終入院受入病院とは、急患については他の病院が受け入れられない場合、最終調整及び責任をもつ病院です。
- 小児の入院が必要と思われる場合は、小児救急入院受入病院当番表をご参照下さい。
- 盛岡市立病院の平日は一人体制となります。
- ※印は、休日体制になっていますので、ご留意下さい。

令和5年12月25日作成

表2 令和6年（2024年1月～12月）二次救急輪番病院年間回数

区分 病院	年 末 年 始	祝 祭 日	日 曜 日	土 曜 日	平 日	年 間 回 数	総 回 数
盛岡市立病院	1	5	65	6	28	45	56
八角病院	1	2	7	7	29	46	56
盛岡つなぎ温泉病院	0	3	6	5	32	46	55
県立中央病院	3	7	19	20	93	142	171
岩手医大附属病院	2	6	21	19	95	143	172
盛岡赤十字病院	1	2	11	11	56	81	95
遠山病院	1	1	6	6	32	46	54
栃内病院	1	1	7	7	29	45	54
盛岡友愛病院	0	2	7	6	31	46	55
川久保病院	1	1	6	6	32	46	54
国立盛岡医療センター	1	0	7	7	31	46	54
計	12	30	102	100	488	732	876

令和6年（2024年1月～12月）小児救急各病院当番コマ数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
中 央	20	18	20	18	19	18	20	20	20	20	19	18	230
日 赤	12	11	11	11	12	10	10	11	11	10	11	13	133
盛岡医療センター	11	10	11	10	10	12	10	10	10	10	10	11	125
合 計	43	39	42	39	41	40	40	41	41	40	40	42	488

表3 二次救急医療輪番病院及び小児救急輪番病院日程表
(令和6年1月～3月)

1月		二次救急		小児救急	
日	曜日	A	B	宿直	日直
1	月	日赤	栃内	中央	中央
2	火	医大	国立	日赤	日赤
3	水	中央	八角	国立	国立
4	木	日赤	友愛	中央	
5	金	医大	つなぎ	国立	国立
6	土	中央	川久保	中央	中央
7	日	医大	遠山	日赤	日赤
8	月	医大	市立	中央	中央
9	火	中央	栃内	日赤	
10	水	日赤	八角	国立	国立
11	木	医大	国立	中央	
12	金	中央	友愛	日赤	
13	土	日赤	つなぎ	国立	国立
14	日	医大	川久保	中央	中央
15	月	中央	遠山	日赤	
16	火	中央	市立	中央	
17	水	医大	栃内	国立	
18	木	中央	国立	日赤	
19	金	日赤	八角	中央	中央
20	土	医大	友愛	中央	中央
21	日	中央	つなぎ	日赤	日赤
22	月	日赤	川久保	中央	
23	火	医大	遠山	日赤	
24	水	中央	市立	国立	国立
25	木	医大	栃内	中央	
26	金	医大	国立	中央	
27	土	中央	八角	国立	国立
28	日	日赤	友愛	中央	中央
29	月	医大	つなぎ	日赤	
30	火	中央	川久保	中央	
31	水	日赤	遠山	国立	

中央 20
日赤 12
国立 11
合計 43

2月		二次救急		小児救急	
日	曜日	A	B	宿直	日直
1	木	医大	市立	中央	
2	金	中央	栃内	国立	
3	土	中央	国立	日赤	日赤
4	日	医大	八角	中央	中央
5	月	中央	友愛	日赤	
6	火	日赤	つなぎ	中央	
7	水	医大	川久保	国立	
8	木	中央	遠山	日赤	
9	金	日赤	市立	中央	
10	土	医大	栃内	国立	国立
11	日	中央	国立	中央	中央
12	月	医大	八角	日赤	日赤
13	火	医大	友愛	中央	
14	水	中央	つなぎ	国立	
15	木	日赤	川久保	中央	
16	金	医大	遠山	国立	
17	土	中央	市立	日赤	日赤
18	日	日赤	栃内	中央	中央
19	月	医大	国立	中央	
20	火	中央	八角	日赤	
21	水	中央	友愛	国立	
22	木	医大	つなぎ	日赤	
23	金	中央	川久保	中央	中央
24	土	日赤	遠山	国立	国立
25	日	医大	市立	中央	中央
26	月	中央	栃内	日赤	
27	火	日赤	国立	中央	
28	水	医大	八角	国立	
29	木	中央	友愛	中央	

中央 18
日赤 11
国立 10
合計 39

3月		二次救急		小児救急	
日	曜日	A	B	宿直	日直
1	金	医大	つなぎ	国立	国立
2	土	医大	川久保	中央	中央
3	日	中央	遠山	日赤	日赤
4	月	日赤	市立	中央	
5	火	医大	国立	中央	
6	水	中央	栃内	国立	
7	木	日赤	八角	中央	
8	金	医大	友愛	日赤	
9	土	中央	つなぎ	国立	国立
10	日	中央	川久保	中央	中央
11	月	医大	遠山	中央	
12	火	中央	市立	日赤	
13	水	日赤	栃内	国立	
14	木	医大	国立	中央	
15	金	中央	八角	日赤	
16	土	日赤	友愛	中央	中央
17	日	医大	つなぎ	日赤	日赤
18	月	中央	川久保	中央	
19	火	医大	遠山	日赤	
20	水	医大	市立	国立	国立
21	木	中央	栃内	日赤	
22	金	日赤	国立	中央	
23	土	医大	八角	中央	中央
24	日	中央	友愛	国立	国立
25	月	日赤	つなぎ	中央	
26	火	医大	川久保	中央	
27	水	中央	遠山	国立	
28	木	中央	市立	中央	
29	金	医大	栃内	国立	
30	土	中央	国立	日赤	日赤
31	日	日赤	八角	中央	中央

中央 20
日赤 11
国立 11
合計 42

(令和6年4月～6月)

4月		二次救急		小児救急	
日	曜日	A	B	宿直	日直
1	月	医大友愛	中 央		
2	火	中 央 つなぎ	日 赤		
3	水	日 赤 川久保	国 立		
4	木	医大遠山	中 央		
5	金	中 央 市 立	日 赤		
6	土	医大栃内	国 立	国 立	
7	日	医大国立	中 央	中 央	
8	月	中 央 八 角	日 赤		
9	火	日 赤 友 愛	中 央		
10	水	医大 つなぎ	国 立		
11	木	中 央 川久保	日 赤		
12	金	日 赤 遠 山	国 立		
13	土	医大市立	中 央	中 央	
14	日	中 央 栃 内	日 赤	日 赤	
15	月	中 央 国 立	中 央		
16	火	医大八 角	中 央		
17	水	中 央 友 愛	国 立		
18	木	日 赤 つなぎ	中 央		
19	金	医大川久保	中 央		
20	土	中 央 遠 山	日 赤	日 赤	
21	日	日 赤 市 立	国 立	国 立	
22	月	医大栃 内	中 央		
23	火	中 央 国 立	日 赤		
24	水	医大八 角	国 立		
25	木	医大友 愛	中 央		
26	金	中 央 つなぎ	国 立		
27	土	日 赤 川久保	中 央	中 央	
28	日	医大遠 山	日 赤	日 赤	
29	月	中 央 市 立	中 央	中 央	
30	火	日 赤 栃 内	中 央		

中 央 18
日 赤 11
国 立 10
合 計 39

5月		二次救急		小児救急	
日	曜日	A	B	宿直	日直
1	水	医大八 角	国 立		
2	木	中 央 国 立	中 央		
3	金	中 央 友 愛	日 赤	日 赤	
4	土	医大 つなぎ	中 央	中 央	
5	日	中 央 川久保	国 立		
6	月	日 赤 遠 山	中 央	中 央	
7	火	医大市立	日 赤		
8	水	中 央 栃 内	国 立		
9	木	日 赤 国 立	中 央		
10	金	医大八 角	中 央		
11	土	中 央 友 愛	日 赤	日 赤	
12	日	医大 つなぎ	中 央	中 央	
13	月	医大川久保	中 央		
14	火	中 央 遠 山	日 赤		
15	水	日 赤 市 立	国 立		
16	木	医大栃 内	中 央		
17	金	中 央 国 立	日 赤		
18	土	日 赤 八 角	国 立	国 立	
19	日	医大 友 愛	中 央	中 央	
20	月	中 央 つなぎ	日 赤		
21	火	中 央 川久保	中 央		
22	水	医大遠 山	国 立		
23	木	中 央 市 立	日 赤		
24	金	日 赤 栃 内	国 立		
25	土	医大 国 立	中 央	中 央	
26	日	中 央 八 角	日 赤	日 赤	
27	月	日 赤 友 愛	中 央		
28	火	医大 つなぎ	日 赤		
29	水	中 央 川久保	国 立		
30	木	医大遠 山	中 央		
31	金	医大市立	中 央		

中 央 19
日 赤 12
国 立 10
合 計 41

6月		二次救急		小児救急	
日	曜日	A	B	宿直	日直
1	土	中 央 栃 内	国 立	国 立	
2	日	日 赤 国 立	中 央	中 央	
3	月	医大八 角	中 央		
4	火	中 央 友 愛	日 赤		
5	水	日 赤 つなぎ	国 立		
6	木	医大川久保	中 央		
7	金	中 央 遠 山	国 立		
8	土	中 央 市 立	日 赤	日 赤	
9	日	医大 栃 内	中 央	中 央	
10	月	中 央 遠 山	日 赤		
11	火	日 赤 八 角	中 央		
12	水	医大友 愛	国 立		
13	木	中 央 つなぎ	日 赤		
14	金	日 赤 川久保	中 央		
15	土	医大遠 山	中 央	中 央	
16	日	中 央 市 立	国 立	国 立	
17	月	医大 栃 内	中 央		
18	火	医大 国 立	日 赤		
19	水	中 央 八 角	国 立		
20	木	日 赤 友 愛	中 央		
21	金	医大 つなぎ	国 立		
22	土	中 央 川久保	日 赤	日 赤	
23	日	日 赤 遠 山	中 央	中 央	
24	月	医大市立	日 赤		
25	火	中 央 国 立	中 央		
26	水	中 央 栃 内	国 立		
27	木	医大八 角	中 央		
28	金	中 央 友 愛	日 赤		
29	土	日 赤 つなぎ	国 立	国 立	
30	日	医大川久保	中 央	中 央	

中 央 18
日 赤 10
国 立 12
合 計 40

(令和6年7月～9月)

7月	二次救急			小児救急	
	日曜日	A	B	宿直	日直
1	月	中 央 遠 山	日 赤		
2	火	日 赤 市 立	中 央		
3	水	医 大 栃 内	国 立		
4	木	中 央 国 立	日 赤		
5	金	医 大 八 角	中 央		
6	土	医 大 友 愛	中 央	中 央	
7	日	中 央 つ な ぎ	日 赤	日 赤	
8	月	日 赤 川 久 保	中 央		
9	火	医 大 遠 山	国 立		
10	水	中 央 市 立	中 央		
11	木	日 赤 栃 内	中 央		
12	金	医 大 国 立	日 赤		
13	土	中 央 八 角	中 央	中 央	
14	日	中 央 友 愛	国 立	国 立	
15	月	医 大 つ な ぎ	中 央	中 央	
16	火	中 央 川 久 保	日 赤		
17	水	日 赤 遠 山	国 立		
18	木	医 大 市 立	中 央		
19	金	中 央 栃 内	国 立		
20	土	日 赤 国 立	中 央	中 央	
21	日	医 大 八 角	日 赤	日 赤	
22	月	中 央 友 愛	中 央		
23	火	医 大 つ な ぎ	中 央		
24	水	医 大 川 久 保	国 立		
25	木	中 央 遠 山	日 赤		
26	金	日 赤 市 立	中 央		
27	土	医 大 栃 内	国 立	国 立	
28	日	中 央 国 立	中 央	中 央	
29	月	日 赤 八 角	中 央		
30	火	医 大 友 愛	日 赤		
31	水	中 央 つ な ぎ	国 立		

中 央 20
日 赤 10
国 立 10
合 計 40

8月	二次救急			小児救急	
	日曜日	A	B	宿直	日直
1	木	中 央 川 久 保	日 赤		
2	金	医 大 遠 山	国 立		
3	土	中 央 市 立	日 赤	日 赤	
4	日	日 赤 栃 内	中 央	中 央	
5	月	医 大 国 立	中 央		
6	火	中 央 八 角	日 赤		
7	水	日 赤 友 愛	国 立		
8	木	医 大 つ な ぎ	中 央		
9	金	中 央 川 久 保	日 赤		
10	土	医 大 遠 山	中 央	中 央	
11	日	医 大 市 立	国 立	国 立	
12	月	中 央 栃 内	中 央	中 央	
13	火	日 赤 国 立	中 央		
14	水	医 大 八 角	日 赤		
15	木	中 央 友 愛	国 立		
16	金	日 赤 つ な ぎ	国 立		
17	土	医 大 川 久 保	中 央	中 央	
18	日	中 央 遠 山	日 赤	日 赤	
19	月	中 央 市 立	中 央		
20	火	医 大 栃 内	日 赤		
21	水	中 央 八 角	国 立		
22	木	日 赤 国 立	中 央		
23	金	医 大 友 愛	中 央		
24	土	中 央 つ な ぎ	国 立	国 立	
25	日	日 赤 川 久 保	中 央	中 央	
26	月	医 大 遠 山	中 央		
27	火	中 央 市 立	日 赤		
28	水	医 大 栃 内	国 立		
29	木	医 大 国 立	中 央		
30	金	中 央 八 角	日 赤		
31	土	日 赤 友 愛	中 央	中 央	

中 央 20
日 赤 11
国 立 10
合 計 41

9月	二次救急			小児救急	
	日曜日	A	B	宿直	日直
1	日	医 大 つ な ぎ	日 赤	日 赤	
2	月	中 央 川 久 保	中 央		
3	火	日 赤 遠 山	中 央		
4	水	医 大 市 立	国 立		
5	木	中 央 栃 内	中 央		
6	金	中 央 国 立	日 赤		
7	土	医 大 八 角	中 央	中 央	
8	日	中 央 友 愛	国 立	国 立	
9	月	日 赤 つ な ぎ	中 央		
10	火	医 大 川 久 保	中 央		
11	水	中 央 遠 山	国 立		
12	木	日 赤 市 立	中 央		
13	金	医 大 栃 内	国 立		
14	土	中 央 国 立	中 央	中 央	
15	日	医 大 八 角	日 赤	日 赤	
16	月	医 大 友 愛	中 央	中 央	
17	火	中 央 つ な ぎ	日 赤		
18	水	日 赤 川 久 保	国 立		
19	木	医 大 遠 山	中 央		
20	金	中 央 市 立	日 赤		
21	土	日 赤 栃 内	国 立	国 立	
22	日	医 大 国 立	中 央	中 央	
23	月	中 央 八 角	日 赤	日 赤	
24	火	中 央 友 愛	中 央		
25	水	医 大 つ な ぎ	国 立		
26	木	中 央 川 久 保	中 央		
27	金	日 赤 遠 山	国 立		
28	土	医 大 市 立	中 央	中 央	
29	日	中 央 栃 内	日 赤	日 赤	
30	月	日 赤 国 立	中 央		

中 央 20
日 赤 11
国 立 10
合 計 41

(令和6年10月～12月)

10月	二次救急				小児救急	
	日曜日	A	B	宿直	日直	
1	火	医大八角	日赤			
2	水	中中央友愛	国立			
3	木	医大つなぎ	中央			
4	金	医大川久保	日赤			
5	土	中中央遠山	国立			
6	日	日赤市立	中央	中央		
7	月	医大栃内	中央			
8	火	中中央国立	日赤			
9	水	日赤八角	国立			
10	木	医大友愛	中央			
11	金	中中央つなぎ	国立			
12	土	中中央川久保	中央	中央		
13	日	医大遠山	日赤	日赤		
14	月	中中央市立	中央	中央		
15	火	日赤国立	中央			
16	水	医大栃内	国立			
17	木	中中央八角	日赤			
18	金	日赤友愛	中央			
19	土	医大つなぎ	中央	中央		
20	日	中中央川久保	国立	国立		
21	月	医大遠山	中央			
22	火	医大市立	日赤			
23	水	中中央栃内	国立			
24	木	日赤国立	中央			
25	金	医大八角	中央			
26	土	中中央友愛	日赤	日赤		
27	日	日赤つなぎ	中央	中央		
28	月	医大川久保	中央			
29	火	中中央遠山	日赤			
30	水	中中央市立	国立			
31	木	医大栃内	中央			

中央 20
日赤 10
国立 10
合計 40

11月	二次救急				小児救急	
	日曜日	A	B	宿直	日直	
1	金	中中央国立	日赤			
2	土	日赤八角	中央	中央		
3	日	中中央友愛	国立	国立		
4	月	中中央つなぎ	日赤	日赤		
5	火	医大川久保	中央			
6	水	医大遠山	国立			
7	木	中中央市立	日赤			
8	金	医大栃内	国立			
9	土	医大国立	中央	中央		
10	日	日赤八角	日赤	中央		
11	月	日赤友愛	中央			
12	火	医大つなぎ	中央			
13	水	中中央川久保	国立			
14	木	日赤遠山	中央			
15	金	医大市立	日赤			
16	土	中中央栃内	国立	国立		
17	日	中中央国立	中央	中央		
18	月	医大八角	中央			
19	火	中中央友愛	日赤			
20	水	日赤つなぎ	国立			
21	木	医大川久保	中央			
22	金	中中央遠山	国立			
23	土	日赤市立	中央	中央		
24	日	医大栃内	日赤	日赤		
25	月	中中央国立	中央			
26	火	医大八角	中央			
27	水	医大友愛	国立			
28	木	中中央つなぎ	日赤			
29	金	日赤川久保	中央			
30	土	医大遠山	中央	中央		

中央 19
日赤 11
国立 10
合計 40

12月	二次救急				小児救急	
	日曜日	A	B	宿直	日直	
1	日	中中央市立	国立	国立	国立	
2	月	日赤栃内	中央			
3	火	医大国立	中央			
4	水	中中央八角	国立			
5	木	中中央友愛	日赤			
6	金	医大つなぎ	国立			
7	土	中中央川久保	日赤	日赤		
8	日	日赤遠山	中央	中央		
9	月	医大市立	中央			
10	火	中中央栃内	日赤			
11	水	日赤八角	国立			
12	木	医大国立	中央			
13	金	中中央友愛	日赤			
14	土	医大つなぎ	国立	国立		
15	日	医大川久保	中央	中央		
16	月	中中央遠山	日赤			
17	火	日赤市立	中央			
18	水	医大栃内	国立			
19	木	中中央国立	日赤			
20	金	日赤八角	中央			
21	土	医大友愛	日赤	日赤		
22	日	中中央つなぎ	中央	中央		
23	月	中中央川久保	日赤			
24	火	医大遠山	中央			
25	水	中中央市立	国立			
26	木	日赤栃内	中央			
27	金	医大国立	日赤			
28	土	中中央八角	中央	中央		
29	日	日赤友愛	国立	国立		
30	月	医大つなぎ	日赤	日赤		
31	火	中中央川久保	中央	中央		

中央 18
日赤 13
国立 11
合計 42

表 4 二次救急患者データ

月	日	1日			2日 輪番日			3日 輪番日			4日			5日 輪番日			6日			7日									
曜	日	日			月			火			水			木			金			土									
病	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院	外	来	入	院				
		救急車		救急車	救急車		救急車	救急車	救急車	救急車		救急車	救急車	救急車	救急車		救急車	救急車	救急車	救急車	救急車		救急車	救急車	救急車				
深夜	AM0 ~ AM6	内科系			2		1		1		1								1	1				1					
		外科系	2	1				1		1					1	1	1				1								
	小児科							2			1																		
	産科 その他	2	1		1	2		2	2		1			3			1	1				5		1					
時間外	AM6 ~ AM9	内科系						1	1	1	1	1		1	1										1				
		外科系						1	1																1	2			
	小児科																							1					
	産科 その他	1	1					1																2	1				
土曜日	AM9 ~ PM0	内科系																							2	1			
		外科系																							1	1			
	小児科																							1					
	産科 その他																							1					
土曜日	PM0 ~ PM5	内科系																						1	1	2			
		外科系																							2				
	小児科																								4				
	産科 その他																								12	3			
日曜日	AM9 ~ PM5	内科系	3	1																									
		外科系	1	1	1																								
	小児科																												
	産科 その他	7	1	1																									
時間外	PM5 ~ PM8	内科系	1						1	1		2	1	1	1	1		1	2		2		2	1	1				
		外科系	1		1	1	4	1		1		1	1					1			3	2		1					
	小児科				2					1					1									1					
	産科 その他	2	2					8	1	1	2	1	1	1	2							5	1	1					
夜間	PM8 ~ PM12	内科系	1		1	2	2	1	1	1	1	1	2		2	1	1	3					1		2				
		外科系			1	4	1		1			3		2		1	1		1	1		1	1						
	小児科				1			1							1	1				1		3		1					
	産科 その他	3	1		1	1	1		3	2		1	2	4	1	2							6	1	1				
合計		24	9	4	7	15	6	2	3	22	9	4	4	15	7	2	5	13	4	1	10	5	2	5	4	51	9	10	7

二次救急患者（以下二次患者と略記す）データについては表4に示す通り、小児救急患者（以下小児患者と略記す）（以下小児患者と略記す）については表5に示す通りの資料を各二次救急医療病院より各病院事務長の責任において1ヵ月分をまとめ、翌月中旬まで医師会に提出される。

表 6 病院別・月別二次救急患者年間総数

病院名	年月												合計 (名)	月平均	比率 (%)
	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
中央病院	1,239	1,039	1,022	991	1,131	1,068	1,184	1,381	1,190	1,172	1,070	1,395	13,882	1,157	40.7
日赤病院	363	301	280	262	318	290	266	342	241	252	227	369	3,511	293	10.3
市立病院	221	154	130	144	176	156	165	208	162	131	161	200	2,008	167	5.9
遠山病院	20	21	26	24	36	21	25	53	36	24	41	49	376	31	1.1
八角病院	302	229	187	131	188	143	171	301	190	175	188	367	2,572	214	7.5
岩手医大	553	500	468	499	569	514	528	635	578	545	540	585	6,514	543	19.1
栃内病院	53	42	49	54	116	59	59	49	116	44	42	48	731	61	2.1
つなぎ温泉病院	73	54	53	53	58	62	52	67	69	39	44	70	694	58	2.0
友愛病院	92	81	83	65	63	81	92	103	100	69	71	95	995	83	2.9
川久保病院	146	106	156	31	107	31	121	161	90	26	22	130	1,127	94	3.3
盛岡医療センター	149	132	146	114	128	137	164	176	119	142	136	179	1,722	144	5.0
合計	3,211	2,659	2,600	2,368	2,890	2,562	2,827	3,476	2,891	2,619	2,542	3,487	34,132	2,844	100

図 1 二次救急病院来院患者総数月別分布

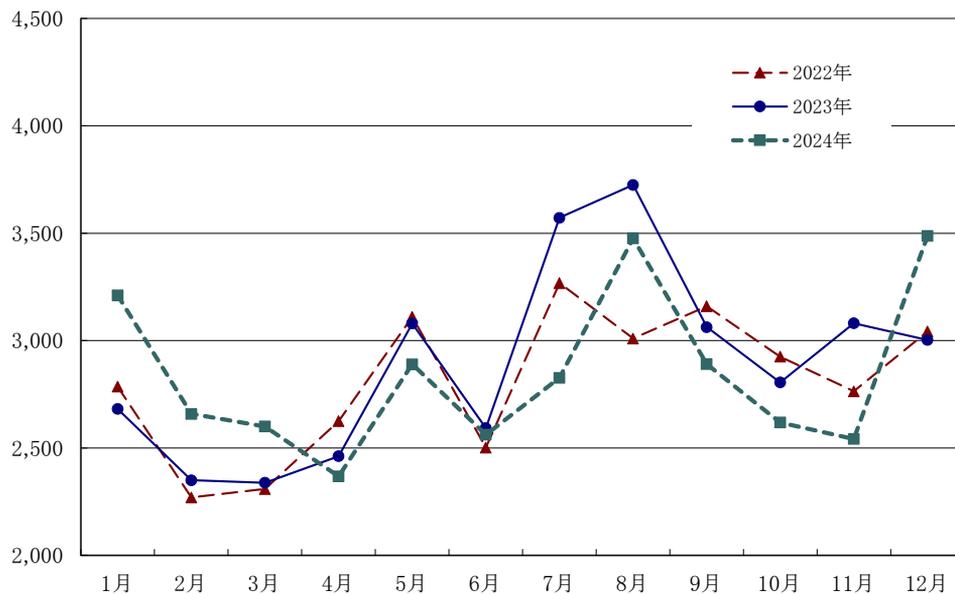


表7 二次救急病院における来院患者の実態（年間総数）

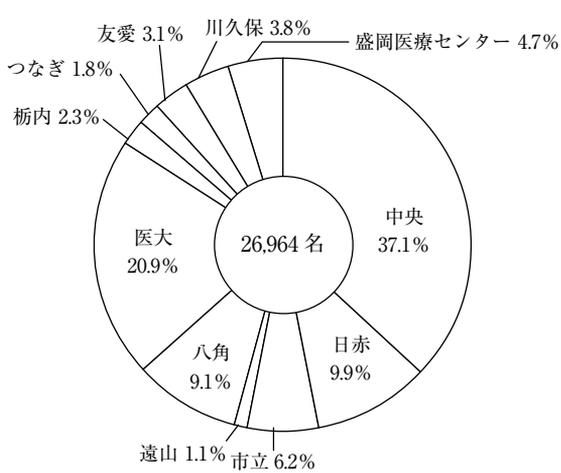
2024年1月 ～12月	外 来		入 院		うち救急車搬入		総 数
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	
中 央 病 院	10,007名	37.1%	3,875名	54.1%	5,247名	53.1%	13,882名
日 赤 病 院	2,679	9.9	832	11.6	1,184	12.0	3,511
市 立 病 院	1,660	6.2	348	4.9	716	7.2	2,008
遠 山 病 院	307	1.1	69	1.0	255	2.6	376
八 角 病 院	2,442	9.1	130	1.8	265	2.7	2,572
岩 手 医 大	5,641	20.9	873	12.2	185	1.9	6,514
栃 内 病 院	631	2.3	100	1.4	246	2.5	731
つなぎ温泉病院	478	1.8	216	3.0	344	3.5	694
友 愛 病 院	837	3.1	158	2.2	414	4.2	995
川 久 保 病 院	1,012	3.8	115	1.6	206	2.1	1,127
盛岡医療センター	1,270	4.7	452	6.3	819	8.3	1,722
合 計	26,964	100	7,168	100	9,881	100	34,132

表8 二次救急病院における来院患者の実態（月平均）

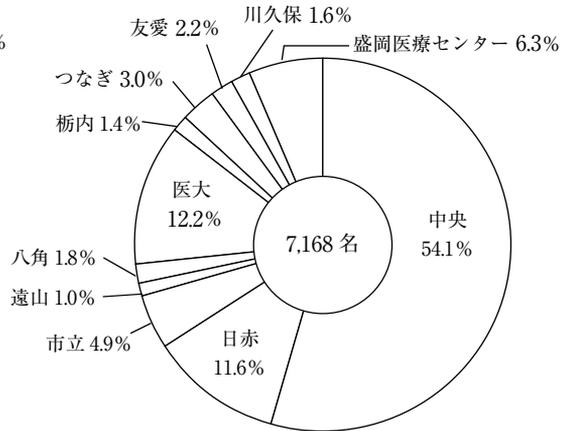
2024年1月 ～12月	外 来 患 者 数	入 院 患 者 数	救 急 車 搬 入 患 者 数	総 計
中 央 病 院	834名	323名	437名	1,157名
日 赤 病 院	223	69	99	293
市 立 病 院	138	29	60	167
遠 山 病 院	26	6	21	31
八 角 病 院	204	11	22	214
岩 手 医 大	470	73	15	543
栃 内 病 院	53	8	21	61
つなぎ温泉病院	40	18	29	58
友 愛 病 院	70	13	35	83
川 久 保 病 院	84	10	17	94
盛岡医療センター	106	38	68	144
合 計	2,247	597	823	2,844

図2 二次救急病院における来院患者の外来・入院・救急車搬入（表7参照）

< 外 来 >



< 入 院 >



< 救 急 車 >

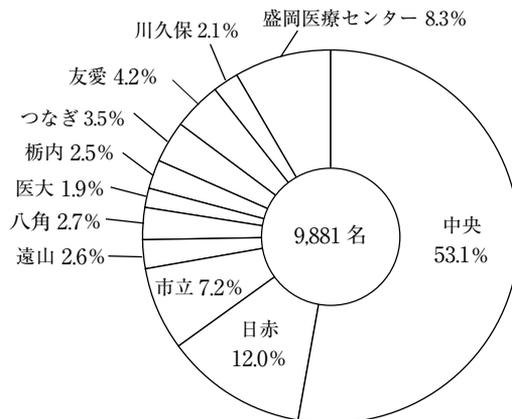


表9 二次救急病院における救急車搬入患者内訳 (2024.1～2024.12)

時間帯 (表4参照)	外 来		入 院		科 別	外 来		入 院	
	患者数	比 率	患者数	比 率		患者数	比 率	患者数	比 率
深 夜	1,094	19.0	652	15.8	内 科 系	2,050	35.6	2,270	55.0
時間外 A	726	12.6	545	13.2	外 科 系	1,603	27.8	1,208	29.3
土曜日 (1)	182	3.2	165	4.0	そ の 他	2,103	36.5	647	15.7
土曜日 (2)	372	6.5	235	5.7	計	5,756	(100)	4,125	(100)
日 祭 日	760	13.2	542	13.1					
時間外 B	1,298	22.6	1,099	26.6					
夜 間	1,324	23.0	887	21.5					
計	5,756	(100)	4,125	(100)					

図3 二次救急病院における救急車搬入内訳

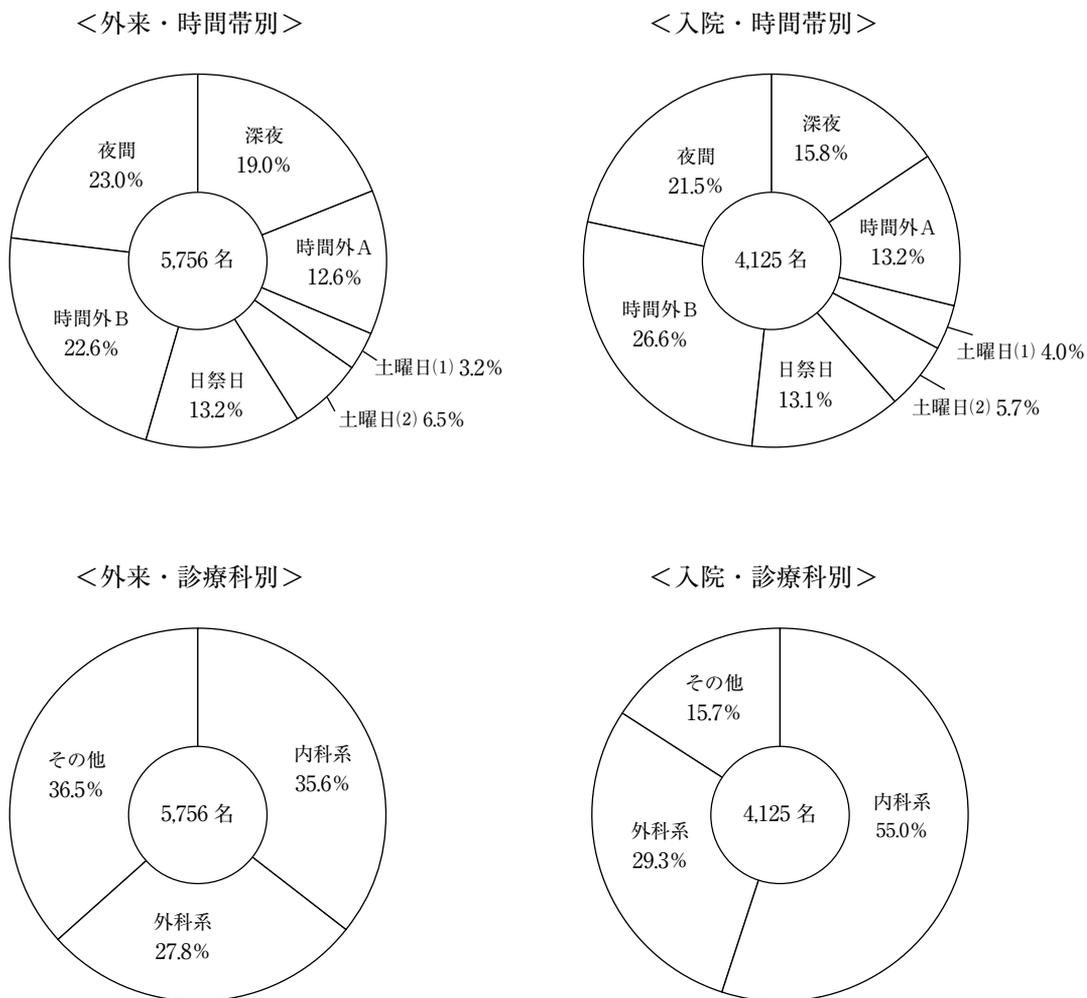
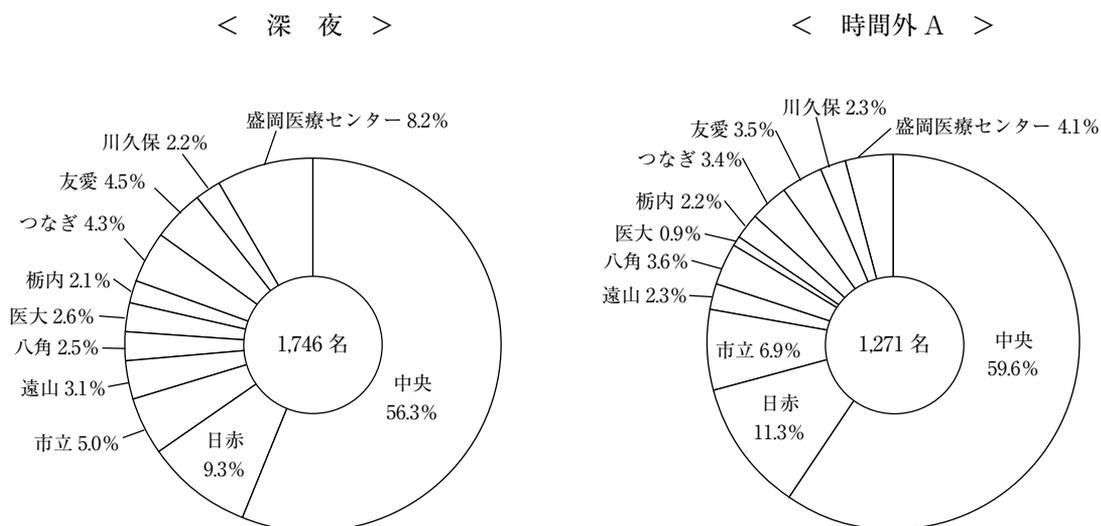


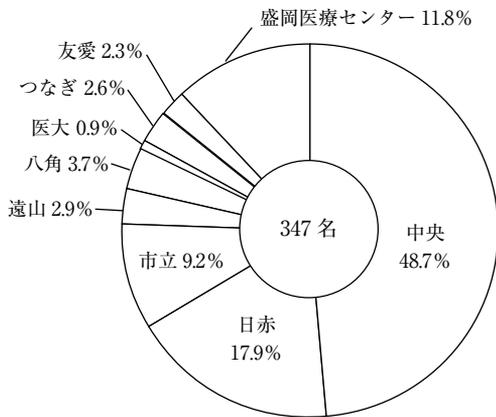
表 10 二次救急病院における病院別救急車搬入患者内訳 (2024.1 ~ 2024.12)

	深夜		時間外A		土曜日(1)		土曜日(2)		日祭日		時間外B		夜間		総合	
	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率
中央病院	983	56.3	758	59.6	1169	48.7	284	46.8	623	47.8	1,223	51.0	1,207	54.6	5,247	53.1
日赤病院	162	9.3	143	11.3	62	17.9	108	17.8	148	11.4	318	13.3	243	11.0	1,184	12.0
市立病院	88	5.0	88	6.9	32	9.2	42	6.9	135	10.4	201	8.4	130	5.9	716	7.2
遠山病院	54	3.1	29	2.3	10	2.9	26	4.3	43	3.3	39	1.6	54	2.4	255	2.6
八角病院	43	2.5	46	3.6	13	3.7	19	3.1	33	2.5	56	2.3	55	2.5	265	2.7
岩手医大	45	2.6	11	0.9	3	0.9	7	1.2	17	1.3	50	2.1	52	2.4	185	1.9
栃内病院	37	2.1	28	2.2	0	0.0	7	1.2	40	3.1	71	3.0	63	2.8	246	2.5
つなぎ温泉病院	75	4.3	43	3.4	9	2.6	18	3.0	34	2.6	81	3.4	84	3.8	344	3.5
友愛病院	78	4.5	44	3.5	8	2.3	27	4.4	76	5.8	99	4.1	82	3.7	414	4.2
川久保病院	38	2.2	29	2.3	0	0.0	17	2.8	26	2.0	53	2.2	43	1.9	206	2.1
盛岡医療センター	143	8.2	52	4.1	41	11.8	52	8.6	127	9.8	206	8.6	198	9.0	819	8.3
合計	1,746	(100)	1,271	(100)	347	(100)	607	(100)	1,302	(100)	2,397	(100)	2,211	(100)	9,881	(100)

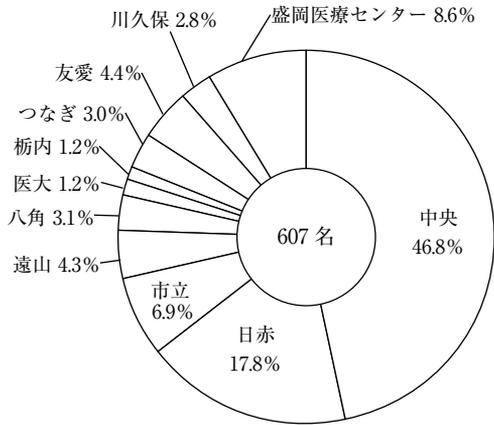
図 4 二次救急病院における病院別、時間帯毎の救急車搬入内訳



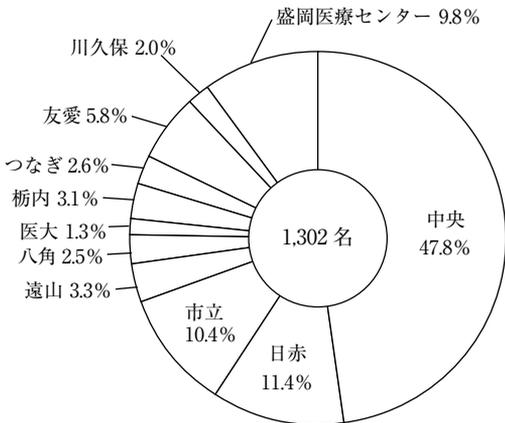
< 土曜日(1) >



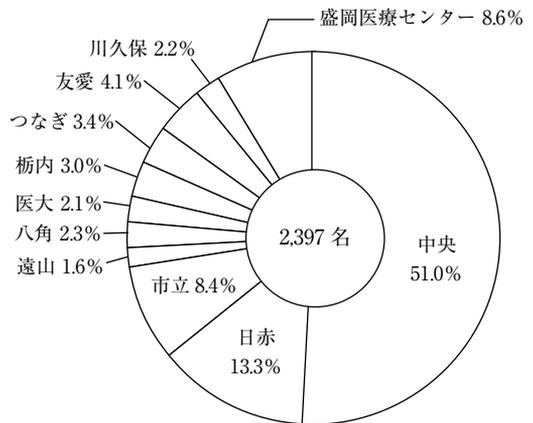
< 土曜日(2) >



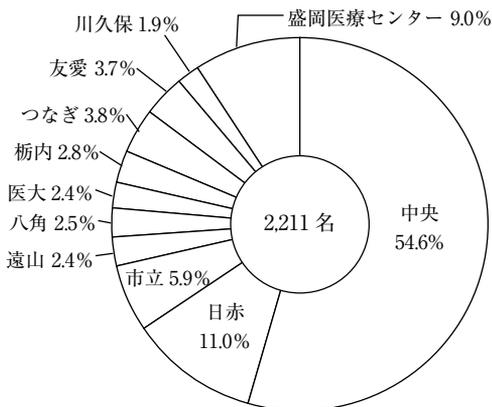
< 日祭日 >



< 時間外 B >



< 夜間 >



< 総合 >

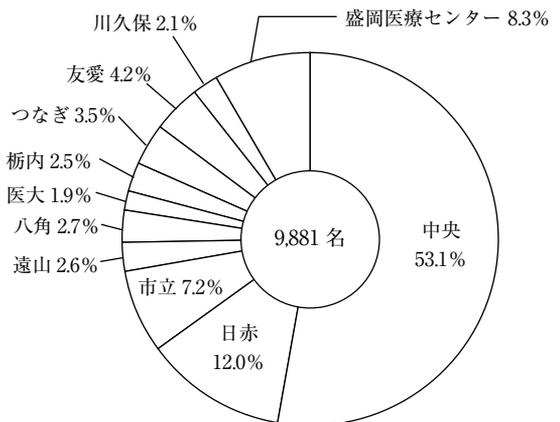


表 11 二次救急病院における外来・入院総合分布（系別による分類Ⅰ）

年間総数		総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	1,449	1,876	3,325	120.8	156.3	277.1
	外科系	2,207	1,091	3,298	183.9	90.9	274.8
	その他	6,351	908	7,259	529.3	75.7	604.9
日赤病院	内科系	643	220	863	53.6	18.3	71.9
	外科系	1,249	297	1,546	104.1	24.8	128.8
	その他	787	315	1,102	65.6	26.3	91.8
市立病院	内科系	793	192	985	66.1	16.0	82.1
	外科系	864	155	1,019	72.0	12.9	84.9
	その他	3	1	4	0.3	0.1	0.3
遠山病院	内科系	307	69	376	25.6	5.8	31.3
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	2,151	113	2,264	179.3	9.4	188.7
	外科系	291	16	307	24.3	1.3	25.6
	その他	0	1	1	0.0	0.1	0.1
岩手医大	内科系	2,938	448	3,386	244.8	37.3	282.2
	外科系	1,939	251	2,190	161.6	20.9	182.5
	その他	764	174	938	63.7	14.5	78.2
栃内病院	内科系	31	2	33	2.6	0.2	2.8
	外科系	600	98	698	50.0	8.2	58.2
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	476	216	692	39.7	18.0	57.7
	外科系	2	0	2	0.2	0.0	0.2
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	459	124	583	38.3	10.3	48.6
	外科系	146	5	151	12.2	0.4	12.6
	その他	232	29	261	19.3	2.4	21.8
川久保病院	内科系	487	113	600	40.6	9.4	50.0
	外科系	1	1	2	0.1	0.1	0.2
	その他	524	1	525	43.7	0.1	43.8
盛岡医療センター	内科系	343	232	575	28.6	19.3	47.9
	外科系	472	106	578	39.3	8.8	48.2
	その他	455	114	569	37.9	9.5	47.4
合 計	内科系	10,077	3,605	13,682	839.8	300.4	1,140.2
	外科系	7,771	2,020	9,791	647.6	168.3	815.9
	その他	9,116	1,543	10,659	759.7	128.6	888.3
総 合 計		26,964	7,168	34,132	2,247.0	597.3	2,844.3
				1日平均	73.9	19.6	93.5

表 12 二次救急病院における来院患者の総合分布（系別による分類Ⅱ）

病 院 名	内 科 系		外 科 系		そ の 他	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
中央病院	3,325	24.3	3,298	33.7	7,259	68.1
日赤病院	863	6.3	1,546	15.8	1,102	10.3
市立病院	985	7.2	1,019	10.4	4	0.04
遠山病院	376	2.7	0	0.0	0	0.0
八角病院	2,264	16.5	307	3.1	1	0.01
岩手医大	3,386	24.7	2,190	22.4	938	8.8
栃内病院	33	0.2	698	7.1	0	0.0
つなぎ温泉病院	692	5.1	2	0.0	0	0.0
友愛病院	583	4.3	151	1.5	261	2.4
川久保病院	600	4.4	2	0.02	525	4.9
盛岡医療センター	575	4.2	578	5.9	569	5.3
合 計	13,682	(100)	9,791	(100)	10,659	(100)

図 5 二次救急医療病院における来院患者の総合分布（系別による分類）

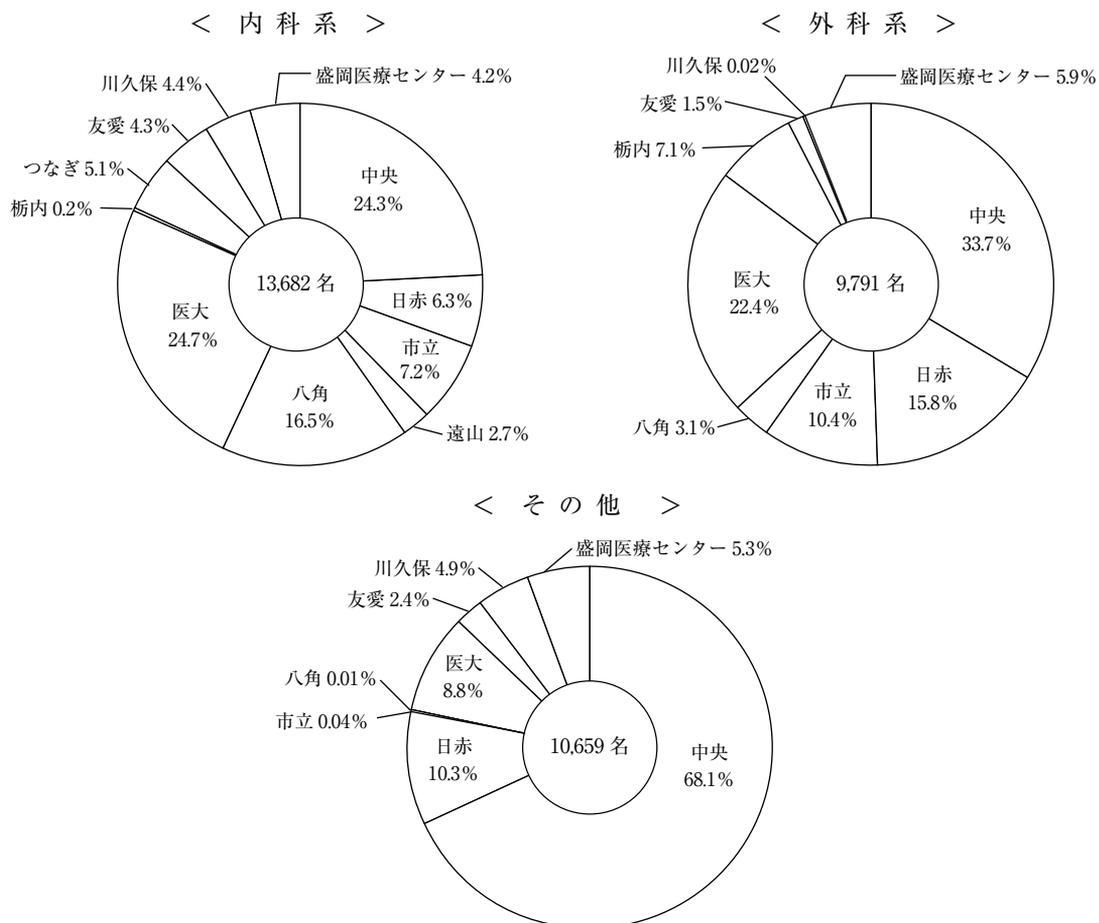


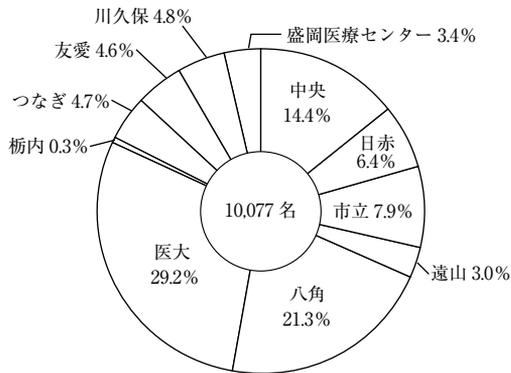
表 13 二次救急病院における来院患者の総合分布（系別による分類Ⅱ）

病 院 名	外 来						入 院					
	内 科 系		外 科 系		そ の 他		内 科 系		外 科 系		そ の 他	
	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率	患者数	比率
中央病院	1,449	14.4	2,207	28.4	6,351	69.7	1,876	52.0	1,091	55.4	908	58.8
日赤病院	643	6.4	1,249	16.1	787	8.6	220	6.1	297	14.7	315	20.4
市立病院	793	7.9	864	11.1	3	0.03	192	5.3	155	7.7	1	0.1
遠山病院	307	3.0	0	0.0	0	0.0	69	1.9	0	0.0	0	0.0
八角病院	2,151	21.3	291	3.7	0	0.0	113	3.1	16	0.8	1	0.1
岩手医大	2,938	29.2	1,939	25.0	764	8.4	448	12.4	251	12.4	174	11.3
栃内病院	31	0.3	600	7.7	0	0.0	2	0.06	98	4.9	0	0.0
つなぎ温泉病院	476	4.7	2	0.03	0	0.0	216	6.0	0	0.0	0	0.0
友愛病院	459	4.6	146	1.9	232	2.5	124	3.4	5	0.2	29	1.9
川久保病院	487	4.8	1	0.01	524	5.7	113	3.1	1	0.05	1	0.1
盛岡医療センター	343	3.4	472	6.1	455	5.0	232	6.4	106	5.2	114	7.4
合 計	10,077	(100)	7,771	(100)	9,116	(100)	3,605	(100)	2,020	(100)	1,543	(100)

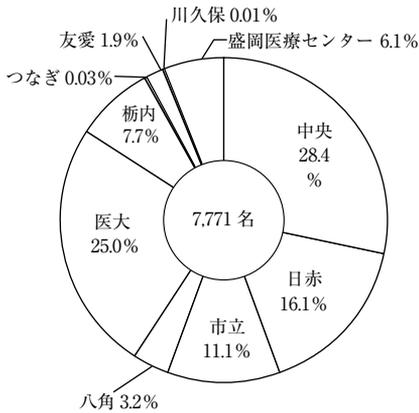
図6 二次救急病院における来院患者の外来・入院病院別分布

< 外来分布 >

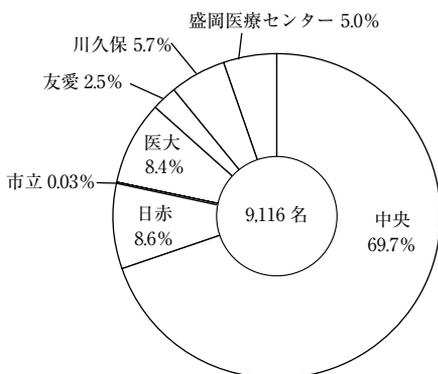
< 内科系 >



< 外科系 >

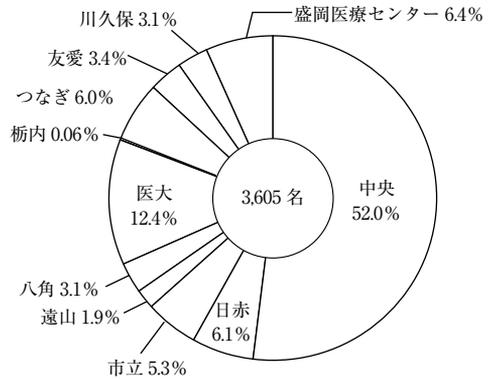


< その他 >

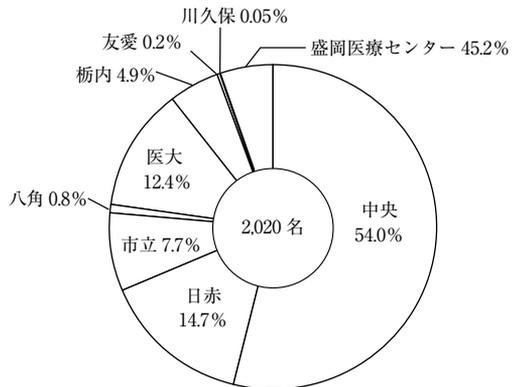


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

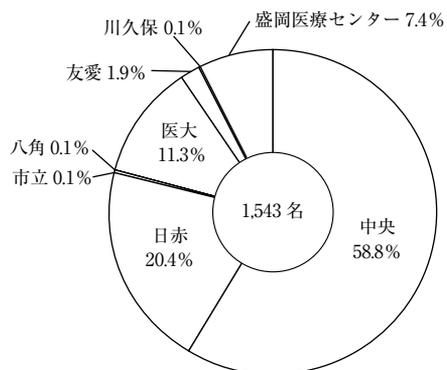


表 14 二次救急病院における来院患者の外来・入院時間別分布

		外 来		入 院	
		患 者 数	比 率	患 者 数	比 率
内 科 系	深 夜	1,106	11.0	517	14.3
	時 間 外 A	1,051	10.4	431	12.0
	土 曜 日 (1)	825	8.2	216	6.0
	土 曜 日 (2)	749	7.4	303	8.4
	日 祭 日	2,402	23.8	595	16.5
	時 間 外 B	2,126	21.1	910	25.2
	夜 間	1,818	18.0	633	17.6
	計	10,077	100	3,605	100
外 科 系	深 夜	618	8.0	251	12.4
	時 間 外 A	621	8.0	214	10.6
	土 曜 日 (1)	532	6.8	129	6.4
	土 曜 日 (2)	889	11.4	214	10.6
	日 祭 日	1,610	20.7	335	16.6
	時 間 外 B	1,878	24.2	511	25.3
	夜 間	1,623	20.9	366	18.1
	計	7,771	100	2,020	100
そ の 他	深 夜	1,306	14.3	238	15.4
	時 間 外 A	757	8.3	98	6.4
	土 曜 日 (1)	321	3.5	77	5.0
	土 曜 日 (2)	717	7.9	158	10.2
	日 祭 日	1,782	19.5	220	14.3
	時 間 外 B	2,142	23.5	389	25.2
	夜 間	2,091	22.9	363	23.5
	計	9,116	100	1,543	100
総 計		26,964		7,168	

図7 二次救急病院における来院患者の外来・入院時間別分布

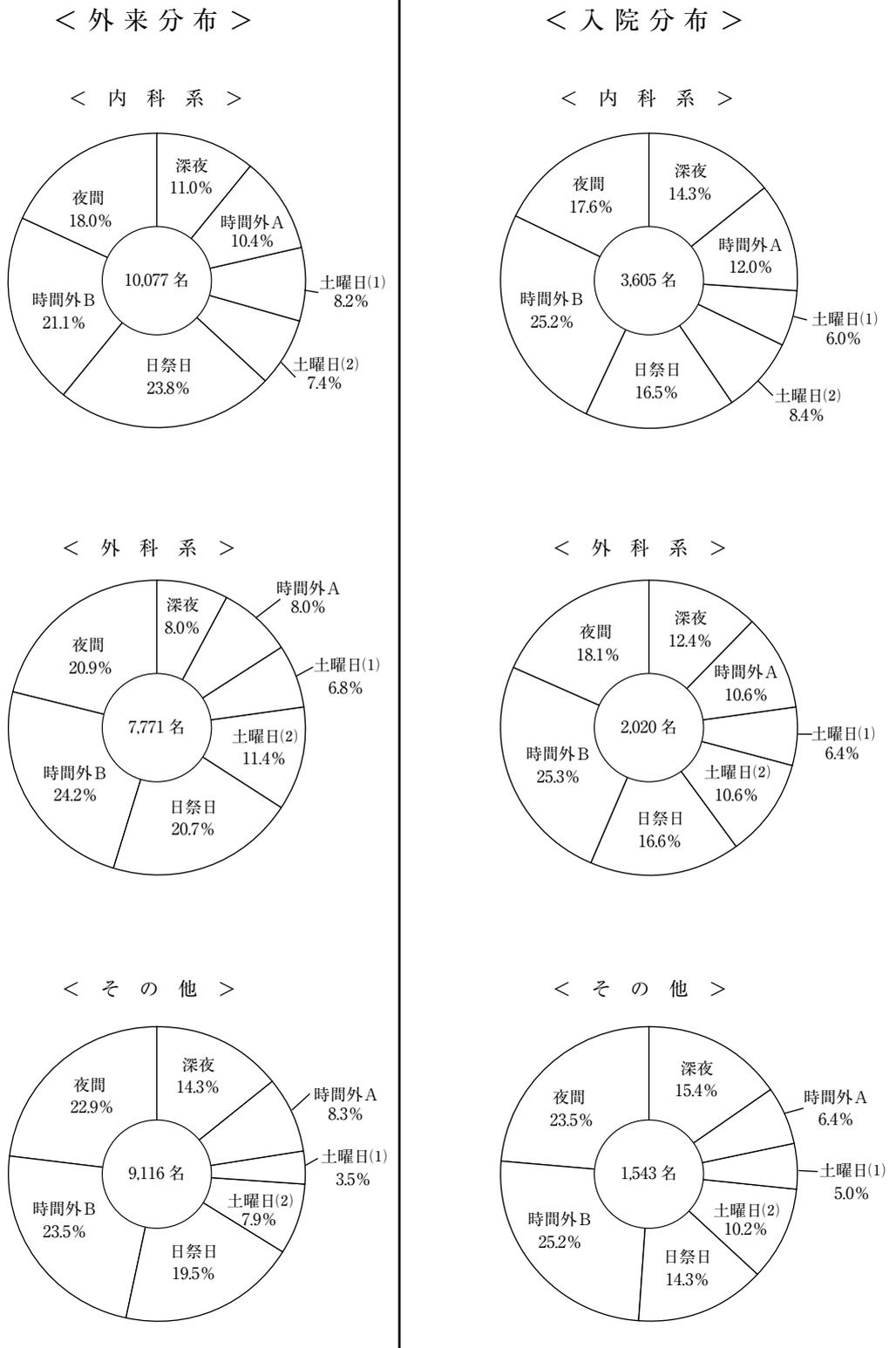


図 8 二次救急病院における時間帯別外来患者比率

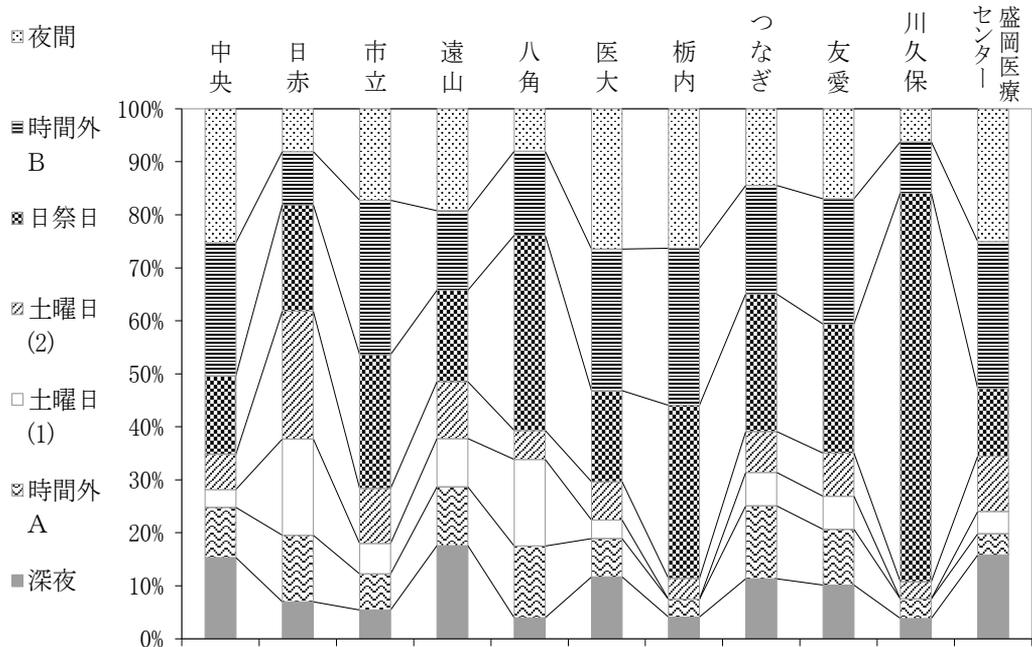


図 9 二次救急病院における時間帯別入院患者比率

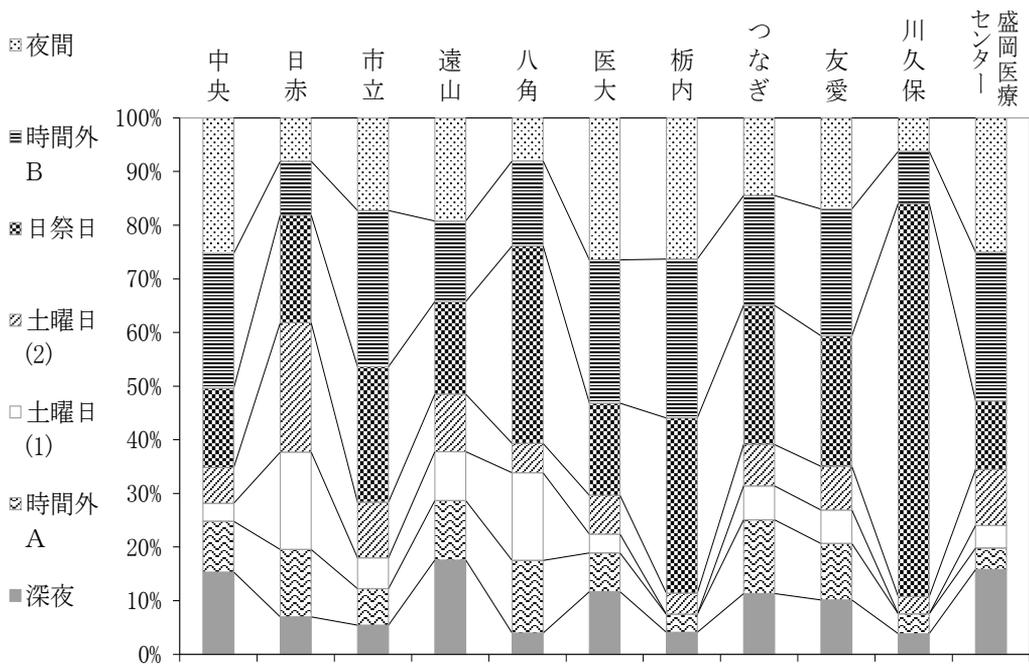


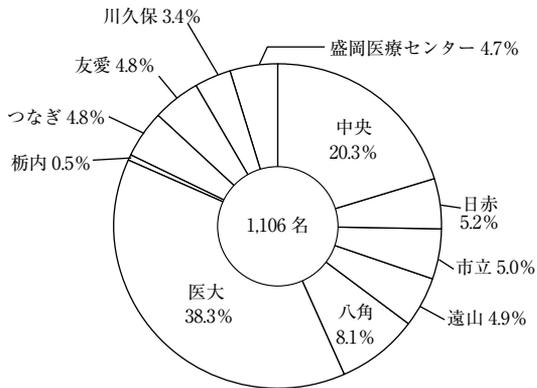
表 15 二次救急病院の外来・入院分布（深夜）

深夜 (AM0～AM6)	2024.1～ 2024.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	224	262	486	18.7	21.8	40.5
	外科系	261	150	411	21.8	12.5	34.3
	その他	1,052	160	1,212	87.7	13.3	101.0
日赤病院	内科系	58	25	83	4.8	2.1	6.9
	外科系	85	31	116	7.1	2.6	9.7
	その他	44	22	66	3.7	1.8	5.5
市立病院	内科系	55	20	75	4.6	1.7	6.3
	外科系	35	11	46	2.9	0.9	3.8
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
遠山病院	内科系	54	9	63	4.5	0.8	5.3
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	90	11	101	7.5	0.9	8.4
	外科系	7	1	8	0.6	0.1	0.7
	その他	0	1	1	0.0	0.1	0.1
岩手医大	内科系	424	74	498	35.3	6.2	41.5
	外科系	169	28	197	14.1	2.3	16.4
	その他	67	36	103	5.6	3.0	8.6
栃内病院	内科系	5	1	6	0.4	0.1	0.5
	外科系	21	18	39	1.8	1.5	3.3
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	53	37	90	4.4	3.1	7.5
	外科系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	53	15	68	4.4	1.3	5.7
	外科系	8	1	9	0.7	0.1	0.8
	その他	24	2	26	2.0	0.2	2.2
川久保病院	内科系	38	16	54	3.2	1.3	4.5
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	1	0	1	0.1	0.0	0.1
盛岡医療センター	内科系	52	47	99	4.3	3.9	8.3
	外科系	31	11	42	2.6	0.9	3.5
	その他	118	17	135	9.8	1.4	11.3
合 計	内科系	1,106	517	1,623	92.2	43.1	135.3
	外科系	618	251	869	51.5	20.9	72.4
	その他	1,306	238	1,544	108.8	19.8	128.7
総 合 計		3,030	1,006	4,036	252.5	83.8	336.3
				1日平均	8.3	2.8	11.1

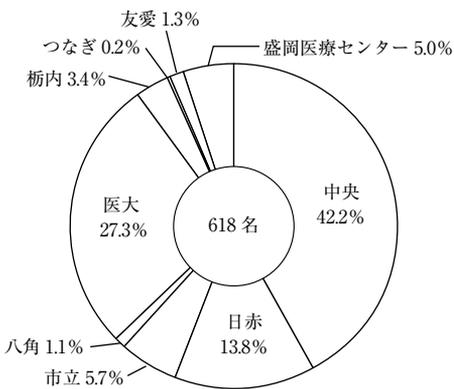
図 10 二次救急病院の外来・入院分布（深夜）

< 外来分布 >

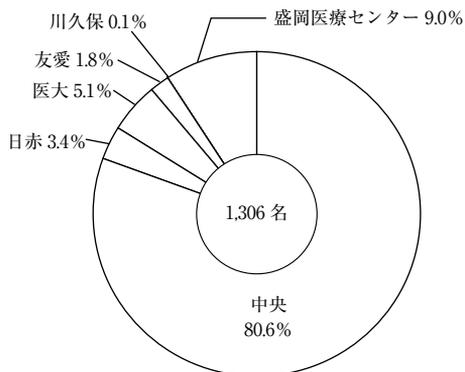
< 内科系 >



< 外科系 >

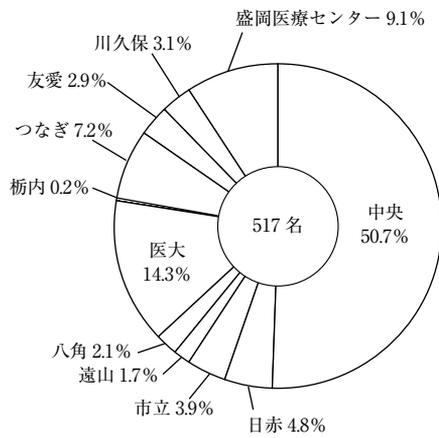


< その他 >

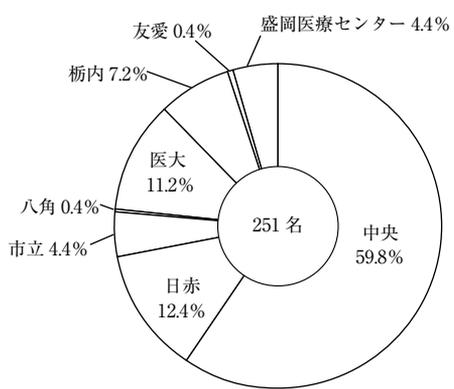


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

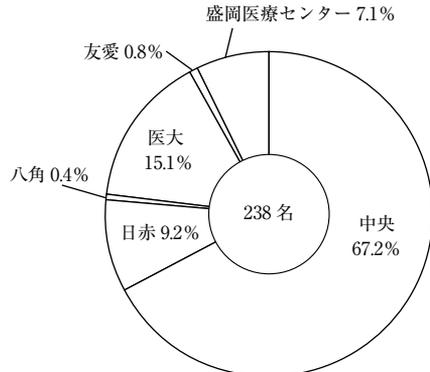


表 16 二次救急病院の外来・入院分布（時間外A）

時間外A (AM6～AM9)	2024.1～ 2024.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	161	275	436	13.4	22.9	36.3
	外科系	190	126	316	15.8	10.5	26.3
	その他	595	50	645	49.6	4.2	53.8
日赤病院	内科系	85	15	100	7.1	1.3	8.3
	外科系	183	30	213	15.3	2.5	17.8
	その他	69	31	100	5.8	2.6	8.3
市立病院	内科系	59	26	85	4.9	2.2	7.1
	外科系	54	25	79	4.5	2.1	6.6
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
遠山病院	内科系	34	6	40	2.8	0.5	3.3
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	304	21	325	25.3	1.8	27.1
	外科系	27	2	29	2.3	0.2	2.4
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	245	28	273	20.4	2.3	22.8
	外科系	123	14	137	10.3	1.2	11.4
	その他	37	9	46	3.1	0.8	3.8
栃内病院	内科系	2	0	2	0.2	0.0	0.2
	外科系	19	12	31	1.6	1.0	2.6
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	66	27	93	5.5	2.3	7.8
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	48	9	57	4.0	0.8	4.8
	外科系	11	0	11	0.9	0.0	0.9
	その他	29	3	32	2.4	0.3	2.7
川久保病院	内科系	26	10	36	2.2	0.8	3.0
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	11	0	11	0.9	0.0	0.9
盛岡医療センター	内科系	21	14	35	1.8	1.2	2.9
	外科系	14	5	19	1.2	0.4	1.6
	その他	16	5	21	1.3	0.4	1.8
合 計	内科系	1,051	431	1,482	87.6	35.9	123.5
	外科系	621	214	835	51.8	17.8	69.6
	その他	757	98	855	63.1	8.2	71.3
総 合 計		2,429	743	3,172	202.4	61.9	264.3
				1日平均	6.7	2.0	8.7

図 11 二次救急病院の外来・入院分布（時間外A）

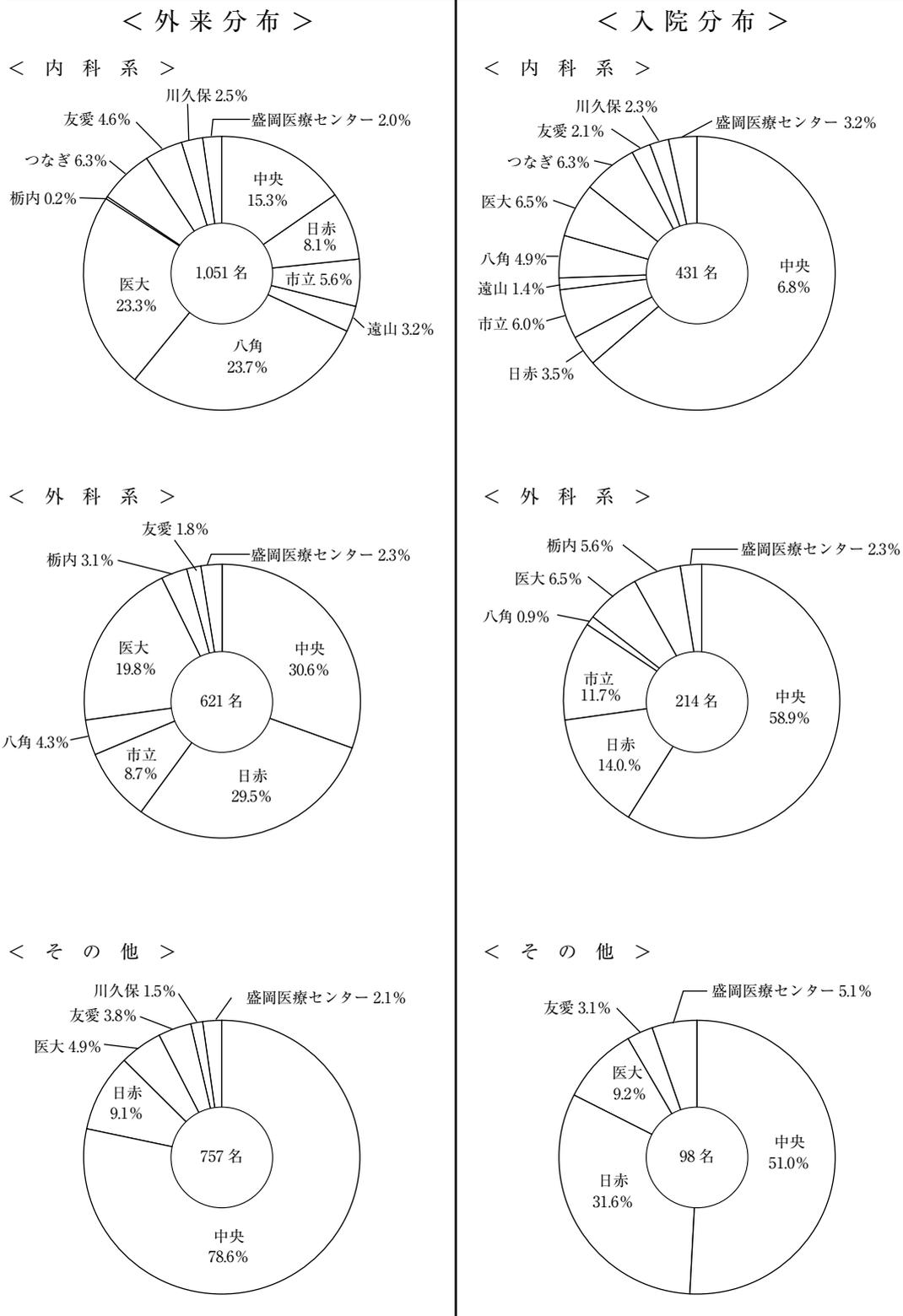


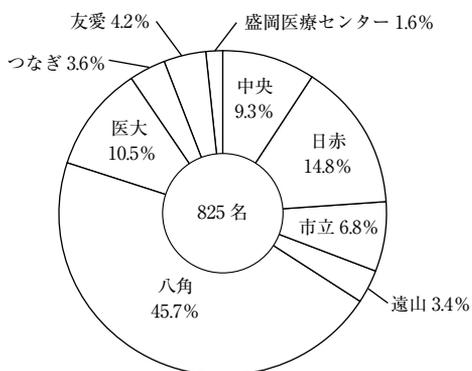
表 17 二次救急病院の外来・入院分布（土曜日（1））

土曜日（1） （AM9～PM0）	2024.1～ 2024.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	177	112	189	6.4	9.3	15.8
	外科系	94	50	144	7.8	4.2	12.0
	その他	165	34	199	13.8	2.8	16.6
日赤病院	内科系	122	29	151	10.2	2.4	12.6
	外科系	265	37	302	22.1	3.1	25.2
	その他	99	33	132	8.3	2.8	11.0
市立病院	内科系	56	19	75	4.7	1.6	6.3
	外科系	40	7	47	3.3	0.6	3.9
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
遠山病院	内科系	28	7	35	2.3	0.6	2.9
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	377	10	387	31.4	0.8	32.3
	外科系	22	0	22	1.8	0.0	1.8
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	87	17	104	7.3	1.4	8.7
	外科系	66	25	91	5.5	2.1	7.6
	その他	45	3	48	3.8	0.3	4.0
栃内病院	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	30	9	39	2.5	0.8	3.3
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	35	6	41	2.9	0.5	3.4
	外科系	14	0	14	1.2	0.0	1.2
	その他	3	3	6	0.3	0.3	0.5
川久保病院	内科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
盛岡医療センター	内科系	13	7	20	1.1	0.6	1.7
	外科系	31	10	41	2.6	0.8	3.4
	その他	9	4	13	0.8	0.3	1.1
合 計	内科系	825	216	1,041	68.8	18.0	86.8
	外科系	532	129	661	44.3	10.8	55.1
	その他	321	77	398	26.8	6.4	33.2
総 合 計		1,678	422	2,100	139.8	35.2	175.0
				1日平均	4.6	1.2	5.8

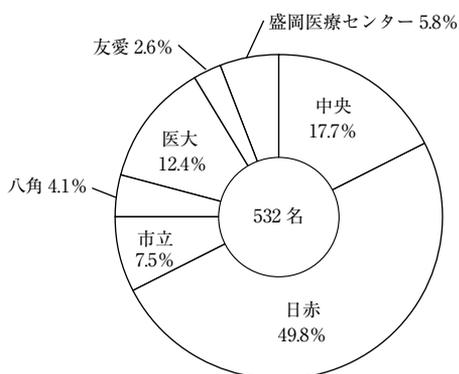
図 12 二次救急病院の外来・入院分布（土曜日（1））

< 外来分布 >

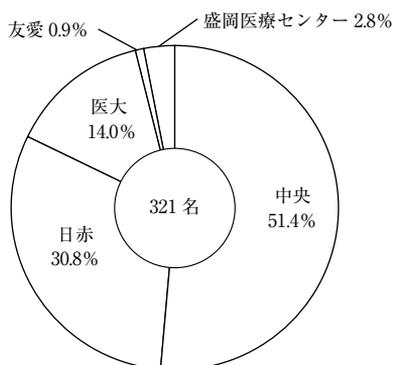
< 内科系 >



< 外科系 >

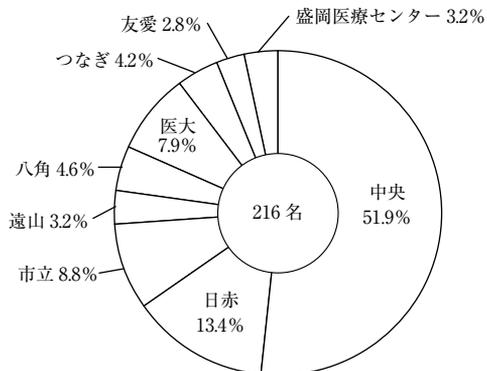


< その他 >

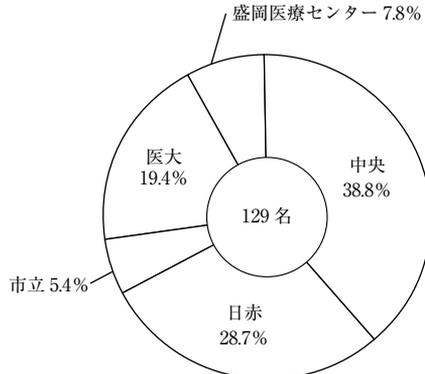


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

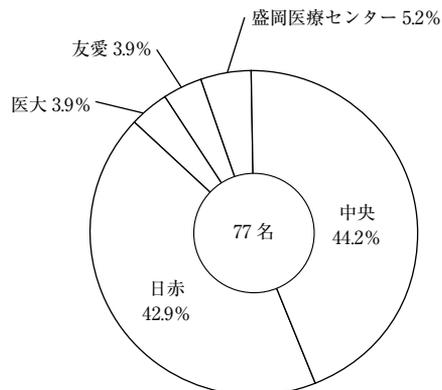


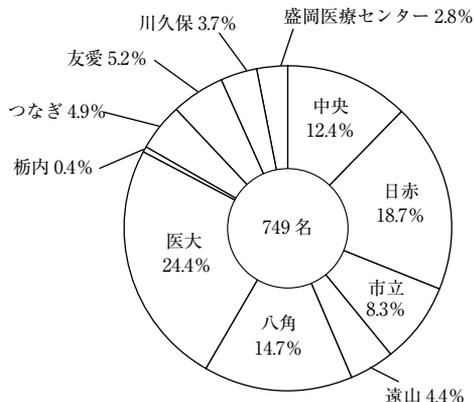
表 18 二次救急病院の外来・入院分布（土曜日（2））

土曜日（2） （PM0～PM5）	2024.1～ 2024.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	93	146	239	7.8	12.2	19.9
	外科系	177	89	266	14.8	7.4	22.2
	その他	397	35	432	33.1	2.9	36.0
日赤病院	内科系	140	62	202	11.7	5.2	16.8
	外科系	297	74	371	24.8	6.2	30.9
	その他	209	89	298	17.4	7.4	24.8
市立病院	内科系	62	8	70	5.2	0.7	5.8
	外科系	110	8	118	9.2	0.7	9.8
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
遠山病院	内科系	33	10	43	2.8	0.8	3.6
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	110	10	120	9.2	0.8	10.0
	外科系	23	2	25	1.9	0.2	2.1
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	183	36	219	15.3	3.0	18.3
	外科系	166	29	195	13.8	2.4	16.3
	その他	59	13	72	4.9	1.1	6.0
栃内病院	内科系	3	0	3	0.3	0.0	0.3
	外科系	22	1	23	1.8	0.1	1.9
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	37	10	47	3.1	0.8	3.9
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	39	8	47	3.3	0.7	3.9
	外科系	21	0	21	1.8	0.0	1.8
	その他	8	1	9	0.7	0.1	0.8
川久保病院	内科系	28	7	35	2.3	0.6	2.9
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	5	0	5	0.4	0.0	0.4
盛岡医療センター	内科系	21	6	27	1.8	0.5	2.3
	外科系	73	11	84	6.1	0.9	7.0
	その他	39	20	59	3.3	1.7	4.9
合 計	内科系	749	303	1,052	62.4	25.3	87.7
	外科系	889	214	1,103	74.1	17.8	91.9
	その他	717	158	875	59.8	13.2	72.9
総 合 計		2,355	675	3,030	196.3	56.3	252.5
				1日平均	6.5	1.8	8.3

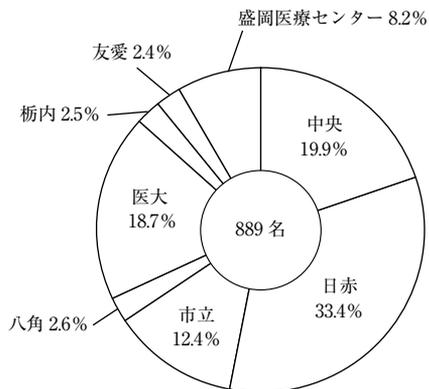
図 13 二次救急病院の外来・入院分布（土曜日（2））

< 外来分布 >

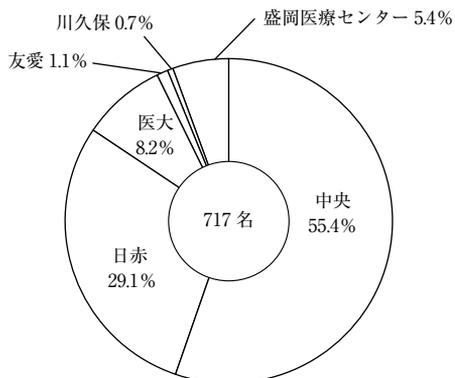
< 内科系 >



< 外科系 >

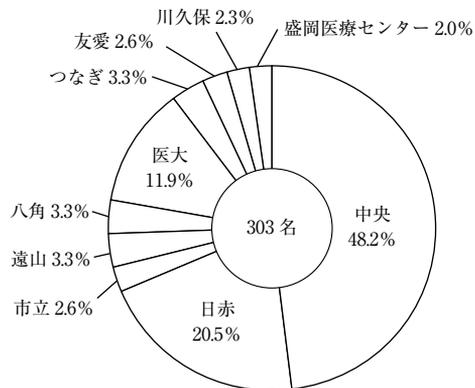


< その他 >

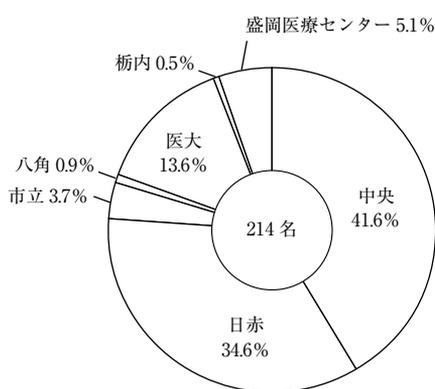


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

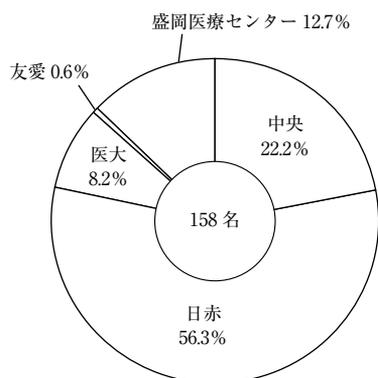


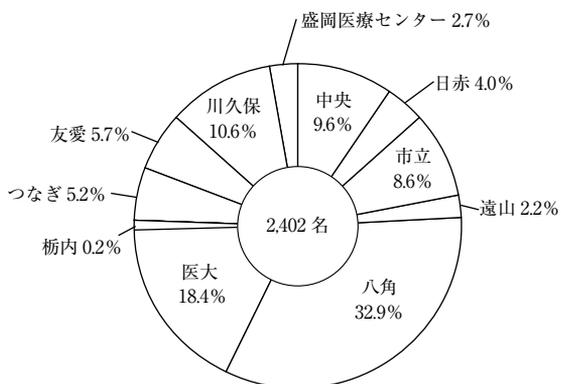
表 19 二次救急病院の外来・入院分布（日祭日）

日 祭 日 (AM9～PM5)	2024.1～ 2024.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中 央 病 院	内 科 系	231	281	512	19.3	23.4	42.7
	外 科 系	366	156	522	30.5	13.0	43.5
	そ の 他	881	104	985	73.4	8.7	82.1
日 赤 病 院	内 科 系	95	33	128	7.9	2.8	10.7
	外 科 系	225	52	277	18.8	4.3	23.1
	そ の 他	218	81	299	18.2	6.8	24.9
市 立 病 院	内 科 系	207	37	244	17.3	3.1	20.3
	外 科 系	212	34	246	17.7	2.8	20.5
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
遠 山 病 院	内 科 系	53	12	65	4.4	1.0	5.4
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八 角 病 院	内 科 系	790	23	813	65.8	1.9	67.8
	外 科 系	109	7	116	9.1	0.6	9.7
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩 手 医 大	内 科 系	443	73	516	36.9	6.1	43.0
	外 科 系	391	44	435	32.6	3.7	36.3
	そ の 他	135	22	157	11.3	1.8	13.1
栃 内 病 院	内 科 系	5	0	5	0.4	0.0	0.4
	外 科 系	201	15	216	16.8	1.3	18.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つ な ぎ 温 泉 病 院	内 科 系	124	28	152	10.3	2.3	12.7
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友 愛 病 院	内 科 系	136	33	169	11.3	2.8	14.1
	外 科 系	31	2	33	2.6	0.2	2.8
	そ の 他	37	2	39	3.1	0.2	3.3
川 久 保 病 院	内 科 系	254	31	285	21.2	2.6	23.8
	外 科 系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	そ の 他	487	0	487	40.6	0.0	40.6
盛 岡 医 療 セ ン タ ー	内 科 系	64	44	108	5.3	3.7	9.0
	外 科 系	74	25	99	6.2	2.1	8.3
	そ の 他	24	11	35	2.0	0.9	2.9
合 計	内 科 系	2,402	595	2,997	200.2	49.6	249.8
	外 科 系	1,610	335	1,945	134.2	27.9	162.1
	そ の 他	1,782	220	2,002	148.5	18.3	166.8
総 合 計		5,794	1,150	6,944	482.8	95.8	578.7
				1 日 平 均	15.9	3.2	19.0

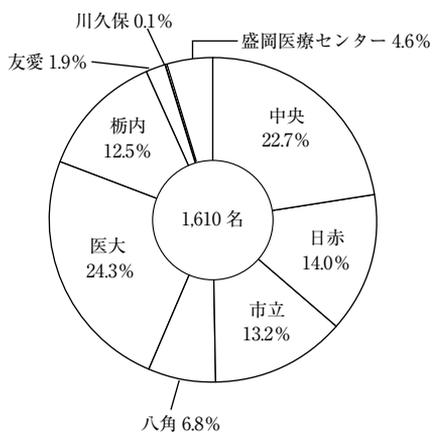
図 14 二次救急病院の外来・入院分布（日祭日）

< 外来分布 >

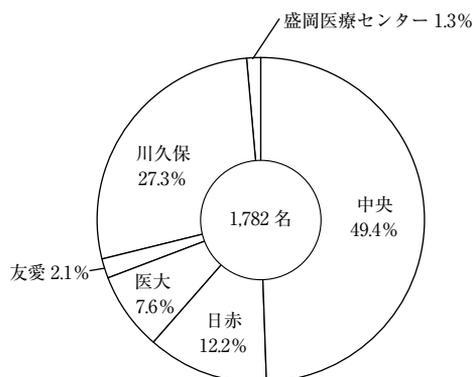
< 内科系 >



< 外科系 >

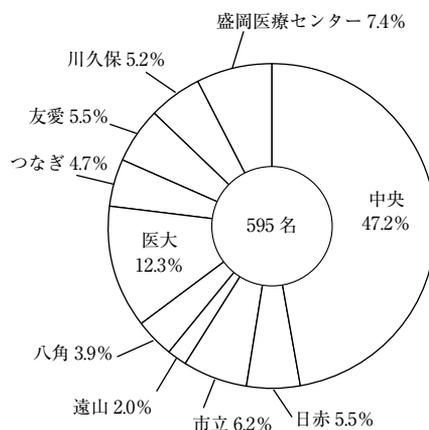


< その他 >

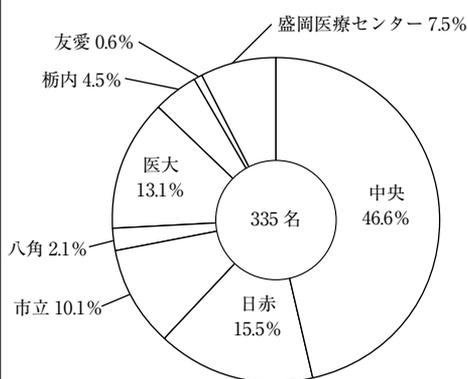


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

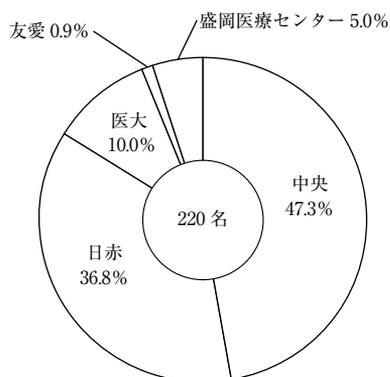


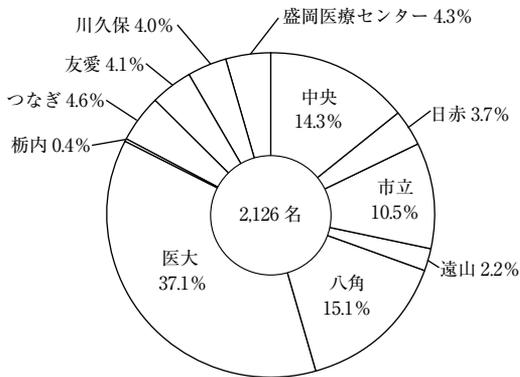
表 20 二次救急病院の外来・入院分布（時間外B）

時間外B (PM5～PM8)	2024.1～ 2024.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中央病院	内科系	304	460	764	25.3	38.3	63.7
	外科系	579	287	866	48.3	23.9	72.2
	その他	1,635	266	1,901	136.3	22.2	158.4
日赤病院	内科系	78	29	107	6.5	2.4	8.9
	外科系	94	34	128	7.8	2.8	10.7
	その他	97	41	138	8.1	3.4	11.5
市立病院	内科系	223	49	272	18.6	4.1	22.7
	外科系	259	46	305	21.6	3.8	25.4
	その他	2	1	3	0.2	0.1	0.3
遠山病院	内科系	46	15	61	3.8	1.3	5.1
	外科系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八角病院	内科系	320	23	343	26.7	1.9	28.6
	外科系	68	4	72	5.7	0.3	6.0
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩手医大	内科系	788	147	935	65.7	12.3	77.9
	外科系	516	81	597	43.0	6.8	49.8
	その他	204	50	254	17.0	4.2	21.2
栃内病院	内科系	8	0	8	0.7	0.0	0.7
	外科系	179	34	213	14.9	2.8	17.8
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つなぎ温泉病院	内科系	97	62	159	8.1	5.2	13.3
	外科系	1	0	1	0.1	0.0	0.1
	その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友愛病院	内科系	87	36	123	7.3	3.0	10.3
	外科系	36	0	36	3.0	0.0	3.0
	その他	75	8	83	6.3	0.7	6.9
川久保病院	内科系	84	29	113	7.0	2.4	9.4
	外科系	0	1	1	0.0	0.1	0.1
	その他	14	0	14	1.2	0.0	1.2
盛岡医療センター	内科系	91	60	151	7.6	5.0	12.6
	外科系	146	24	170	12.2	2.0	14.2
	その他	115	23	138	9.6	1.9	11.5
合 計	内科系	2,126	910	3,036	177.2	75.8	253.0
	外科系	1,878	511	2,389	156.5	42.6	199.1
	その他	2,142	389	2,531	178.5	32.4	210.9
総 合 計		6,146	1,810	7,956	512.2	150.8	663.0
				1日平均	16.8	5.0	21.8

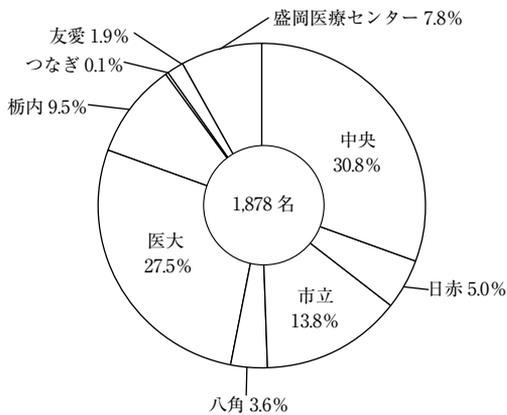
図 15 二次救急病院の外来・入院分布（時間外B）

< 外来分布 >

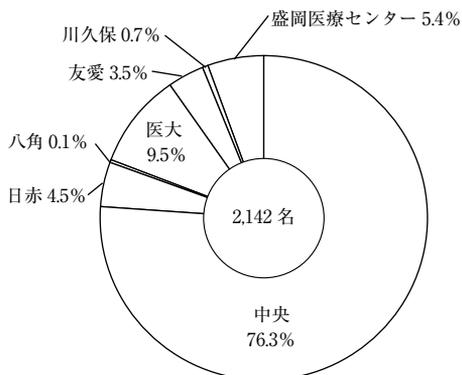
< 内科系 >



< 外科系 >

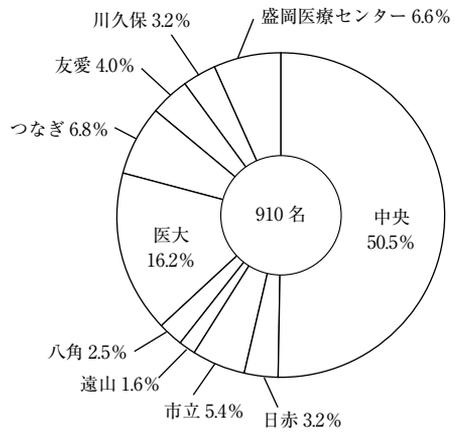


< その他 >

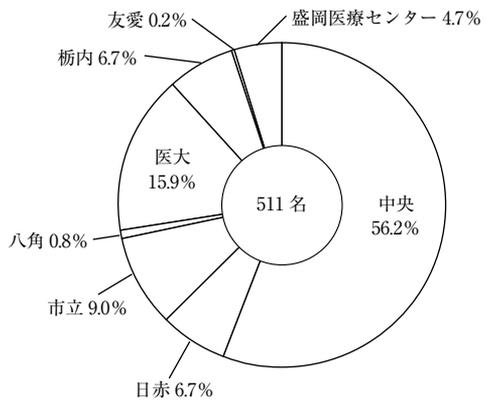


< 入院分布 >

< 内科系 >



< 外科系 >



< その他 >

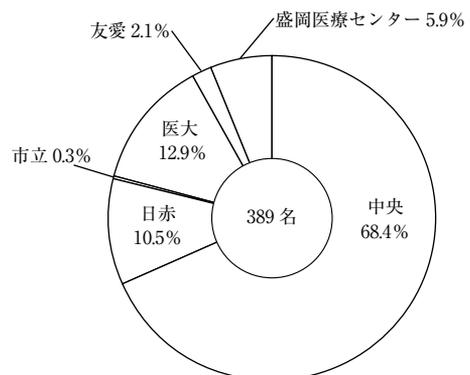


表 21 二次救急病院の外来・入院分布（夜間）

夜 間 (PM8～PM12)	2024.1～ 2024.12	総 合			月 平 均		
		外 来	入 院	総 合	外 来	入 院	総 合
中 央 病 院	内 科 系	359	340	699	29.9	28.3	58.3
	外 科 系	540	233	773	45.0	19.4	64.4
	そ の 他	1,626	259	1,885	135.5	21.6	157.1
日 赤 病 院	内 科 系	65	27	92	5.4	2.3	7.7
	外 科 系	100	39	139	8.3	3.3	11.6
	そ の 他	51	18	69	4.3	1.5	5.8
市 立 病 院	内 科 系	131	33	164	10.9	2.8	13.7
	外 科 系	154	24	178	12.8	2.0	14.8
	そ の 他	1	0	1	0.1	0.0	0.1
遠 山 病 院	内 科 系	59	10	69	4.9	0.8	5.8
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
八 角 病 院	内 科 系	160	15	175	13.3	1.3	14.6
	外 科 系	35	0	35	2.9	0.0	2.9
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
岩 手 医 大	内 科 系	768	73	841	64.0	6.1	70.1
	外 科 系	508	30	538	42.3	2.5	44.8
	そ の 他	217	41	258	18.1	3.4	21.5
栃 内 病 院	内 科 系	8	1	9	0.7	0.1	0.8
	外 科 系	158	18	176	13.2	1.5	14.7
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
つ な ぎ 温 泉 病 院	内 科 系	69	43	112	5.8	3.6	9.3
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
友 愛 病 院	内 科 系	61	17	78	5.1	1.4	6.5
	外 科 系	25	2	27	2.1	0.2	2.3
	そ の 他	56	10	66	4.7	0.8	5.5
川 久 保 病 院	内 科 系	57	20	77	4.8	1.7	6.4
	外 科 系	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	そ の 他	6	1	7	0.5	0.1	0.6
盛 岡 医 療 セ ン タ ー	内 科 系	81	54	135	6.8	4.5	11.3
	外 科 系	103	20	123	8.6	1.7	10.3
	そ の 他	134	34	168	11.2	2.8	14.0
合 計	内 科 系	1,818	633	2,451	151.5	52.8	204.3
	外 科 系	1,623	366	1,989	135.3	30.5	165.8
	そ の 他	2,091	363	2,454	174.3	30.3	204.5
総 合 計		5,532	1,362	6,894	461.0	113.5	574.5
				1 日 平 均	15.2	3.7	18.9

図 16 二次救急病院の外来・入院分布（夜間）

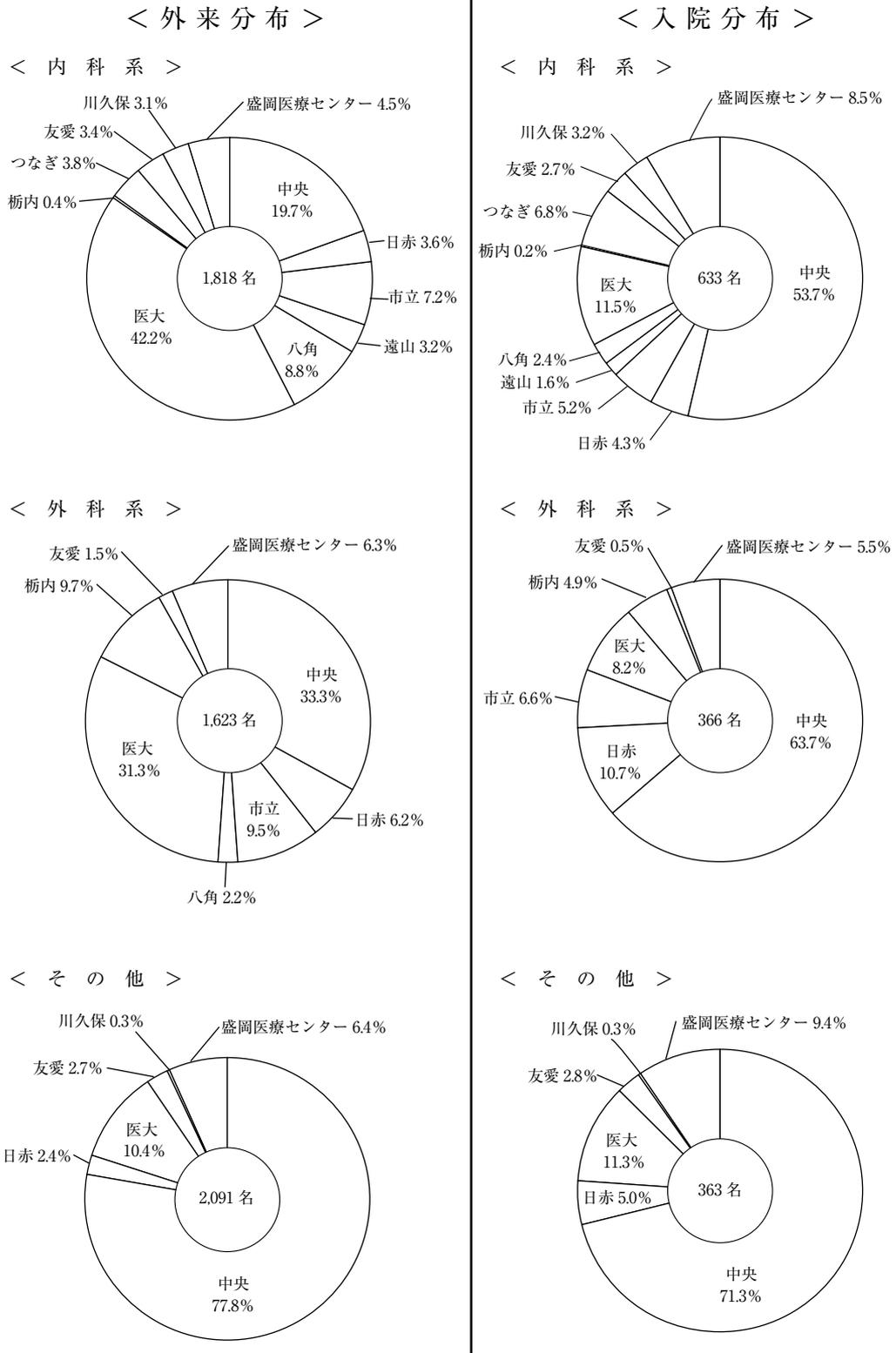
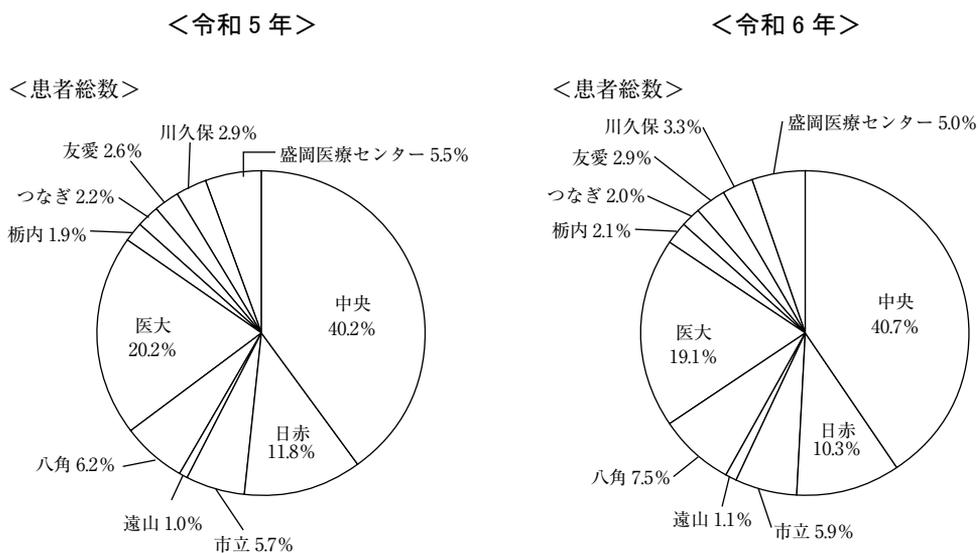


表 22 盛岡地区二次救急患者動態（前年との比較）

病院名	外来患者数		入院患者数		救急車搬入患者数		総数	
	令和5年	令和6年	令和5年	令和6年	令和5年	令和6年	令和5年	令和6年
中央病院	9,909	10,007	4,047	3,875	5,393	5,247	13,956	13,882
日赤病院	3,213	2,679	888	832	1,348	1,184	4,101	3,511
市立病院	1,735	1,660	234	348	580	716	1,969	2,008
遠山病院	255	307	76	69	227	255	331	376
八角病院	2,010	2,442	153	130	286	265	2,163	2,572
岩手医大	6,040	5,641	973	873	214	185	7,013	6,514
栃内病院	592	631	51	100	188	246	643	731
つなぎ温泉病院	538	478	217	216	339	344	755	694
友愛病院	765	837	140	158	383	414	905	995
川久保病院	904	1,012	94	115	177	206	998	1,127
盛岡医療センター	1,543	1,270	377	452	836	819	1,920	1,722
合計	27,504	26,964	7,250	7,168	9,971	9,881	34,754	34,132

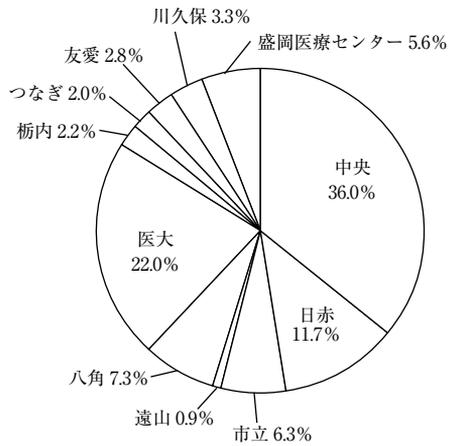
（高度救命救急センターに搬送した例はすべて三次救急としたため、このデータには含まれていない。）

図 17 二次救急患者病院別分布（前年との比較）



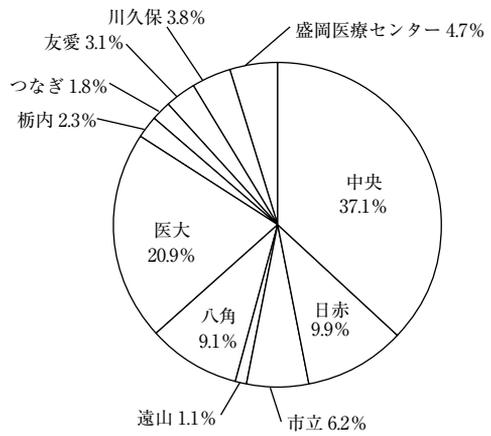
<令和5年>

<外来患者数>

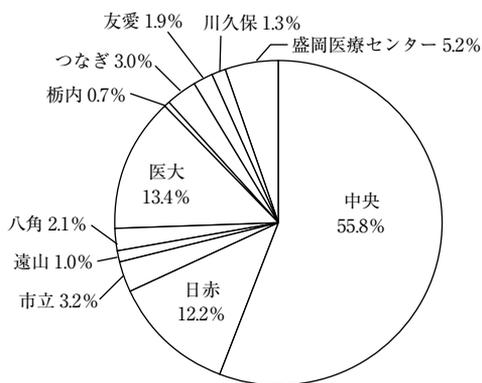


<令和6年>

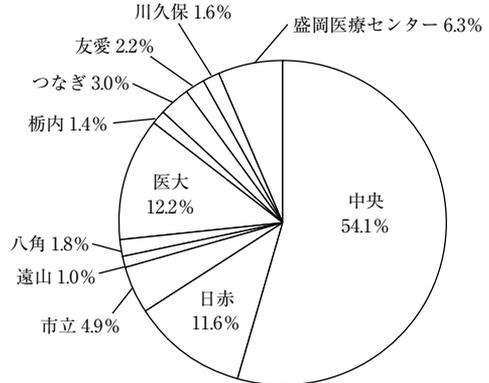
<外来患者数>



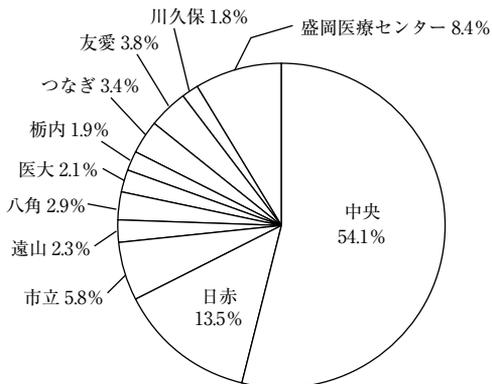
<入院患者数>



<入院患者数>



<救急車搬入患者数>



<救急車搬入患者数>

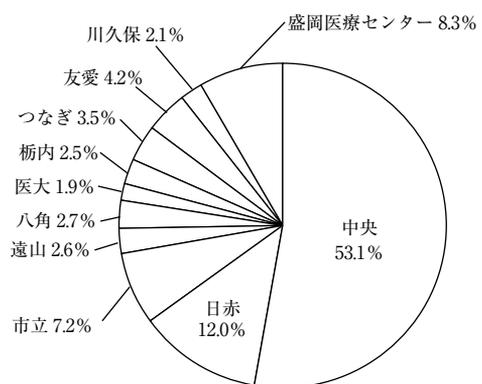
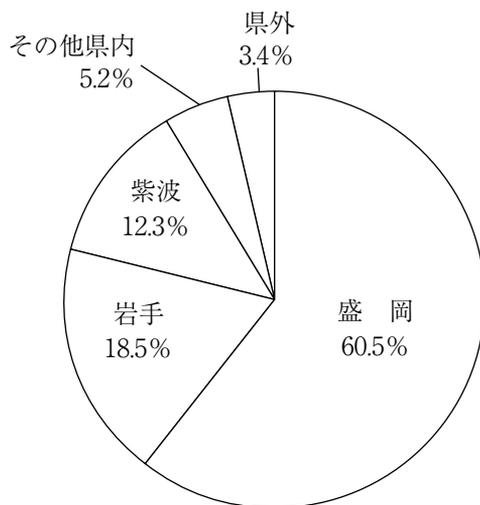


表 23 市町村別二次救急患者動態

市 町 村	外 来	入 院	合 計
盛 岡	16,410	4,255	20,665
雫 石	604	258	862
葛 巻	49	37	86
岩 手	799	215	1,014
滝 沢	2,205	696	2,901
紫 波	1,886	483	2,369
矢 巾	1,565	269	1,834
八 幡 平	1,170	282	1,452
その他県内	1,307	469	1,776
県 外	969	204	1,173
合 計	26,964	7,168	34,132

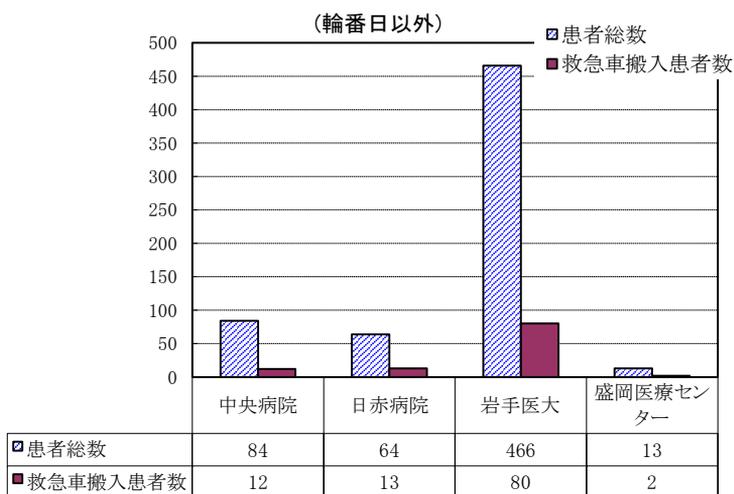
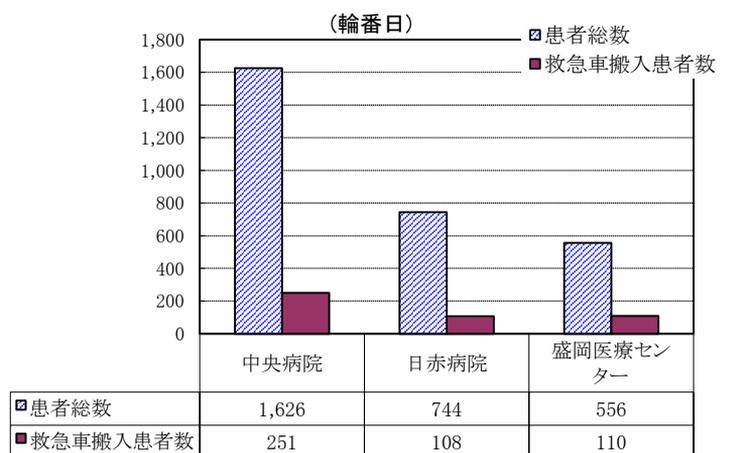
図 18 <地区別患者比率>



小児救急病院群輪番制 25年目のまとめ

図19～21および表24～27に小児救急病院別の輪番日の受診者数と輪番日以外の受診者数、各病院別受診者数を示す。小児救急患者の総数は3,553名で、前年比768名の減少であった。うち救急車搬入患者数は576名（16.2%）でこちらは前年比223名の減少となった。輪番日の受診者数は2,926名（総数の82.4%）、救急車搬入469名（輪番日受診者の16.0%）、1コマ単位平均6.06人であった。輪番日以外の受診者数は627名（総数の17.6%）、救急車搬入数107名（輪番日以外受診者の17.1%）、1コマ単位平均0.33人であった。病院別では、総数では中央病院が1,710名（48.1%）と最も多く、入院を必要とした患者は平均1.36人であった。

図 19 病院患者総数



※岩手医大は新型コロナウイルス感染症対策の為、輪番を辞退
輪番日以外は集計を継続

表 24 小児救急患者病院別合計表（輪番日）

令和6年1月～令和6年12月

病 院	外 来		入 院		総 数			
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	うち救急車搬入患者数	比 率
中 央 病 院	1,337	58.0	289	46.5	1,626	55.6	251	53.5
日 赤 病 院	525	22.8	219	35.3	744	25.4	108	23.0
盛岡医療センター	443	19.2	113	18.2	556	19.0	110	23.5
合 計	2,305	100	621	100	2,926	100	469	100

表 25 1 コマあたりの病院別小児救急患者数（輪番日）

令和6年1月～令和6年12月

病 院	外 来 患 者 数	入 院 患 者 数	合 計	
			患者数	うち救急車搬入患者数
中 央 病 院	5.64	1.22	6.86	11.06
日 赤 病 院	4.66	1.95	6.61	0.95
盛岡医療センター	3.36	0.86	4.21	0.83
平 均	4.78	1.29	6.06	0.97

※岩手医大は新型コロナウイルス感染症対策の為、輪番を辞退

輪番日以外は集計を継続

図 20 小児救急病院別患者比率（輪番日）

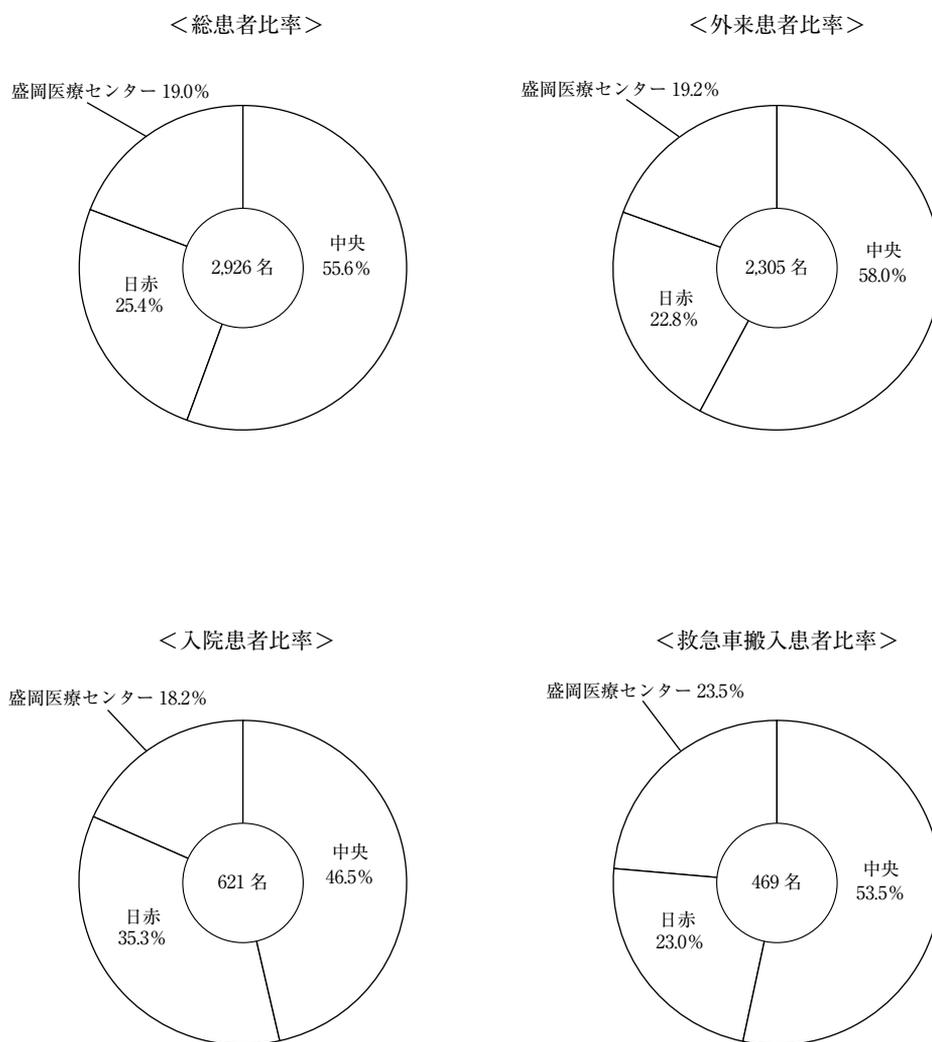


表 26 小児救急患者病院別合計表（輪番日以外）

令和6年1月～令和6年12月

病 院	外 来		入 院		総 数			
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率	うち救急車 搬入患者数	比 率
中 央 病 院	51	11.8	33	16.8	84	13.4	12	11.2
日 赤 病 院	47	10.9	17	8.7	64	10.2	13	12.1
岩 手 医 大	321	74.5	145	74.0	466	74.3	80	74.8
盛岡医療センター	12	2.8	1	0.5	13	2.1	2	1.9
合 計	431	100	196	100	627	100	107	100

表 27 1コマあたりの病院別小児救急患者数（輪番日以外）

令和6年1月～令和6年12月

病 院	外 来 患 者 数	入 院 患 者 数	合 計	
			患者数	うち救急車搬入患者数
中 央 病 院	0.21	0.14	0.34	0.05
日 赤 病 院	0.13	0.05	0.17	0.03
岩 手 医 大	0.67	0.30	0.97	0.17
盛岡医療センター	0.03	0.00	0.04	0.01
平 均	0.22	0.10	0.33	0.06

※岩手医大は新型コロナウイルス感染症対策の為、輪番を辞退
輪番日以外は集計を継続

図 21 小児救急病院別患者比率（輪番日以外）

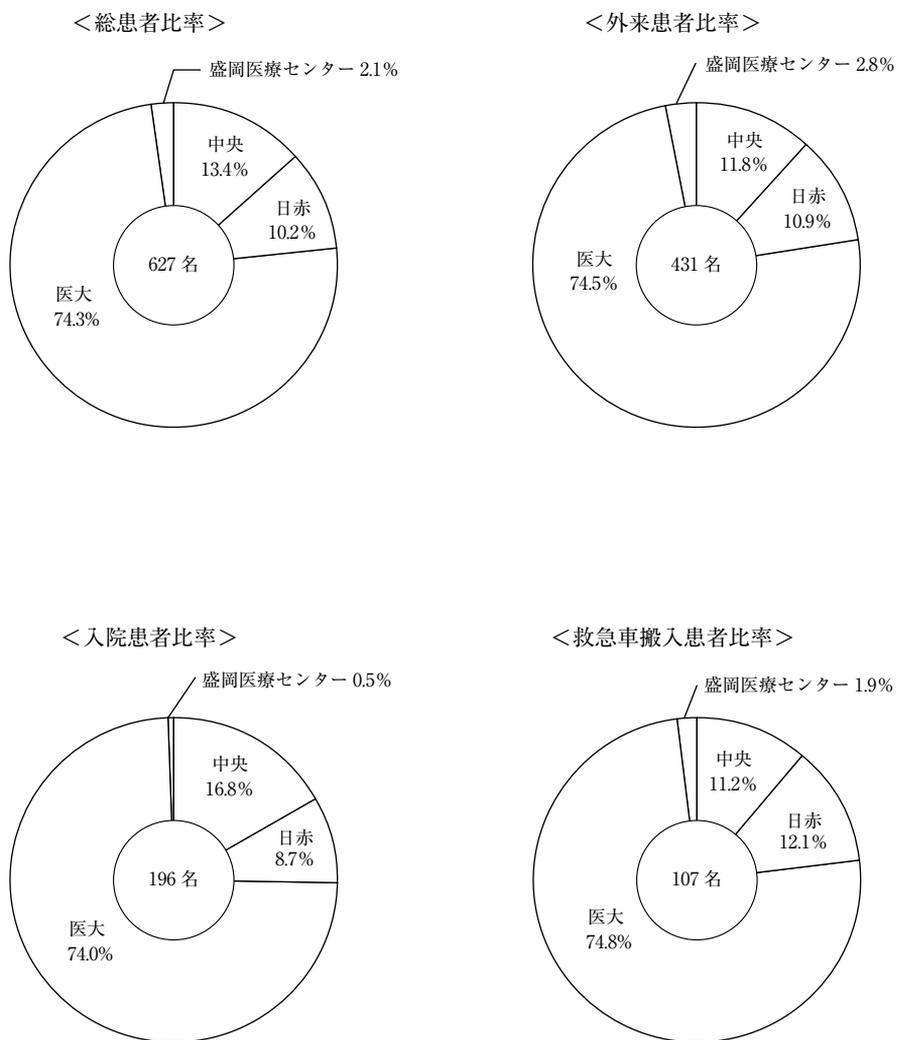


表 28 小児救急患者市町村別合計表（輪番日）

令和 6 年 1 月～令和 6 年 12 月

市 町 村	外 来		入 院		総 数	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	1,474	63.9	394	63.4	1,868	63.8
雫 石	43	1.9	6	1.0	49	1.7
葛 卷	2	0.1	1	0.2	3	0.1
岩 手	36	1.6	9	1.4	45	1.5
滝 沢	286	12.4	85	13.7	371	12.7
紫 波	109	4.7	39	6.3	148	5.1
矢 巾	99	4.3	32	5.2	131	4.5
八 幡 平	93	4.0	24	3.9	117	4.0
小 計	2,142	92.9	590	95.0	2,732	93.4
その他県内	51	2.2	17	2.7	68	2.3
県 外	112	4.9	14	2.3	126	4.3
合 計	2,305	100	621	100	2,926	100

表 29 1 コマあたりの市町村別小児救急患者数（輪番日）

令和 6 年 1 月～令和 6 年 12 月

市 町 村	外 来		入 院		合 計	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	3.05	64.0	0.82	63.5	3.87	63.9
雫 石	0.09	1.9	0.01	1.0	0.10	1.7
葛 卷	0.004	0.1	0.002	0.2	0.01	0.1
岩 手	0.07	1.6	0.02	1.4	0.09	1.5
滝 沢	0.59	12.4	0.18	13.7	0.77	12.7
紫 波	0.23	4.7	0.08	6.3	0.31	5.1
矢 巾	0.20	4.3	0.07	5.2	0.27	4.5
八 幡 平	0.19	4.0	0.05	3.8	0.24	4.0
小 計	4.439	93.0	1.22	95.0	5.66	93.4
その他県内	0.11	2.2	0.04	2.7	0.14	2.3
県 外	0.23	4.8	0.03	2.3	0.26	4.3
合 計	4.78	100	1.29	100	6.06	100

図 22 小児救急市町村別患者比率（輪番日）

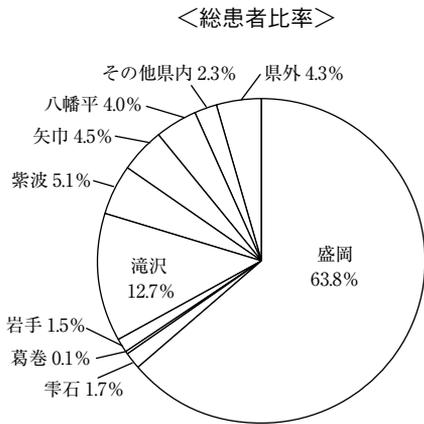


図 23 小児救急郡市別患者比率（輪番日）

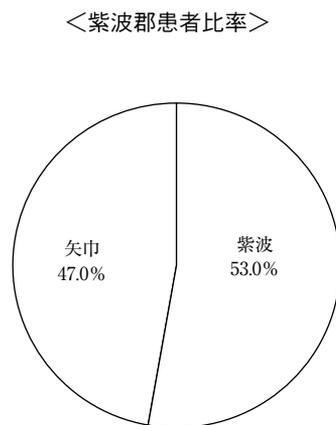
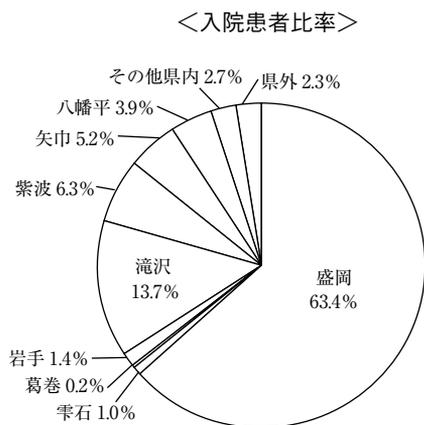
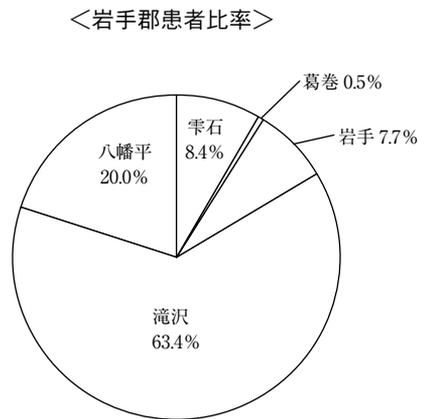
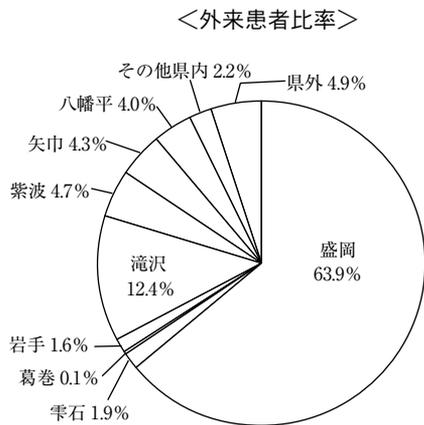
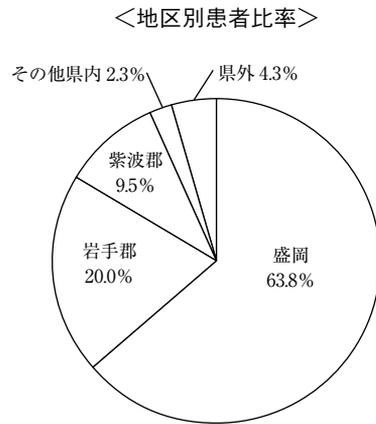


表 30 小児救急患者市町村別合計表（輪番日以外）

令和6年1月～令和6年12月

市 町 村	外 来		入 院		総 数	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	201	46.6	85	43.4	286	45.6
雫 石	7	1.6	4	2.0	11	1.8
葛 巻	0	0.0	0	0.0	0	0.0
岩 手	2	0.5	1	0.5	3	0.5
滝 沢	39	9.0	12	6.1	51	8.1
紫 波	35	8.1	18	9.2	53	8.5
矢 巾	49	11.4	9	4.6	58	9.3
八 幡 平	11	2.6	4	2.0	15	2.4
小 計	344	79.8	133	67.9	477	76.1
その他県内	70	16.2	49	25.0	119	19.0
県 外	17	3.9	14	7.1	31	4.9
合 計	431	100	196	100	627	100

表 31 1コマあたりの市町村別小児救急患者数（輪番日以外）

令和6年1月～令和6年12月

市 町 村	外 来		入 院		合 計	
	患者数	比 率	患者数	比 率	患者数	比 率
盛 岡	0.10	46.6	0.04	43.4	0.15	45.6
雫 石	0.004	1.6	0.002	2.0	0.01	1.7
葛 巻	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
岩 手	0.001	0.5	0.001	0.5	0.002	0.5
滝 沢	0.02	9.1	0.01	6.1	0.03	8.1
紫 波	0.02	8.1	0.01	9.2	0.03	8.5
矢 巾	0.03	11.4	0.00	4.6	0.03	9.2
八 幡 平	0.006	2.6	0.002	2.0	0.01	2.4
小 計	0.18	79.8	0.07	67.9	0.25	76.1
その他県内	0.04	16.2	0.03	25.0	0.06	19.0
県 外	0.01	3.9	0.007	7.1	0.02	4.9
合 計	0.22	100	0.10	100	0.33	100

図 24 小児救急市町村別患者比率（輪番日以外）

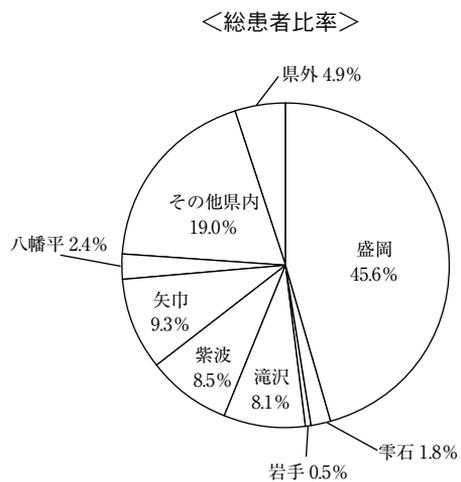
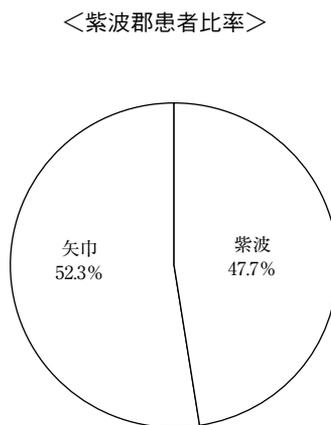
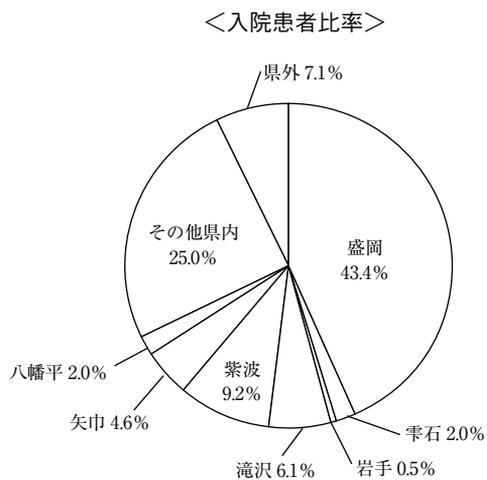
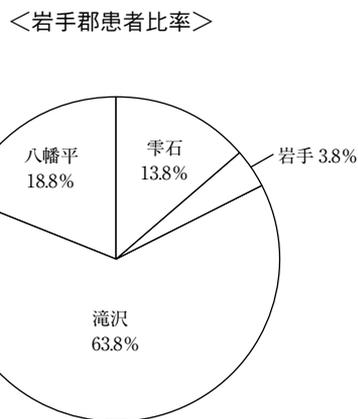
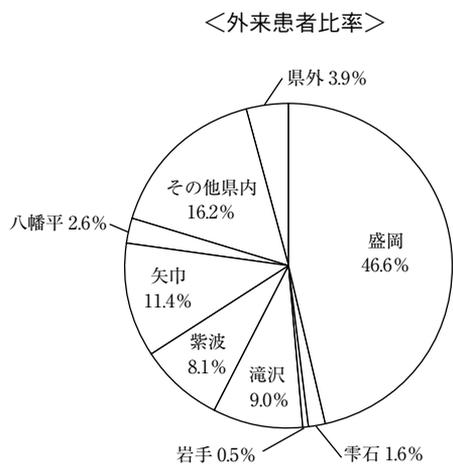
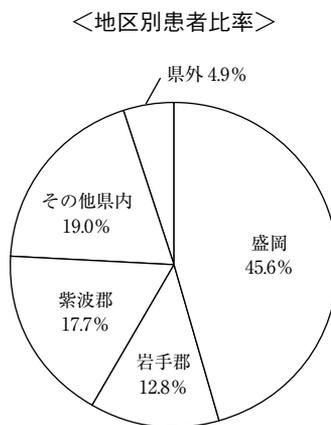


図 25 小児救急郡市別患者比率（輪番日以外）



2. 経過報告

- 令和6年 1月23日（火） 第230回小児救急電話相談事業事例検討会
26日（金） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 2月21日（水） 第231回小児救急電話相談事業事例検討会
29日（木） 盛岡地区二次救急医療対策委員会
- 3月19日（火） 第232回小児救急電話相談事業事例検討会
21日（木） 第22回岩手県医師会小児救急電話相談事業運営委員会
25日（月） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 4月16日（火） 第233回小児救急電話相談事業事例検討会
25日（木） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
〃 第1回救急医療体制のあゆみ編集委員会
- 5月21日（火） 第234回小児救急電話相談事業事例検討会
27日（月） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 6月18日（火） 第235回小児救急電話相談事業事例検討会
27日（木） 盛岡地区二次救急医療対策委員会
- 7月16日（火） 第236回小児救急電話相談事業事例検討会
26日（金） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
〃 第2回救急医療体制のあゆみ編集委員会
〃 盛岡市保健福祉部・子ども未来部との打合せ会
30日（火） 第17回盛岡救急医療人のつどい
- 8月 9日（金） 盛岡地区二次救急医療関係市町会議
20日（火） 第237回小児救急電話相談事業事例検討会

- 26日（月） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
 〃 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会（心疾患の救急態勢に係る）
- 9月 1日（日） 令和6年度盛岡市総合防災訓練（雨天による中止）
 13日（金） 第41回救急医療学術講演会
 17日（火） 第238回小児救急電話相談事業事例検討会
 30日（月） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
 〃 令和6年度第1回盛岡市夜間急患診療所運営協議会
- 10月15日（火） 第239回小児救急電話相談事業事例検討会
 25日（金） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会
- 11月18日（月） 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会（小児輪番に係る）
 19日（火） 第240回小児救急電話相談事業事例検討会
 29日（金） 盛岡地区二次救急医療対策委員会
- 12月17日（火） 第241回小児救急電話相談事業事例検討会
 23日（月） 盛岡地区二次救急医療対策委員会 常任委員会

3. 盛岡地区二次救急医療対策委員会

日 時：令和6年2月29日（木）午後7時
場 所：盛岡グランドホテル



令和6年2月29日(木) 午後7時より盛岡グランドホテルで開催された。

報 告

- 1月分患者データについて：患者総数3,211名と前年より530名増加し 救急車搬送患者は885名と前年より51名増加した。小児救急輪番日も272名と前年より71名増加した。高度救命救急センターは総数169名と例年より減少した。またドクターヘリの出動は13件と少なかった。参考として夜間急患診療所は前年より235名増加した。休日当番医は1月からコロナの感染者とともに前半はインフルエンザの発生報告が多くみられたが、後半からしだいに減少した。
2. 令和3年～4年の患者データについて
 - 1)二次救急：総数34,754名と前年より約1,000名増加した。救急車搬送数は9,971名と前年比約700名増加した。
 - 2)小児救急：小児輪番日3,446名と前年よ

り約850名増加した。非輪番日は875名であった。

- 3)夜間急患診療所：総数3548名で昨年より約1,700名増加した。1月～5月までの発熱外来は521名であった。
休日当番医：17,132名（1日あたり平均263名）と昨年より3,827名増加した。

3. 第231回小児救急電話相談事業事例検討会：別紙報告の通り

令和5年の年間統計4,944件の相談があった。また夜間ケアダイヤルは令和5年2月の開設以来、令和6年1月までの総数は2,006件であった。

4. 3月の二次救急病院当番表について：事前了承通り

5. 令和5年4～6月小児救急輪番表公表について：事前了承通り。

6. 電子機器の入れ替えに伴う患者受け入

れについて：川久保病院 3月17日

協 議

1. 令和6年度二次・小児救急輪番表（案）
について：原案通り了承された。

2. 令和6年度二次救急医療対策委員会運営
予算（案）について：事務局より来年度
案が説明された。一般会計は事務長会議
を書面で行う事にしたことから関係経費
を削減した。特別会計は「救急医療人の
つどい」と「救急学術講演会」の開催を
見込んで予算を計上し、会費も例年通り
とした。原案通り了承された。

3. 救急患者受け入れ先選定基準の見直し
に関する調査結果について：昨年末に実
施した救急輪番病院、救急告知病院へア
ンケート調査した結果を報告した。報告
内容は岩手県救急高度化推進委員会へ提出
した。また、脳、心疾患について搬送先
を限定することは了承された。当該病院
にて当番性など検討していただく。また、
外傷や吐血、下血の救急対応については、
当分の間救急隊へ受け入れ可能病院を調
査し、その結果を救急隊のみ連絡して試
行してみることで了承された。

4. 二次救急輪番日における救急医療体制
について：栃内病院白石院長より事前に
質問があった。

1) B群病院のあり方についてと、輪番日
に初診し対応不能となった場合、他の
病院に転送することは構わないのか：
先の対策委員会の資料および二次救急
病院の役割を厚労省の資料で説明し、
初期診療が主な役割で必要がある場合
に高度の医療機関へ転送することは問
題ないことが確認された。委員より、
中には高度の病院探しを救急隊任せに
することがあったとの報告もあり、医
療機関から連絡があった方が搬送はス
ムースであり、その他の内容とともに
併せ各医療機関へ通知する。

2) 救急隊員から二次救急病院なのにレン
トゲンすら撮れないことを指摘される
が輪番病院の診療体制について確認し
たい：これについても厚労省の資料に
より、必ずしも当番日以外には義務化
されているものではないことが説明さ
れた。

5. 盛岡地区二次救急医療対策委員会委員
の任期満了について：盛岡市医師会の役
員改選にともない新年度よりの委員推薦
を各病院へお願いする。

(久保直彦)

出 席 者 一 覧

盛岡地区二次救急医療対策委員会									
委員 長	吉 田	耕太郎							
常任委員	赤 坂	真奈美	須 原	誠	梶 原	和 華	佐々木	一 裕	
	橋 子	博 純	工 藤	卓 次	菊 池	久 貴	久 保	直 彦	
	関 本	真 生	佐 藤	直 也	金 濱	誠 己	久 保	田 公	宣
委 員	宮 田	剛	加 藤	章 信	佐々木	達 哉	千 葉	知	
	木 村	啓 一	白 石	秀 夫	田 村	茂	高 橋	邦 尚	
	木 村	宗 孝					(代理 立本	仁)	
岩手県県央保健所	所 長	仲 本	光 一						
盛岡市保健所	所 長	矢 野	亮 佑						
	公衆衛生医師	服 部	貴 成						
	企画総務課長	田 村	聡						
盛岡市医師会事務局	事務局 長	及 川	敬一郎						
	次 長	水 本	達 彦						
	課 長	谷 藤	慎 治						

盛岡地区二次救急医療対策委員会

日 時：令和6年6月27日（木）午後7時
場 所：盛岡グランドホテル



令和6年6月27日（木）午後7時より盛岡グランドホテルで開催された。

報 告

- 委員の異動に伴う対策委員会委員の変更について：**新常任委員として大浦裕之、和田司盛岡市医師会理事、米沢俊一小儿科医会会長が就任した。委員として久保直彦 盛岡赤十字病院院長、小原講二 八角病院院長、加藤博巳 紫波郡医師会長が就任した。
- 5月分患者データについて：**患者総数2,890名と前年同月より190名減、先月より522名増であった。救急車搬送患者は835名であり前年同月より32名減、先月より154名増加であった。参考として夜間急患診療所が265名、前年同月より68名減少し、先月より35名増加した。小児救急輪番日は240名と前年同月より59名減少し、先月より13名増加で1コマ当たり6.00人であった。休日救急当番医は5月は前月同様、内科ではコロナが多いが、小児科ではインフルエンザが多かった。高度救命救急センターは総数172名と前年同月より14名増加し、先月より39名増加した。ドクターヘリの出動は計37件であり、先月より12件増加した。
- 年度毎の患者データについて：**令和5年度の二次救急患者総数は35,854名であり、前年より2,076名増加した。内、外来患者数は28,509名で前年より1,527名増加し、入院患者数は7,345名であり、前年より549名増加した。救急車搬入台数は10,206台で前年より814台増加した。小児救急輪番日受入総数は3,430名と前年より621名増加した。1コマ当たり7.44人で前年より1.62人増加した。内、外来患者数は2,775名で前年より396名増加し、入院患者数は655名であり、前年より225名増加した。救急車搬入台数は611台で前年

より201台増加した。小児救急輪番日以外の受入総数は888名と前年より1名減少した。1コマ当たり0.48人で前年より0.02人増加した。内、外来患者数は649名で前年より42名減少し、入院患者数は239名であり、前年より41名増加した。救急車搬入台数は175台で前年より18台増加した。

4. 第235回小児救急電話相談事業事例検討会（6月18日）

協 議

1. 10月～12月分の小児救急入院受入当番表及び令和6年度二次・小児輪番日程表（8月以降）について：電子カルテ更新のため令和7年2月1日の中央病院が盛岡医療センターに変更と報告があった。これを含めて原案通り了承された。

2. 第17回盛岡救急医療人のつどいについて：令和6年7月30日、午後7時より盛岡グランドホテルにおいて開催する。研修会として、テーマを「コロナ禍における救急対応の総括」として、盛岡地区広域消防組合より、八幡平消防署 警防係長 佐々木宏章氏、および岩手県災害医療コーディネーターの岩手医科大学 救急災害医学講座教授 岩手県高度救命救急センター長 真瀬智彦 常任委員に講演を頂くことが了承された。

3. 第41回救急医療学術講演会について：令和6年9月13日、午後7時より盛岡グランドホテルにおいて開催する。国士舘大学大学院救急システム研究科 張替喜世一 教授に講演を頂く事が了承された。

4. いわて盛岡シティマラソン2024への医師派遣依頼について：今年はコース変更により、現時点ではコース及び、救護所の位置は確定していないが、確定次第医師会にて作成した各救護所病院割り当て案に協力を頂く事が了承された。

5. 盛岡地区二次救急医療体制検討委員会（小委員会）による基本方針について：令和5年11月より二次救急体制検討委員会、二次救急対策常任委員会、二次救急対策委員会にて話し合われた内容を引き継ぎ、盛岡赤十字病院院長 久保直彦委員より説明され了承され、各委員より以下の様な意見が提起された。

①救急体制の基本方針について医師会報等への広報をする必要がある。

※詳細については、本号11頁をご覧ください。

②整形外科系疾患の小委員会開催について：問題点、テーマを絞って、下り搬送の問題も含めて開催することを検討する。

③救急体制の基本方針の変化、下り搬送市民への周知について：マスコミを利用、市、町の広報へ依頼するなどを検討する。

6. 令和5年度二次救急対策委員会一般会計・特別会計決算について：事務局報告通り了承された。

（和田 司）

出席者一覧

盛岡地区二次救急医療対策委員会

委員長	吉田 耕太郎								
常任委員	眞瀬 智彦	赤坂 真奈美	須原 誠	梶原 和華					
	佐々木 一裕	菊池 貴彦	金子 博純	工藤 卓次					
	和田 司	橋本 真生	佐藤 直也	久保田 公					
委員	小林 有一	関 博	米沢 俊一						
	小笠原 邦昭	高橋 文学	宮田 剛	久保 直彦					
	加藤 章信	佐々木 達哉	千葉 葉博	木村 啓二					
	白石 秀夫	小原 講二							
岩手県県央保健所	所 長 仲本 光一								
盛岡市保健所	所 長 星 進悦								
	公衆衛生医師	服部 貴成							
	次 長 高橋 宏英								
盛岡市医師会事務局	事務局 長 及川 敬一郎								
	課 長 佐藤 泰之								
	//	谷 藤 慎治							

盛岡地区二次救急医療対策委員会

日 時：令和6年11月29日（金）午後7時
場 所：盛岡グランドホテル



令和6年11月29日午後7時より盛岡グランドホテルにて行われた。

報 告

1. 委員の交代について：令和6年9月17日付で、岩手医科大学 小笠原邦昭 学長から岩手医科大学呼吸器内科 川田一郎教授への委員の変更があった。
2. 10月分患者データについて：二次救急病院患者総数2,619名と前年同月より186名減、先月より272名減であった。救急車搬送患者は772名であり前年同月より84名減、先月より39名減であった。参考として夜間急患診療所が245名、前年同月より4名減少し、先月より10名増加した。小児救急輪番日は202名と前年同月より52名減少し、先月より10名減少で1コマ当たり5.05人であった。休日救急当番医来院患者において10月は、内科、小児科ともに9月同様新型コロナがほとん

どであり、インフルエンザはほとんどみられなかった。高度救命救急センターは総数182名と前年同月より4名増加し、先月より6名減少した。ドクターヘリの出動は計31件であり、先月より2件減少した。

3. 令和5年～令和6年の患者データについて：二次救急病院患者総数では、令和5年は患者総数34,754名であった。令和6年10月までは計28,103名であり、令和5年同期間と比較すると567名減であった。小児救急病院患者総数では輪番日データでは令和5年は患者総数3,446名であった。令和6年10月までは計2,387名であり、令和5年同期間と比較すると402名減であった。非輪番日では、令和5年は患者総数875名で、令和6年10月までは計535名であり、令和5年同期間と比較すると202名減であった。輪番日の1コマ当たりのデータは令和5年は平均7.53人、令

和6年は5.97人であり非輪番日では、令和5年は0.48人、令和6年は0.33人であった。夜間急患診療所患者総数は令和5年では、内科1,481名、小児科2,067名で、令和6年10月までは内科計1,312名、小児科計1,592名であり、それぞれ、前年同期間と比較し、内科263名増加、小児科35名増加した。休日急患当番患者総数は令和5年では、17,132名で、令和6年10月までは13,330名であり、前年同期間と比較し、246名増加した。

4. 第240回小児救急電話相談事業事例検討会について：令和6年11月19日午後0時45分より盛岡市医師会館にて行われた。令和5年度の相談件数は7,148件で、令和6年度10月までは3,802件であり増加傾向がみられた。平成16年度から令和6年10月まで20年1か月間の累計は76,247件で月平均は316.4件であった。令和5年11月から令和6年10月までの1年間の相談時間帯は約70%が準夜帯であった。年齢別では1歳以上3歳未満が最も多かった。相談件数では、病気の症状別では発熱が33%、次いで嘔吐13%、せき10%であった。事故症例では、打撲が40%を占めた。その他では一般知識習得が70%を占め、ほとんどが深夜帯であった。対応内容別では、必要時含めて医療機関受診が60%で、即時受診指示は10%であった。ほぼ全件相談者の納得が得られた印象であった。以上、小林有一常任委員より報告があった。

5. 医療提供体制推進事業補助金（医療提供体制設備整備事業）について：令和7年度事業計画として提出された盛岡医療センターの超音波診断装置購入について盛岡市より意見照会があり、盛岡市医師会として妥当であると回答した。

6. 岩手県立中央病院より令和7年1月31日午後5時から2月3日午前8時半頃まで、電子カルテシステム更新に伴い救急患者受け入れ困難の報告があった。

7. 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会（小児輪番に係る）について：令和6年11月18日午後7時より盛岡市医師会館にて委員会が開催された。令和5年から令和6年9月までの小児救急医療データについて報告された。令和7年度小児輪番当番表（案）について各二次救急医療機関より要望があり、現在、当番表（案）を作成中であると報告された。

8. 虚血性心疾患・脳卒中の救急体制について：虚血性心疾患については、岩手医科大学、県立中央病院間で輪番制をとらず患者発生場所の最寄りの施設が搬送受け入れを行うことが合意された。脳卒中に関しても同様に輪番制をとらず、最寄りの施設が受け入れることが合意されたことが報告された。

9. 令和6年12月分の二次救急病院当番表について：事務局原案通りに承諾されたことが報告された。

10. 令和7年1月～3月分の小児救急入院受入病院当番表について：事務局原案通りに承諾されたことが報告された。これまで二次救急病院当番表および小児救急入院受入当番表を協議事項としていたが、今後、報告事項とすることが了承された。

協議事項

1. 令和7年度二次・小児救急輪番表（案）について：二次救急輪番表については、事務局原案通りに承諾された。小児救急輪番表については、令和6年11月18日に行われた小委員会にて出された各医療機

関からの要望を踏まえて、現在事務局原案を改訂中であり、改訂案ができ次第、各医療機関の確認の上事務局改訂案として常任委委員会に提出することが承諾された。

救急当番医・薬局について記載することが承諾された。加えて、今回より、マイナ保険証に関する広報を行うことが承諾された。

(和田 司)

2. 年末年始の救急医療態勢について：年
末年始救急医療態勢の広報内容について、
軽症対応、重症対応医療機関、休日

出席者一覧

盛岡地区二次救急医療対策委員会

委員長	吉田 耕太郎			
常任委員	真瀬 智彦	赤坂 真奈美	須原 誠	梶原 和華
	菊池 貴彦	金子 博純	工藤 卓次	大浦 裕之
	和田 司	智田 文徳	橋本 真生	佐藤 直也
	金濱 誠己	久保田 公宜	小林 有一	米沢 俊一
委員	関 博文			
	森野 禎浩	川田 一郎	宮田 剛	久保 直彦
	佐々木 達哉	千葉 知	木村 啓二	小原 講二
岩手県県央保健所	高橋 邦尚	加藤 博巳		
	医療介護課主事	工藤 純平		
盛岡市保健所	次 長	高橋 宏英		
盛岡市医師会事務局	事務局長	及川 敬一郎		
	課 長	佐藤 泰之		
	〃	谷 藤 慎 治		

4. 盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会（心疾患の救急態勢に係る）

日 時：令和 6 年 8 月 26 日（月） 午後 6 時
場 所：盛岡市医師会館 会長室
司 会：盛岡市医師会 救急医療対策部
部 長 和 田 司

出席者

岩手医科大学内科学講座	准教授	石 田 大
岩手県立中央病院	救急医療部長	須 原 誠
〃	副循環器センター長	遠 藤 秀 晃
盛岡地区二次救急医療対策委員会	常任委員	和 田 司
盛岡市医師会救急医療対策部	部 長	
盛岡地区二次救急医療対策委員会	委 員	久 保 直 彦

— 次 第 —

議 題

1. 急性心筋梗塞の疑い患者受け入れ態勢について

【岩手医科大学附属病院】

現時点では、救急患者の受け入れには余裕がある。宿直日の翌日には午後からの勤務を免除しており、負担軽減策をとっている。救急患者の受け入れについては発症地域により搬送先が選択されている現状に問題を感じていない。三次救急医療を要する心疾患の受け入れについては、今後も搬送先を含めて患者のニーズに沿った受け入れをしていきたい。二次救急対応患者についても初期対応としての受け入れには応じる用意がある。心不全、肺炎などであれば初期対応後、救急患者連携搬送の制度を利用する。急性心筋梗塞疑いであれば、初期対応後、自院からの早期退院が可能であると考えている。

【岩手県立中央病院】

三次救急医療を要する心疾患の受け入れについては、現状に問題はなく、今後も患者の希望に添った形で受け入れていきたい。二次救急対応患者についても、既に救急患者連携搬送制度の利用を始めており今後も利用していきたい。救急患者連携搬送制度についても現時点では問題なく搬送が行えている。

両院ともに、急性心筋梗塞が疑われる患者に対する搬送時間短縮に強い使命感を持っており、搬送時間延長の可能性のある輪番制は現時点で不要であるという意見で双方一致した。

盛岡地区二次救急医療対策委員会小委員会（小児救急輪番に係る）

日 時：令和6年11月18日（月）午後6時30分
 場 所：盛岡市医師会館 2階会議室
 司 会：盛岡市医師会 救急医療対策部
 部 長 和 田 司

出席者

岩手医科大学小児科学講座	教 授	赤 坂 真奈美
〃	特任教授	石 川 健
岩手県立中央病院	業務企画部長兼救急医療部次長	
〃	兼小児・周産期センター長	三 上 仁
盛岡赤十字病院	小児科長	西 野 美奈子
国立病院機構盛岡医療センター	小児科部長	梶 原 和 華
盛岡市医師会小児科医会	統括診療部長	佐々木 美 香
盛岡市医師会	会 長	米 沢 俊 一
盛岡地区二次救急医療対策委員会	会 長	吉 田 耕太郎
盛岡市医師会救急医療対策部	委 員 長	
盛岡地区二次救急医療対策委員会	部 長	和 田 司
盛岡市医師会	常任委員	
〃	副 会 長	菊 池 貴 彦
〃	〃	金 子 博 純
盛岡地区二次救急医療対策委員会	〃	工 藤 卓 次
〃	常任委員	金 濱 誠 己
	〃	小 林 有 一

— 次 第 —

挨拶 題

1. 令和5年～令和6年小児救急病院患者データ（参考資料）

輪番日データでは令和5年は患者総数3,446名であった。令和6年9月までは計2,185名であり、令和5年同期間と比較すると350名減であった。非輪番日では、令和5年は患者総数875名で、令和6年9月までは計498名であり、令和5年同期間と比較すると170名減であった。輪番日の1コマ当たりのデータは令和5年は平均7.53人、令和6年は6.07人であり非輪番日では、令和5年は0.48人、令和6年は0.35人であった。輪番日の外来、入院別では、令和6年1～9月までは、外来1,742名で前年同期間より342名減、入院443名で前年同期間より8名減であった。うち救急搬送は366名で前年同期間より110名減であった。非輪番日の外来、入院別では、令和6年1～9月までは、外来339名で前年同期間より162名減、入院159名で前年同

期間より8名減であった。うち救急搬送は85名で、前年同期間より48名減であった。休日救急当番医のデータでは、令和5年度はコロナ陽性患者数に対してインフルエンザ陽性患者数がかなり優勢であったが、令和6年度はインフルエンザ陽性患者数が激減しコロナ陽性患者数とほぼ同等に変化した。

2. 各小児救急輪番病院の現状と要望事項等について

- 1) 盛岡医療センター：輪番枠の維持は行うが、小児科減員に伴い輪番日の曜日、日付の限定の要望があった。
- 2) 盛岡赤十字病院：土日祝日割り当ての増加により対応が困難との意見が出された。
- 3) 岩手医科大学：現在、大学は重症例の引き受けに特化するため輪番当番を外れている。他院からの要請については個別に対応したいとのことであった。
- 4) 岩手県立中央病院：現在、減員もあるが現状を維持したいとのことであった。

3. 令和7年度小児救急輪番表（案）の作成について

議題2の要望により、再度、各病院の要望の聞き取りを行うこととし、当番表の訂正を行うことになった。

4. 年末年始の救急医療体制について

二次救急輪番表・休日救急当番医など確認した。

5. その他

盛岡医療圏における盛岡地区小児二次救急のあり方について：委員より盛岡地区二次救急病院は、実際には盛岡医療圏の二次救急を担っている。よって、盛岡市医師会には二次救急病院と診療所との連携について、盛岡市のみならず近隣市町の診療所も含めた連携の利便を図ってほしいとの要望があった。これに対して、盛岡市医師会としてHP上の近隣市町診療情報リンクの掲載などを検討することとした。

5. 盛岡市医師会・盛岡市保健福祉部・子ども未来部との打合せ会

日 時：令和6年7月26日（金）午後7時
場 所：アートホテル盛岡（3階 青雲の間）



吉田耕太郎盛岡市医師会会長、加藤彩子盛岡市保健福祉部長、佐久山久美子盛岡市子ども未来部長、川目昌竜盛岡市保健衛生監の挨拶のあと協議が行われた。

【内容】

1. 開会

2. 挨拶

盛岡市医師会長	吉田耕太郎
盛岡市保健福祉部長	加藤彩子
盛岡市子ども未来部長	佐久山久美子
盛岡市保健衛生監	川目昌竜

3. 議題

- 1) 盛岡市より令和6年度盛岡市保健福祉部・子ども未来部主要事業についての報告があった。保健福祉部の各課、子ども未来部の各課、盛岡市保健所の各課より報告があった。
- 2) 盛岡市医師会からの要望事項について回答があった。

盛岡市医師会からの要望事項に対する回答

▶ 要望事項 No.1

幼少児の視力検査について

幼少児の視力検査では、年齢に応じてランドルト環の切れ目の方向を指で指し示す場合と、ランドルト環のハンドルで回答する場合があります。子どもの発達には個人差があることや、特別な配慮を要する子どもが増えていることから、事前練習で、指差して検査できない子どもは、最初からハンドルを用いて検査することが望ましく、ぜひ、回答用のハンドルの常備を検討していただきたいと思います。購入が難しい場合は、代替品として、日本斜視弱視学会ホームページから練習用ハンドルをダウンロードすることが可能です。

▶ 回答（子ども未来部子育てあんしん課）

保育所等における回答用のハンドルにつきましては、保育関係団体に対して、常備することの必要性を伝えると

もに、日本斜視弱視学会ホームページから、練習用ハンドルをダウンロードすることが可能であることも周知してまいります。

▶**要望事項 No.2**

妊産婦等生活援助事業および産後ケア事業の充実について

生活に困難を抱える特定妊婦や出産後の母子への支援強化として“妊産婦等生活援助事業”があり、国・都道府県・市町村が実施主体と聞いております。市内では3年前から“にんしんSOSいわて”という民間団体が、予期せぬ妊娠などの相談窓口となっています。今まで5ケースが出産まで至っており、母子の健康と命を守るセーフティネットとなっています。しかし、今年度で日本財団からの援助が終了となり“にんしんSOSいわて”の活動存続が危ぶまれています。“妊産婦等生活援助事業”の充実をはかり、“にんしんSOSいわて”が存続できるよう助成をお願いします。

少子化社会の中で子育てが困難な状況となっている現在、母子に対するケアや育児サポートはより重要となり、すべての子育て家庭で必要とされています。そういった中“産後ケア事業”は、昨年より産後ケアを必要としているみんなが利用できるものとなったと聞いております。市内では現在、訪問型とデイサービス型はありますが十分ではなく、宿泊型はありません。父親や祖父母などの協力が得られにくい母子にとっては、宿泊による休養機会が最も望まれるものと考えられます。宿泊型サービスを含めて“産後ケア事業”の充実をお願いします。

【にんしんSOSいわて】

▶**回答（子ども未来部こども家庭センター）**

「にんしんSOSいわて」の取組につきましては、乳児院を母体としていることから、その豊富な知識と経験をベースに、夕方以降や休日など、柔軟な時間帯

での相談や、全国でも数少ない、出産前後に安心して過ごせる居住支援を実施するなど、きめ細やかな支援を行っており、重要な役割を担っていただいております。

「にんしんSOSいわて」の活動が円滑に行われるための支援につきましては、国の事業を活用しながら、自治体間において連携し、速やかに必要な行政サービスが提供できる体制が構築されるよう、県等との協議を進めてまいりたいと存じます。

【産後ケア事業】

▶**回答（子ども未来部母子健康課）**

産後ケア事業についてですが、国の要綱改正により対象者が拡大し、国・岩手県の補助金により利用料金が無料になったことにより、全ての産婦にとって、利用がしやすくなりました。本市では、現在、訪問型とデイサービス型の実施をしておりますが、利用申請者の増加や希望どおりの利用ができず待ち期間が生じているなどの状況がありますことから、受け皿についてはまだ十分ではないものと認識しており、また、多くの方から、宿泊型の実施を希望する声も頂いております。宿泊型の実施に向けて、令和6年度は、先行実施している東北中核市等の調査を行ったほか、デイサービス型産後ケアを実施している医療機関の医師や産後ケアを実施している助産師、岩手県助産師会に御意見を伺い、現状と課題の整理を行ったところです。

今後におきましても、産後ケア事業の充実に向け、引き続き、関係機関との協議を重ね予算の確保に努めてまいります。

▶**要望事項 No.3**

子育て支援のためのワクチン接種及び拡大新生児スクリーニング検査の公費負担について

少子化対策に関して政府は教育費の無償化などを打ち出しています。子育ての

負担軽減の面で医療関係において出来ることは、将来を担う子ども達を病気から守るワクチンと難病の早期発見に関わる検査の公費負担と考えます。以前からお願いしています、おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）予防ワクチンに加え、妊娠中に接種する新生児、乳児のRSウイルス感染予防ワクチン、生後数日で採血による原発性免疫不全症、ライソゾーム病、脊髄性筋萎縮症、副腎白質ジストロフィーを検出する拡大新生児スクリーニング検査の公費負担をお願いしたいと思います。

【ワクチン接種】

▶回答（保健所指導予防課）

おたふくかぜワクチン接種及びRSウイルス感染症ワクチン接種につきましては、集団における流行の可能性や、重篤化のリスクの回避又は軽減の効果が見込めることの意義は大きいと考えております。おたふくかぜワクチン接種に対しましては、岩手県内において接種費用の一部助成を行っている市町村も増えているところであり、引き続き実施に向けて検討してまいります。

また、RSウイルス感染症ワクチン接種への助成につきましては、国の動向や他自治体の取組を参考にしながら、助成の可能性について検討してまいります。

【拡大新生児スクリーニング検査】

▶回答（子ども未来部母子健康課）

「拡大新生児マススクリーニング検査への公費負担について」であります。新生児マススクリーニング検査の普及実施は、先天性疾患の早期発見・治療につながり、発症予防や病状の進行を遅らせることが期待できるなど、大変重要な事業であると認識しております。

本事業については、昭和53年から岩手県において事業開始され、対象疾患については、現在の25疾患まで拡充が図られてきており、今後、拡大新生児マススクリーニング検査対象の4疾患について

も、事業対象となるよう、実施主体の岩手県と情報の共有を図り、実現のために全国市長会などを通じて、国に対して要望してまいりたいと存じます。

▶要望事項 No.4

難聴対策（補聴器助成）について

認知症の要因の一つとして難聴が指摘されており、QOLや認知機能に影響を与え、介護予防や生活の質を維持していくうえで難聴の早期発見と介入が重要であるといわれています。難聴を放置しておくことでコミュニケーションの低下を招き、社会的に孤立に陥る確率は2.78倍、うつ発症率は1.43倍、認知症発症率は1.9倍になると報告されています。さらにフレイルなど放置によるリスクが増大するとの報告もあります。対策については、正しく調整された補聴器の効果が期待できることが多いのですが、補聴器の適正な普及が進んでいないのが現状です。

原因の一つとして補聴器購入の行政からの経済的支援が不十分であることがあげられています。5年前から軽度中等度難聴者に対して補聴器購入時の助成制度が各自治体で進み、高齢者の孤立予防につながっており、岩手県では33市町村中10市町村で補聴器助成が行われています。ぜひ盛岡市でも補聴器助成制度について導入を検討ください。

▶回答（保健福祉部長寿社会課）

加齢性難聴の補聴器購入補助制度の実施についてであります。聴力の低下は高齢者の社会参加の意欲に影響を及ぼす要因の一つとなり得るものと認識しております。国では、補聴器装用による認知機能への効果に関する研究に取り組んでおり、その結果が示されると聞いておりますので、他都市の状況等も研究し、引き続きその動向を注視してまいります。

▶要望事項 No.5

在宅医療・介護連携に係る協議会の開催

について

在宅医療の充実と多職種連携の推進は喫緊の課題です。昨年度盛岡市が行った各職能団体への聞き取り調査結果と市内で話し合われてきた課題に基づいて、在宅の現場に従事する多職種が集まり、多様化・複雑化する課題解決に向けた話し合いを行うための協議会を設置し、早急に開催していただくようお願いいたします。

▶回答（保健福祉部長寿社会課・保健所企画総務課）

昨年度当市で実施した在宅医療と介護の連携に携わる専門職団体の方々との意見交換によって抽出した連携に係る課題については、先日、各団体あてに書面にて報告したところです。まずは各団体内で課題を共有いただき、今後、課題解決に向けた関係機関との話し合いの場について検討していきたいと考えております。

▶要望事項 No.6

地域包括ケアシステムの構築を担う人材の育成と継続的な配置について

地域包括ケアシステムの構築に向けては、介護・医療・保健・福祉等の多様な分野での取組が求められます。厚生労働省の「在宅医療・介護連携推進事業の手引きVer.3」にありますように、市町村が主体的に取り組むためには、事業の継続性、質の観点から、職員のキャリアパスや、継続性を持った人員配置等に配慮することで、介護保険部門のみならず、診療報酬を含めた医療制度の観点と保健福祉の横断的な知識と専門性を持つ人材を養成し、継続的に配置していく事が重要とされています。盛岡市においてもご検討をお願いいたします。

また、事業の継続性につきましては、担当者の異動などで事業の取組みが途絶えたり、一方的な方針変更等がなされることがないように、担当課内での情報共有

と事業のコンセプトの共有を図っていたべくとともに、課題解決のために担当課の枠にとらわれず市内連携を推進していただくようお願いいたします。

▶回答（保健所企画総務課・保健福祉部長寿社会課）

地域包括ケアシステムの構築に向けては、老人福祉法及び介護保険法の規定より策定する「高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画」に基づき取り組んできたところであります。「在宅医療・介護連携推進事業」を推進するための人材として、長寿社会課内に「医療・介護連携コーディネーター」を2名配置しております。また、専門性を持つ人材として保健所内に公衆衛生医師1名を採用してきたところです。「岩手県保健医療計画（2024-2029）」において、在宅医療に必要な連携を担う拠点として本市を位置付けており、在宅医療に係る取組を推進するため、市内連携を図る体制として「在宅医療提供体制推進市内関係課連絡会議」を設置いたしましたので、これまで市内関係課における課題の抽出を行ったほか、今後、関係機関へのヒアリングを行うこととしております。

以上の6つの要望を行った。盛岡市からは、国や県の動向を注視し、関係機関との協議等を通じて検討していきたいとの回答であった。このほか、盛岡市医師会附属盛岡准看護学院・高等看護学院について、盛岡市からの事業費補助の継続についても要望した。

会議のあとは懇親会に移り、星進悦盛岡市保健所長の乾杯で始まり、金子博純副会長の挨拶にて閉会となった。今後も行政との率直な意見交換を通じて、地域課題の共有を図っていきたい。

（佐藤直也）

出席者名簿

盛岡市医師会

会 長	吉 田 耕太郎	産科婦人科吉田医院
副 会 長	菊 池 貴 彦	岩手県立中央病院 脳神経内科
副 会 長	金 子 博 純	金子胃腸科内科
副 会 長	工 藤 卓 次	くどう医院
理 事 (総務部長)	橋 本 真 生	はしもと眼科クリニック
理 事 (救急医療対策部長)	和 田 司	盛岡赤十字病院 脳神経外科
理 事 (保険部長)	鈴 木 知 己	鈴木内科医院
理 事 (母子保健・思春期保健対策部長)	金 濱 誠 己	杜のこどもクリニック
理 事 (総務部・地域医療部)	久保田 公 宜	久保田医院
理 事 (学幼保医部長)	小 林 有 一	小林小児科クリニック
理 事 (医療安全・医療事故予防対策部長)	千 葉 隆 史	ちば耳鼻咽喉科クリニック
理 事 (地域医療部1部長)	佐 藤 直 也	なおや脳神経・頭痛クリニック
理 事 (在宅医療部長)	木 村 幸 博	もりおか往診ホームケアクリニック
理 事 (検診部長)	石 井 基 弘	石井内科消化器科医院
理 事 (地域医療部2部長)	高 橋 進	中津川病院 内科
事務局長	及 川 敬一郎	
次 長	水 本 達 彦	

盛 岡 市

保健福祉部

部 長	加 藤 彩 子	
次 長	坂 本 淳	
地域福祉課長	佐々木 祐	
障がい福祉課長	小 原 幹 男	
長寿社会課長	山 崎 剛	
介護保険課長	佐 藤 幸 伸	
生活福祉第一課長	花 坂 玲 夫	
生活福祉第二課長	中 村 守 男	
(保健所)		
保健衛生監	川 目 昌 竜	
保健所長	星 進 悦	
次長	高 橋 宏 英	
企画総務課長	田 村 聡	
健康増進課長兼統括保健師	壽 真 弓	
指導予防課長	佐々木 正 仁	
生活衛生課長	佐 藤 美樹子	
子ども未来部		
部 長	佐久山 久美子	
次 長	小 原 輝 司	
子ども青少年課長	杉 田 博 信	
参事兼子育てあんしん課長	高 橋 智 巳	
母子健康課長	澤 口 佐知子	
参事兼こども家庭センター所長	佐々木 一 憲	

6. 第17回盛岡救急医療人のつどい

日 時：令和6年7月30日（火）午後7時
場 所：盛岡グランドホテル



1. 挨拶

盛岡市医師会 吉田耕太郎 会長より「盛岡救急医療人のつどいは毎年7月に行われてきたが新型コロナウイルスの全国的な蔓延により、今回は5年ぶりの開催になった。新型コロナウイルス感染症は盛岡市はもとより本邦の医療に救急搬送困難事例をはじめとしたいくつもの問題を投げかけた。盛岡市医師会としても、これらの救急医療の問題点に対して、現在、救急態勢の見直しを行っているところである。本年6月になり欧米、本邦でも新型コロナウイルスの増加がみられるようになった。変異株KP.3感染症が80%を占めており重症化は少ないが、with コロナ状況の持続に対して医療機関の連携を図り万全の対策をとるつもりである。今回の研修会は新型コロナ対応の総括として盛岡地区広域消防組合より佐々木宏章氏、岩手県災害医療コーディネーターである岩手医科大学眞瀬智彦教授より講演を頂く。その後の情報交換会もウイルス感染に留意した意義のある時間としたい」とご挨拶があった。

2. 研修会

テーマ：「コロナ禍における救急対応の総括」

1) 盛岡地区広域消防組合



演題：「コロナ禍における救急隊の活動」

講師：八幡平消防署
警防係長

佐々木宏章氏

講演要旨

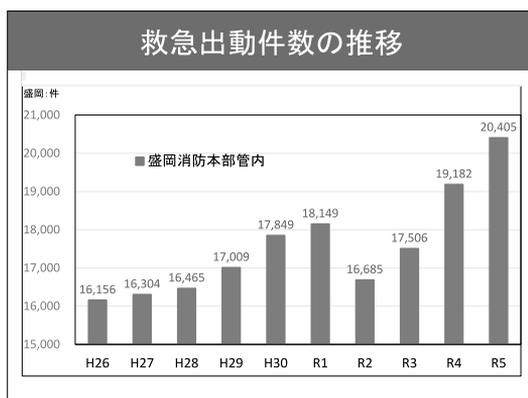
①盛岡消防本部の現況について：令和5年度まで救急隊は18隊で運用されていたが、令和6年度より19隊に増隊された。救急搬送事例は令和3年から年々増加し、令和5年は20,405件であり、初めて2万件を超え最多件数となった。10年間の推移では令和2年に新型コロナウイルス感染症の蔓延により一旦減少したが、以後増加傾向をたどった。この傾向は全国と同様であった。

②新型コロナウイルス感染症蔓延に対する対応について：新型コロナ陽性者の搬送件数は、令和2年2月26日～令和5年5月8日までで、1,288人であった。消防本部として新型コロナウイルス感染症対応では、救急隊員の感染防止強化、救急隊員の教育、保健所との対応要領の3点を重点項目とした。保健所からの要請による陽性患者の移送は278人であった。そのうち92人は新たに装備したアイソレーターを用いて移送した。医療提供体制に係る連携グループ別連絡会は救急隊と関係機関との意思統一と状況把握に有用であった。岩手県入院等搬送調整班による搬送医療機関の選定は救急活動時間の短縮につながった。救急隊員の教育により救急搬送レベルを落とさずに新型コ

ロナ感染症対策を行うことができた。

③搬送困難事案件数について：搬送困難事案件数は令和2年からの調査によると、令和2年には189件であり、年々増加し令和5年では1,132件であった。特に令和5年では全搬送数の約5%が搬送困難事案に該当した。特に医療機関の問い合わせ件数が10回を超える事案が令和5年には30回みられ、最多は17回であった。最長現場滞在時間は2時間31分であった。今後も関連医療機関との連携をさらに活用していきたい。

項 目	
<ul style="list-style-type: none"> 盛岡消防本部の現況 新型コロナウイルス感染症の対応状況 搬送困難事案件数 	



新型コロナウイルス感染症への対応状況

- 救急隊員等の感染防止対策を強化
- 救急隊員の教育
- 保健所と対応要領を確認

搬送用アイソレーター

- カプセル型の搬送用器具で、感染者の呼吸や飛沫に含まれる感染源を外に排出させない。
- 本体には特殊な開口部があり、応急処置が可能。



感染防止対策資器材の強化

全ての救急車にオゾン発生装置を整備

2) 岩手県災害医療コーディネーター



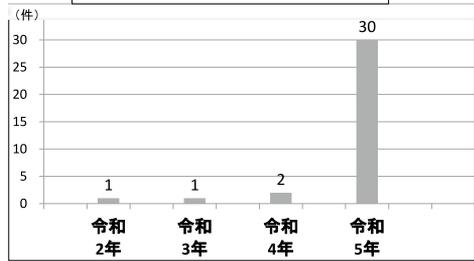
演題：「岩手県における新型コロナウイルス感染者の入院・搬送まとめ」
 講師：岩手医科大学救急・災害医学講座 教授
 岩手県高度救命救急センター長 眞瀬智彦氏

講演要旨

① 岩手県における新型コロナ感染症に対する医療体制：感染制御、検査を担う新型コロナウイルス対策専門委員会と医療提供、療養施設、搬送調整を担う新型コロナウイルス感染症医療体制検討委員会の2つの委員会を中心に組織構成された。医療体制は基本的に二次医療圏単位で構築された。感染症蔓延フェーズに合わせて、二次医療圏毎に重症度レベルとそれに対応する医療機関を選定した。ただし、ECMOを要する最重症例については三次医療圏である岩手県全体を県立中央病院および岩手医科大学附属病院が担うこととした。具体的な対応として病床の確保計画、地域外来・検査センター（後に診療・検査医療機関へ移行）の設置、宿泊療養施設の確保、搬送調整、施設内感染防止、クラスター対策に対応する体制を整備した。これらの体制は感染症蔓延ピークまでは全例対象としたが、全数把握終了後は重症例、高齢者、

搬送困難事案

医療機関問合せ10回以上の件数



※盛岡消防本部管内

小児、妊婦などのハイリスク例を対象とした。

② 岩手県入院等搬送調整班について：岩手県入院等搬送調整班は新型コロナウイルス感染症医療体制検討委員会に属し主に入院調整を行ったが、合わせて宿泊療養施設入所者の管理も行った。宿泊療養者は延べ約37,000人に及んだ。医療機関および高齢者施設の感染クラスター発生は5類感染症移行後の現在まで増加を続けている。クラスター対応は保健所所長をトップとしたクラスター制御タスクフォースを中心として行った。特に高齢者施設におけるクラスター対策で重要な点は、医療体制の確立と感染対策、施設業務の継続計画と考える。高齢者施設に対するタスクフォース対応件数は18件、約180日間であった。現在もクラスター発生は増加傾向であるが、クラスター発生予防としては感染発生早期の対応が重要であり、クラスター発生施設においては入所者のADLを維持することがさらなる拡大を予防する鍵となる。感染症蔓延に伴い令和4年末に、各医療機関内のクラスター発生、それに伴う転院困難が生じ結果として医療逼迫が生じた。加えて搬送困難事例が増加した。搬送困難事例を分析すると新型コロナ感染症関連というより、通常の救急症例における搬送困難が増加していた。

3) 質問・意見

質問：令和2年に救急搬送が減少しているが、疾患によるものが減ったのか、事故によるものが減ったのか。加えて、救急隊員の感染状況について教えてほしい

回答：令和2年の減少は、全国的な行動制限が関係しているのではないかと。救急隊員の業務関連感染は把握していないが、隊員の感染による業務困難は生じていない。

意見：今回の新型コロナウイルス感染症対応の経験により適切な救急医療コーディネーターの存在と救急関係機関間の情報共有は救急医療運用において非常に有用であることが示されたと思う。この経験から今後の岩手県の救急医療において情報集約及び搬送先選定を担う部署を整備するべきと考える。

回答：現在、岩手県では当該部署の設置予定はないが、救急困難事例に対

しては#7119を利用することから始めていきたい。

質問：新型コロナウイルス感染症対応救急隊員の精神的ストレスについて教えてほしい。

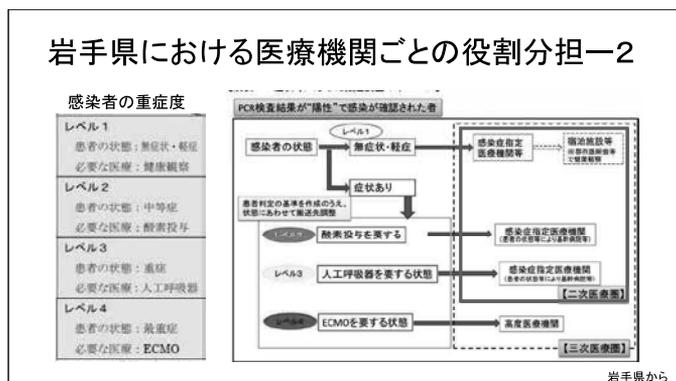
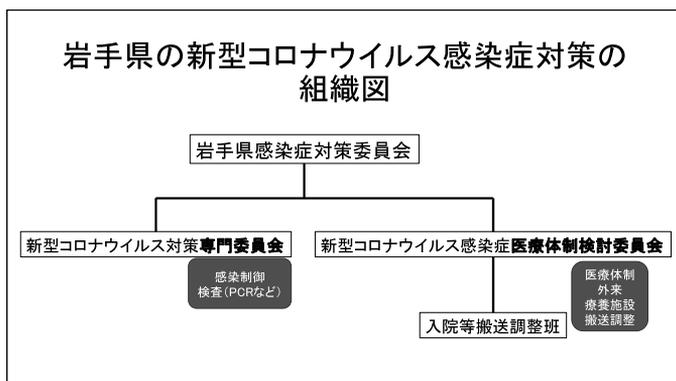
回答：蔓延初期は隊の中で不安が先行したが、隊員教育、知見の理解、経験によりストレスを乗り越えたと思う。

意見：講師の方々はこの経験で大変な思いをされたと思う。今後も今回の経験を生かし次に来る医療危機を乗り越える先頭に立って頂きたい。

3. 情報交換会

盛岡地区広域消防組合 瀬川浩樹消防長の挨拶、乾杯にて開始され、さらに懇親を深めた。

今回の参加者は医師47名、看護師・事務26名、消防関係者70名、計143名と盛会であった。



具体的な対応

①入院等搬送調整班の設置

- ◆ 岩手県新型コロナウイルス感染症医療体制検討委員会に患者の搬送調整の実務を担当する「入院等搬送調整班」を置く
- ◆ (「岩手県新型コロナウイルス感染症医療体制検討委員会設置要綱」令和2年4月14日施行より抜粋)。



- ・ 構成
 - 班長(医療体制検討委員会委員、副班長(数名)、本部支援員(DMATロジチーム他)
- ・ 業務内容
 - 患者の受入れ先医療機関、その搬送手段の調整(原則2次医療圏内での調整は保健所が行う)
 - 小児、妊産婦、透析、精神疾患等の個別の病態に応じた調整
 - それぞれの専門家の意見をいただきながら調整を実施
 - 情報共有手段:HER-SYSを用い情報を共有

出典:「岩手県新型コロナウイルス感染症医療体制検討委員会設置要綱」

岩手県の新型コロナウイルス感染症対策・医療体制 具体的な対応

- ① 入院等搬送調整班
- ② 病床の確保計画
- ③ 診療・検査医療機関
- ④ 宿泊療養施設の確保
- ⑤ 搬送体制
- ⑥ 施設内感染防止対策
- ⑦ クラスター対応
- ⑧ 感染者情報共有

具体的な対応

⑦クラスター対策について

- ・ いわて医療福祉施設等クラスター制御タスクフォースを組織し対応する
行政(保健所、市町村)、感染制御チーム、医療チーム、社会福祉協議会、関連団体、消防等

いわて医療福祉施設等 クラスター制御タスクフォース



実施事項	対応者	活動内容
感染制御体制	保健所 ICAT	① 施設のコアチーム ② 入所者のコアアップ ③ 感染調査 ※ PCR検査(検体採取・搬送)をだれが行う? ④ 感染制御に関する教育
施設内での医療提供体制の構築	医療機関 ※医師、看護師 消防	① 陽性者の重症度判定(トリアージ) ② 軽症者(場合によっては中等症)の病態観察 ※ 軽症の待機(施設内での対応の可否) ③ 重症者(場合によっては中等症)の医療機関への搬送 ④ こころケア体制の構築
現地対策本部の設置	保健所 施設管理者 ロジチーム	① 医療機関、保健所等との連絡調整 ② 物資の確保 ③ 広域・マシニ対応
平時の施設機能の再開	当該施設 市町村等 社会福祉協議会 関連協会等	① 職員確保(職員感染、自宅待機、退職等) ② 施設清掃、換気機、リフト、給後等の手配 ③ 入所者・者への説明 ④ 施設再開までの計画・実施

出典:「岩手県新型コロナウイルス感染症医療体制検討委員会設置要綱」

具体的な対応

⑥施設内感染防止対策

- ・ (感染予防)社会福祉施設等の感染防止推進のため、チェックリストを作成し、自己点検を行い、点検の結果確認の上不足の点については保健所への相談等により改善に努める。
- ・ いわて感染制御チーム(ICAT)、保健所、広域振興局等と連携し、県内の医療機関、福祉施設等に感染防止対策を支援する。

(和田 司)

7. 第41回救急医療学術講演会

日 時：令和6年9月13日（金） 午後7時
場 所：盛岡グランドホテル



1. 挨拶

盛岡地区二次救急医療対策委員長
盛岡医師会会長
吉田耕太郎 会長



盛岡医師会
吉田耕太郎 会長

盛岡圏域の救急活動の維持において本日参会された救急関連の皆様方の日頃の尽力に感謝申し上げます。救急救命士の活動内容については平成3年より議論が重ねられてきた。その結果、救急救命士の活動範囲が拡大しており、救急搬送のみならず病院内での救命活動にまで拡がりを見せている。本日、講演を頂く張替先生は救急救命士の活動について長年議論をしてきた方であり、本日参会の関係者の皆様方にとっても非常に意義のある講演になるであろうと考えている。

2. 講演

座長：岩手医科大学 救急・災害医学講座
眞瀬智彦 教授
講師：国士舘大学大学院
救急システム研究科
同大体育学部スポーツ
医科学科



岩手医科大学 救急・
災害医学講座
眞瀬智彦 教授

張替喜世一 教授
演題：医療従事者としての救急救命士のこれまでとこれから

講演要旨：

①救急救命士制度の誕生：

1988年、東京消防庁救急部主幹である武井勝徳氏が救急現場において救急隊員に一切の医療行為を禁じた当時の法体制の問題を社会に提起した。これを契機とし



国士舘大学大学院救急システム研究科 同大体育学部
スポーツ医科学科
張替喜世一 教授

て1989年からフジテレビ黒岩祐治氏（現神奈川県知事）を先頭にマスコミにおいて救急救命士の必要性についてのキャンペーンが張られた。同年9月に当時の厚生省「救急医療体制検討委員会」が設置され、1990年に救急救命制度と救急隊員の業務拡大についての中間報告がなされた。1991年には、同年を救急医療体制整備の初年度と位置づけ救急救命士制度設立法律案が国会に提出され、4月18日救急救命士法が成立した。救急救命士法は問題提起から極めて短期間での成立であり、これは社会の強いニーズの現れであったと考えている。

②救急救命士業務の拡大：

救急救命士法成立時、救急救命士が行う処置は診療の補助と位置づけられ、業務は救急現場から救急車内収容までの範囲であり、特定行為の施行には医師の指示が必要とされた。その後、徐々に業務内容の拡大が議論され、2014年には気管内挿管やAED使用、エピネフリン投与、ブドウ糖溶液投与などが追加された。さらに業務範囲について2021年に病院内や民間業務などの活動範囲拡大についての法改正がなされた。

③病院内における活動：

2021年の法改正に伴い、救急救命士の活動範囲が院内救急外来までに拡大され、さらには医療機関内勤務が可能になった。ここで言う救急外来までとは来院し病棟に入院するまで、入院しない場合は帰宅までの範囲であり、対象者は来院後症状悪化のおそれのある重度傷病者である。また、可能な救急救命処置は医師の包括的指示に基づく処置及び具体的指示に基づく処置（特定行為）の33

項目と定められている。院内での活動については、勤務医療機関毎に院内研修が必要であり、特定行為等の施行には救急救命士個々に都道府県メディカルコントロール（以下MC）協議会の認定が必要である。処置を行った場合は救急救命処置録の記載が必要になる。また、2024年の診療報酬改定にて救急患者連携搬送料が新設され救急救命士の活動に診療報酬算定が可能になった。以上の制度の中で、病院勤務救急救命士の現状については、就業状況は救急医療機関に限定されており、施設毎の人数も3人以内がほとんどである。救急救命士を対象としたアンケートで問題点としてあげられているのが特定行為等における各都道府県MC協議会での認定状況であり、さらなる拡大が望まれている。

④救急救命士のこれからのあり方：

救急救命士に必要な資質は科学的思考に基づく倫理観と病態把握能力である。これらの獲得のために医療への積極的な参加、業務のエビデンス確立のための学問的視点、および救急救命士による教育体制の構築であろう。2017年には救急救命士のみを正会員とする日本救急救命学会が設立され、2024年には救急医療の質の向上目的に日本救急救命士会が発足した。これらの団体の活動により今後の救急救命士の資質向上に期待する。また、今後さらなる救急救命処置の拡大が議論されており、具体的にはアナフィラキシーに対するアドレナリン筋肉内投与が検討されている。

質問・意見

質問：今後、各病院が救急救命士を採用

するにあたりどの様な形での採用を期待するか、また、今後の救急救命士のキャリア形成についての意見はあるか。

回答：救急救命士の指導については救急救命士が担うべきと考える。病院勤務救急救命士の活動内容については、本講演の内容に加えて、教育者としての救急救命士の活動に期待する。したがって、病院においては新卒者のみならず、経験を積んだ救急救命士の採用も必要と考える。また、民間救急も推進されており、今後救急救命士のキャリア形成については多様性が求められるであろう。

質問：都道府県MC協議会で特定行為等が認定されにくいとの報告であった

が、それはどのような理由が考えられるか。
回答：正確にはわからないが、地域差が見られるようである。メディカルディレクターが救急救命士が常勤している高度救命救急センターの医師であるような都市部では認定されている。救急救命士の活動内容の周知に地域差があるのではないかと。

3. 情報交換会

岩手県立中央病院 宮田副院長の挨拶、乾杯にて開始され、さらに懇親を深めた。

今回の参加者は医療従事者25名、消防・行政関係者74名、計99名と盛会であった。

(和田 司)

救急救命処置拡大

平成3年 救急救命士法施行 ※心肺停止患者のみに対してのみ行うもの

1 医師の具体的な指示が必要なもの(特定行為)

- ① 半自動式除細動器による除細動 (⇒平成15年まで) ※
- ② 乳酸リンゲル液を用いた静脈路確保のための輸液 ※
- ③ ラリリングアルマスク等の器具による気道確保 ※

2 医師の包括的な指示で行うもの

平成15年 「自動体外式除細動器(AED)による除細動」を2.に追加

平成16年 「気管内チューブによる気道確保 ※」(気管挿管)を1.に追加

平成18年 「エピネフリンの投与 ※」を1.に追加

平成21年 「自己注射可能なエピネフリン製剤によるエピネフリンの投与」を2.に追加

平成23年 「ビデオ視性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管 ※」を1.に追加

平成26年 心肺機能停止者の患者に対して行う「乳酸リンゲル液を用いた静脈路確保及び輸液」「ブドウ糖注射液」を1.に追加、
「血糖測定器を用いた血糖測定」を2.に追加、その他「応急手当」の範囲を2.に追加

救急救命士医療機関内業務範囲

救急・災害医療提供体制等の在り方に関する検討会(厚労省)
「救急外来」とは
・施設・設備構造で規定することは困難
・救急診療を要する傷病者が来院してから入院(病棟)に移行するまで(入院しない場合は、帰宅するまで)に必要な診察・検査・処置等を提供される場

学会共同ガイドライン(日本臨床救急医学会・日本救急医学会)
「病院もしくは診療所に到着し入院するまで」
について、具体的な記載は無し



民間救急救命士統括体制認定機関資料より引用一部改変

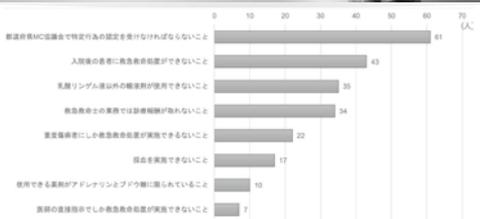
救急救命処置の内容

救急・災害医療提供体制等の在り方に関する検討会(厚労省)
・現行で実施できる救急救命処置の内容から変更しない
・救急救命処置以外の業務については、当該行為が医療行為でなければ、事務職員でも可能なため、救急救命士が行うことを規制しない

学会共同ガイドライン(日本臨床救急医学会・日本救急医学会)
・委員会において、医療機関に求められる機能・体制等や、救急救命士の知識・技術、医師の具体的な指示を必要とする救急救命処置の認定などの状況により、救急救命士ごとに定める
・具体的な指示を必要とする救命救急処置のうち、追加認定が必要な処置は、都道府県MC協議会の認定を受けていることが必要
・「医師が実施する診療の支援」は実施可能

民間救急救命士統括体制認定機関資料より引用一部改変

病院救命士の制度・体制で最優先で解決すべきだと思う事項



事項	件数
都道府県MC協議会で特定行為の認定を受けなければならないこと	81
入院後の患者に救急救命士が診察できないこと	43
乳酸リンゲル液以外の輸液が使用できないこと	35
救急救命士の業務では静脈路確保ができないこと	34
高度救命救急センターに救急救命士が勤務できないこと	22
救急医療現場に救急救命士が勤務できないこと	17
救急現場で救急救命士がアドレナリンをアドレナリン製剤に換えてもらえないこと	10
医師の直接指示でしか救急救命士が実施できないこと	7

病院内救急救命士の役割

- ・チーム医療の一員として、出来ること
⇒初療トリアージ、ファーストアセスメント
- ・救急救命士だから出来ること
⇒他医療職種や外部機関とのコーディネーター
- ・EBM確立の担い手
⇒研究材料はあふれている
- ・病院内BLS教育などの指導者
⇒資格取得など自分でスキルアップが必要

検討中の救急救命処置拡大

救急医療振興財団「救急救命処置検討委員会」⇒厚労省へ提案
⇒救急医療の現場における医療関係職種の方に関する検討会

- ① 次の特定行為の包括指示化
「乳酸リンゲル液を用いた静脈路確保のための輸液」
「アドレナリンの投与」
「食道閉鎖式エアウェイ・ラリリングアルマスクによる気道確保」
- ② アナフィラキシーに対するアドレナリンの筋肉内投与
- ③ 事故除去事例に対する気管切開チューブの再挿入
- ④ 自動式人工呼吸器による人工呼吸

救急医療の現場における医療関係職種の在り方に関する検討会WG

- ① エコー検査
- ② アナフィラキシーに対するアドレナリンの筋肉内投与

8. 令和6年度盛岡地区二次救急医療関係市町会議

日 時：令和6年8月9日（金） 午前9時
場 所：盛岡市保健所 7階大ホール



令和6年8月9日（金）午後1時より盛岡市保健所7階大ホールにて開催された。

1. 挨拶

- 1) 星 進悦 盛岡市保健所長（欠席のため高橋宏英 盛岡市保健所次長が代読）

昭和54年に盛岡地区二次救急医療体制がスタートし、今年で45年目になる。この間、関係機関の尽力により自治体住民が安心して受診できる救急医療が維持されていることに改めて感謝する。新型コロナウイルス感染症については第11波が到来しており、現在でも同感染症による救急医療への圧迫が危惧されている。今後も安定した救急医療の維持に協力をお願いしたい。本日は令和5年度の決算および令和6年度予算案についての会議であるが、関

係各所からの意見などを踏まえて今後の盛岡地区二次救急医療に生かしていきたい。

- 2) 吉田耕太郎 盛岡地区二次救急医療対策委員会委員長

日頃の盛岡地区二次救急医療に対する関係機関の尽力に感謝する。本日は予算などの議題が中心になるが、その他にコロナ禍により表面化した救急搬送困難事例などについても意見を交換したいと考えている。

2. 報告

- 1) 令和5年度盛岡地区二次救急医療補助事業決算について

上記報告があり、質問等なく了承された。

3. 協議

- 1) 令和6年度盛岡地区二次救急医療補助事業予算について
 - (1) 令和6年度盛岡地区二次救急医療補助事業予算書
 - (2) 令和6年度盛岡地区二次救急医療補助事業（小児救急）予算書
- 2) 令和6年度盛岡地区二次救急医療補助事業市町別負担金について
 - (1) 令和6年度盛岡地区二次救急医療補助事業市町別負担金割当表
 - (2) 令和6年度盛岡地区二次救急医療補助事業市町別負担金（小児救急）割当表

上記1、2について予算額、割当額ともに承諾された。

4. その他

- 1) 盛岡地区二次救急医療対策委員会会計について
 - (1) 令和5年盛岡地区二次救急医療対策委員会一般会計決算書
 - (2) 令和6年盛岡地区二次救急医療対策委員会一般会計予算書上記について、質問等なく了承された。
- 2) 盛岡地区二次救急医療体制について
盛岡地区二次救急医療対策委員会の和田司常任委員より各自治体関係部署に対して以下の報告および要請があっ

た。現在、救急搬送困難事例の増加に対して盛岡市医師会として二次救急医療体制の見直し作業を行っている。内容としては、二次救急病院の役割分担を病院機能に基づき、高度医療を担うA群病院と初期対応を担うB群病院として明確化を行い、輪番制度については現状の運用を維持することとしている。また、救急患者受け入れ先選定基準の見直しを行っており、特に脳卒中、心筋梗塞、および重症かつ緊急性の高い外傷の受け入れについて岩手医科大学附属病院、県立中央病院、盛岡赤十字病院間で現在協議が行われている。協議により輪番制が敷かれた場合、現在までの発症場所ではなく曜日または日によって受け入れ医療機関が異なることになる。したがって居住地からやや離れた医療機関に搬送される可能性のあること、また、本年から設定された救急患者連携搬送料に伴い、A群病院にて初期対応を行った場合でも、数日間で他の医療機関へ転院することがあることを自治体として住民の皆様方に周知をお願いしたい。

(和田 司)

出席者一覧

盛岡地区二次救急 医療対策委員会	委員長	吉田耕太郎	盛岡市医師会（会長）
	常任委員	菊池 貴彦	盛岡市医師会（副会長）
	常任委員	金子 博純	盛岡市医師会（副会長）
	常任委員	工藤 卓次	盛岡市医師会（副会長）
	常任委員	橋本 真生	盛岡市医師会（総務部長）
	常任委員	和田 司	盛岡市医師会（救急医旅対策部長）
	事務局長	及川敬一郎	盛岡市医師会（事務局長）
	事務局員	佐藤 泰之	盛岡市医師会（課長）
	事務局員	谷藤 慎治	盛岡市医師会（課長）
	県央保健所 八幡平市 滝沢市 雫石市 葛巻町 岩手町 紫波町 矢巾町 盛岡市	医療介護課長	阿部 幸子
健康福祉課長		遠藤 祐一	
健康づくり課長		和川 早苗	
健康推進課長		大久保浩和	
健康福祉課長		大石 和人	
健康福祉課長		千架 英之	
健康福祉課長		坂木 竜二	
健康長寿課長		田口 征寛	
保健所長		星 進悦	（欠席）
保健所次長		高橋 宏英	
保健所企画総務課課長		田村 聡	
保健所企画総務課企画係長		板垣 充	
保健所企画総務課企画係主事		大川 詩歩	
保健所企画総務課企画係主事		下田 廉	

9. 岩手県小児救急電話相談事業実績

はじめに

平成16年10月より、岩手県では「看護師によるこども救急相談電話」事業を実施している。この事業は、岩手県から岩手県医師会が受託し、実務的な業務は盛岡市医師会に委託されている。

相談業務は年中無休で午後7時から午後11時までの準夜帯は岩手県看護協会が推薦し、盛岡市医師会が雇用する11名の看護師のうち2名ずつで担当している。また令和5年2月より深夜帯を全国規模で電話相談サービスを行っている事業者へ委託し、「夜間ケアダイヤル」の名称で午後11時～翌朝8時まで相談を受け付けている。

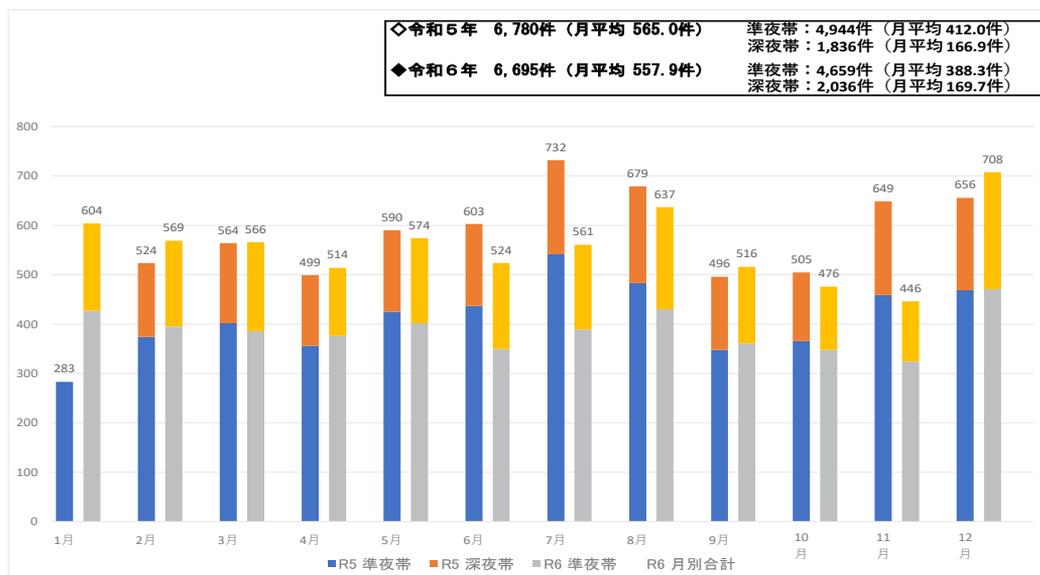
相談内容の検証、より良い相談方法、相談員の技術向上のため、毎月1回相談員全員と小児科医3名ほどが同席し、相談事例の検討会を行っている。その内容は市医師会の理事会で毎月報告されている。

1. 相談件数推移 (H27.1～R6.12)

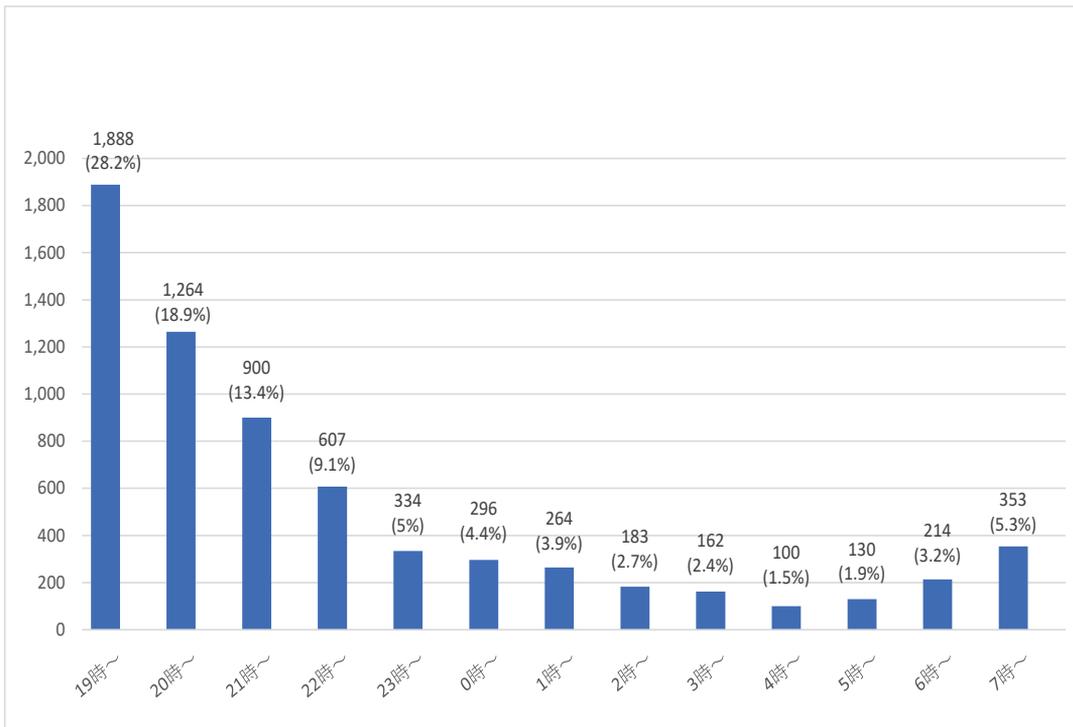
準夜帯：午後7時～午後11時
深夜帯：午後11時～翌朝8時 (件)

		1月	2月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平成27年	準夜帯	364	256		245	325	279	268	305	288	283	309	350	3,512	292.7
平成28年		301	337		369	333	311	330	341	336	308	313	396	4,012	334.3
平成29年		297	261		315	391	367	376	372	309	352	338	352	3,988	332.3
平成30年		398	338		374	376	327	437	426	328	352	324	333	4,340	361.7
令和元年		407	373		399	452	377	404	451	378	343	365	397	4,694	391.2
令和2年		386	321		236	243	267	227	283	238	251	204	235	3,168	264.0
令和3年		224	197		301	294	270	319	301	247	252	301	308	3,267	272.3
令和4年		275	224		266	294	266	321	347	333	348	375	356	3,644	303.7
令和5年	準夜帯	283	374		356	425	437	542	483	348	366	459	469	4,944	412.0
	深夜帯	-	150		143	165	166	190	196	148	139	190	187	1,836	166.9
令和6年	準夜帯	427	395		376	402	350	389	430	361	348	324	471	4,659	388.3
	深夜帯	177	174		138	172	174	172	207	155	128	122	237	2,036	169.6

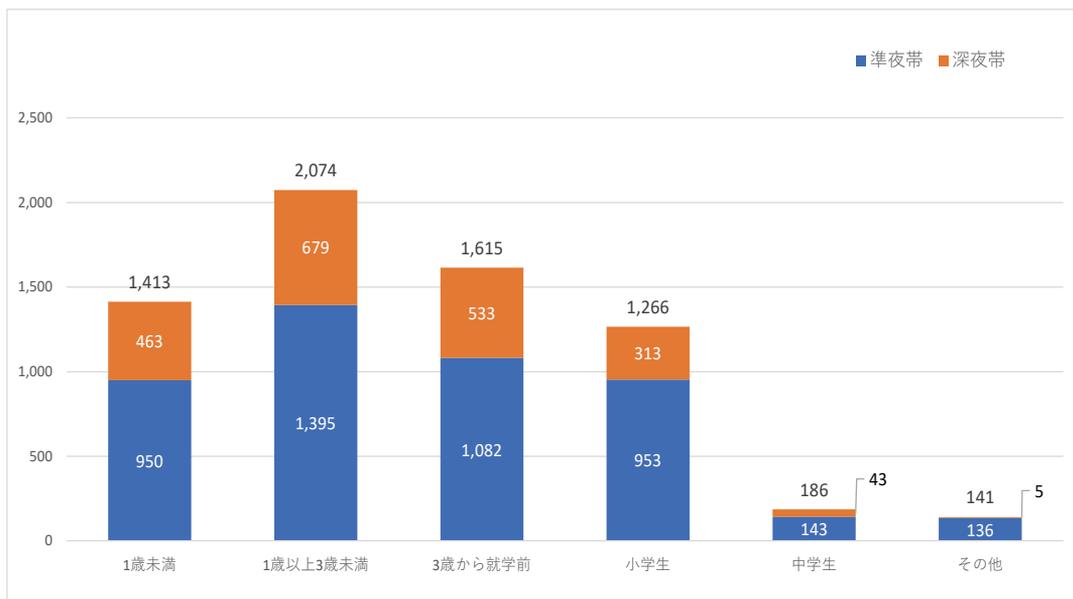
2. 月別件数 (前年度との比較)



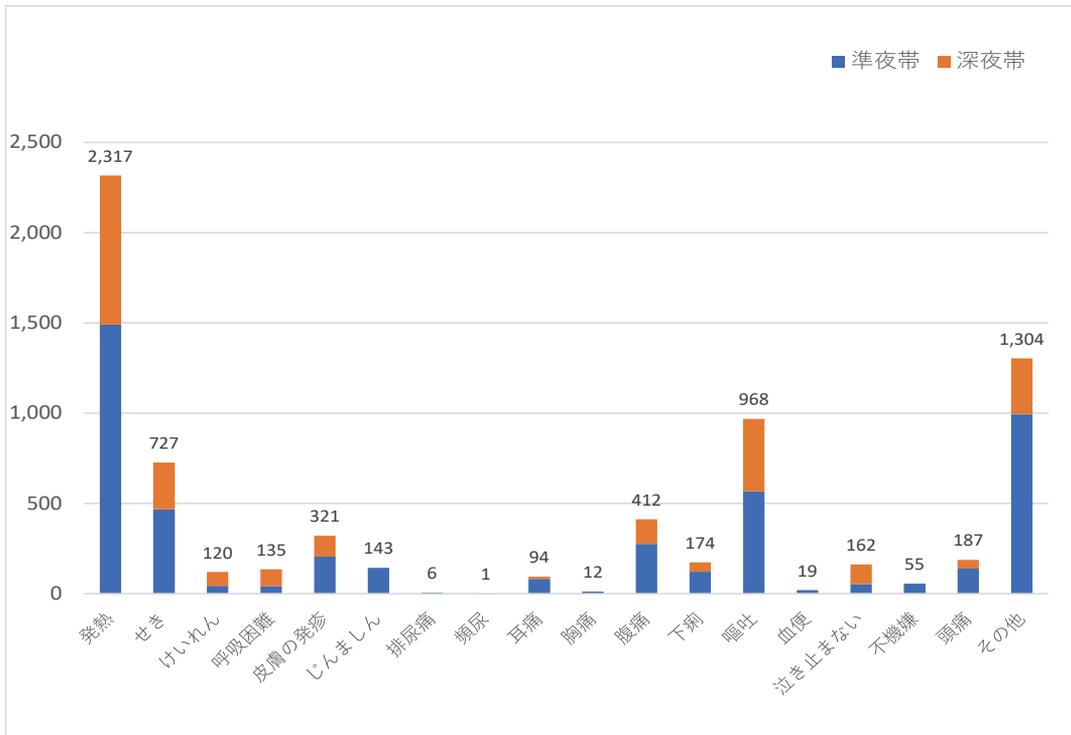
3. 時間帯別内訳 (R 6.1 ~ 12)



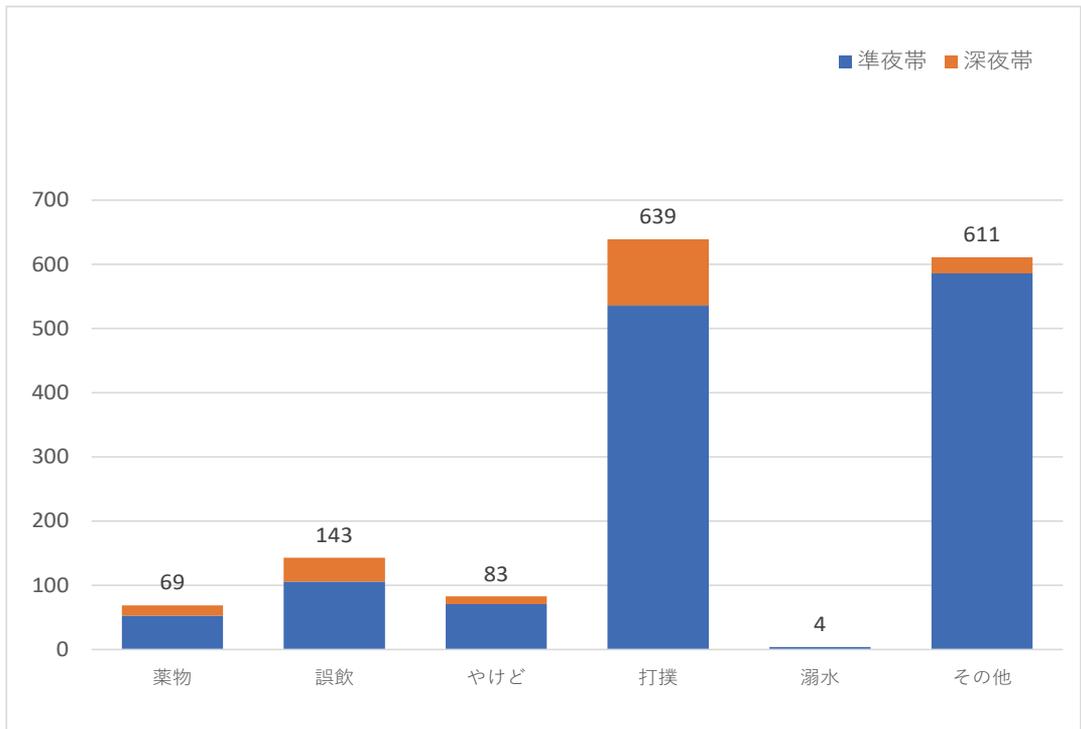
4. 年齢別内訳 (R 6.1 ~ 12)



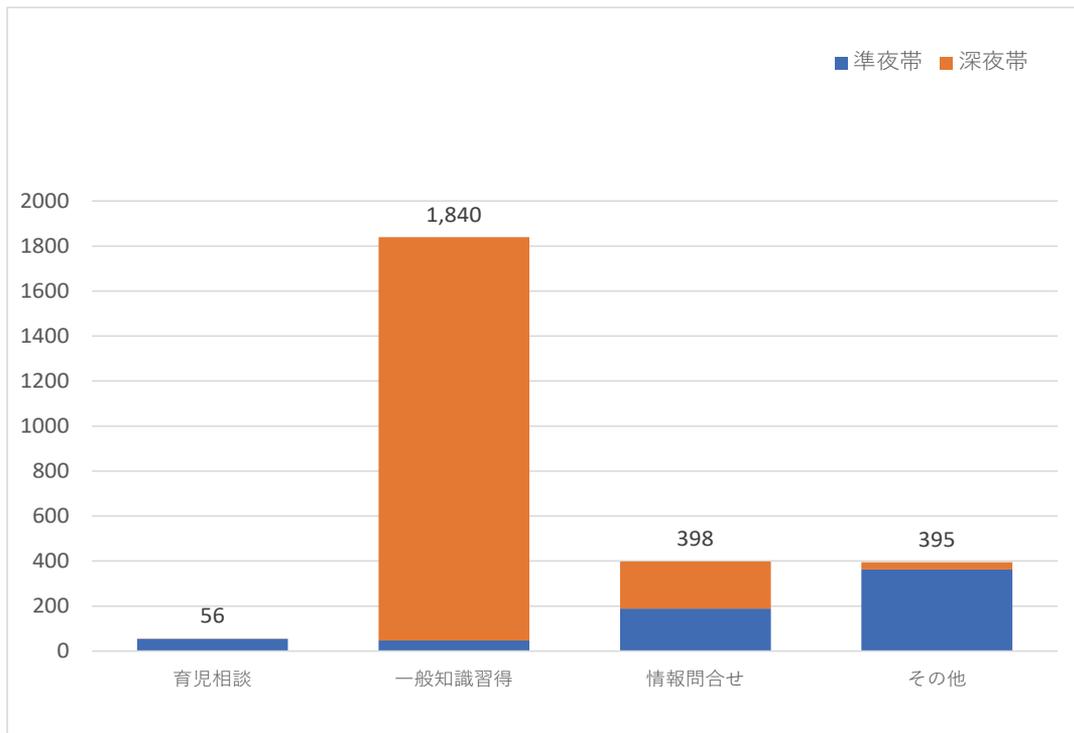
5. 相談別内容（病気）



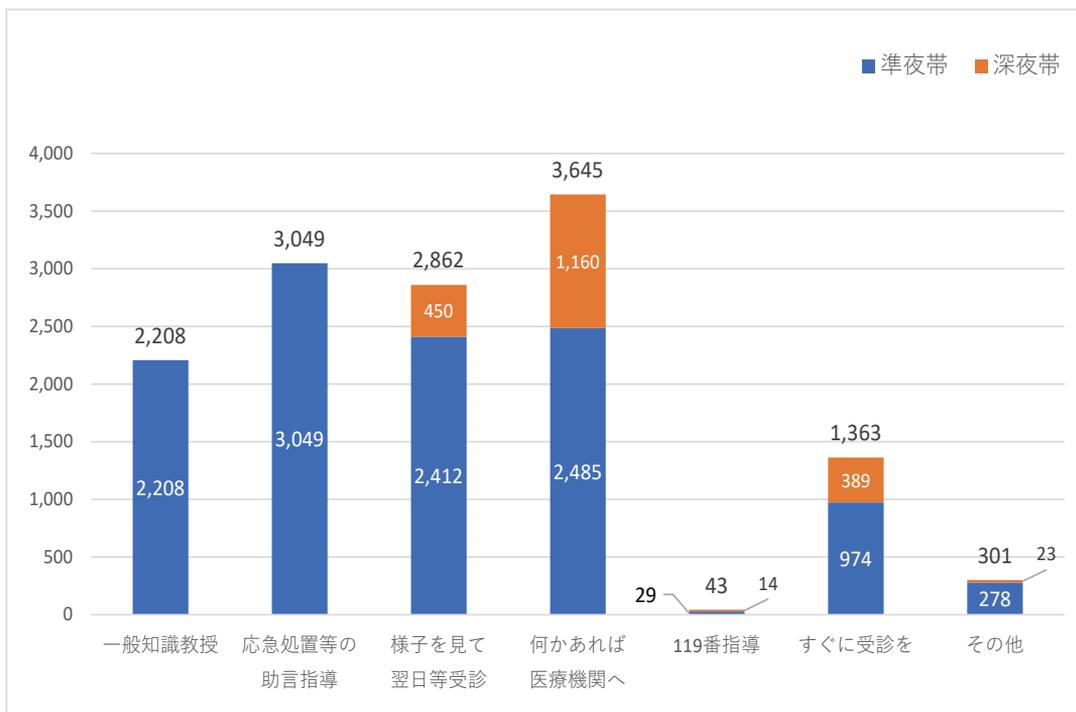
6. 相談内容（事故）



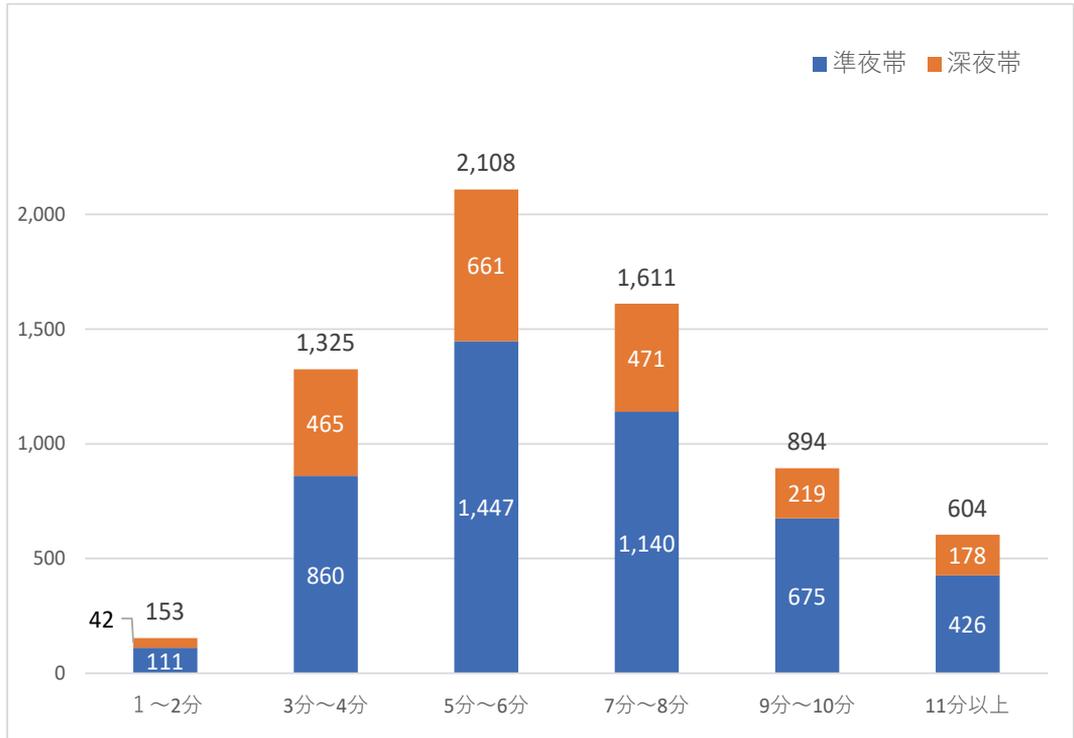
7. 相談内容（その他）



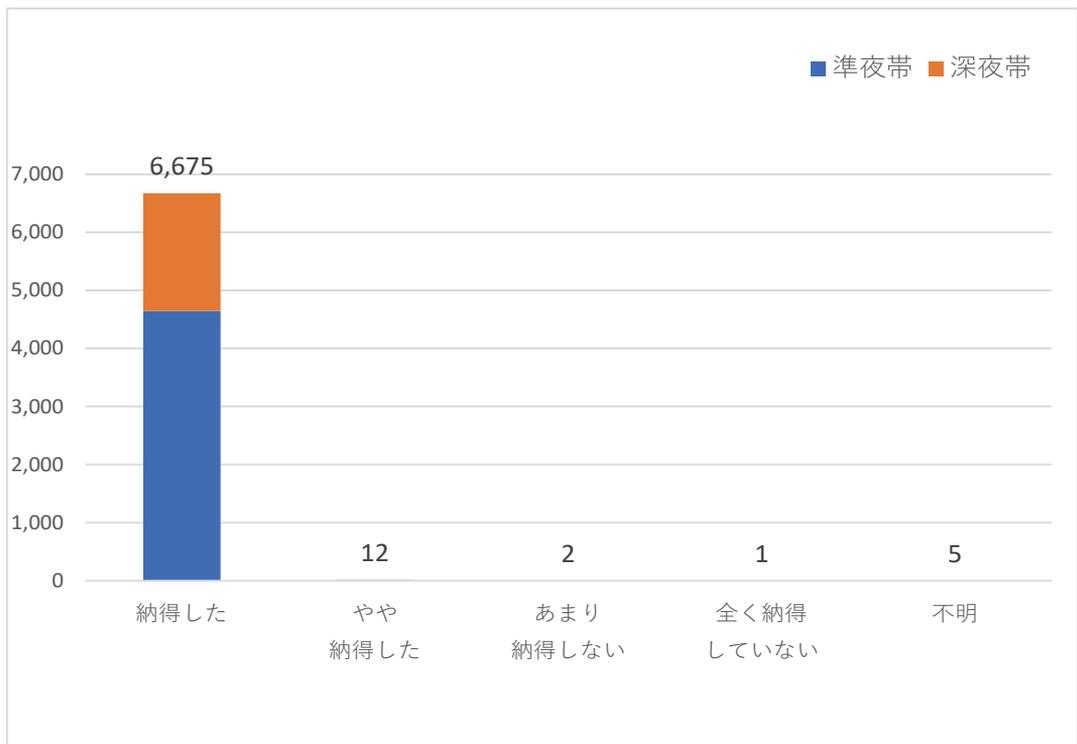
8. 対応内容別内訳（R6.1～12）



9. 相談時間別内訳（R 6. 1 ～ 12）



10. 相談者の印象別内訳（R 6. 1 ～ 12）



11. 市町村別件数 (R6.1～12)

市町村名	相談件数		合計	()内%
	準夜帯	深夜帯		
市部計	4,029	1,749	5,778	(86.30)
盛岡市	1,729	787	2,516	(37.58)
宮古市	81	26	107	(1.60)
大船渡市	87	40	127	(1.90)
奥州市	272	134	406	(6.06)
花巻市	431	190	621	(9.28)
北上市	358	140	498	(7.44)
久慈市	37	19	56	(0.84)
遠野市	49	27	76	(1.14)
一関市	388	153	541	(8.08)
陸前高田市	46	14	60	(0.90)
釜石市	53	35	88	(1.31)
二戸市	41	12	53	(0.79)
八幡平市	79	24	103	(1.54)
滝沢市	378	148	526	(7.86)
岩手郡	95	43	138	(2.06)
雫石町	48	22	70	(1.05)
葛巻町	13	2	15	(0.22)
岩手町	34	19	53	(0.79)
紫波郡	323	144	467	(6.98)
紫波町	185	95	280	(4.18)
矢巾町	138	49	187	(2.79)
県外	13	0	13	(0.19)
不明	19	8	27	(0.40)

市町村名	相談件数		合計	()内%
	準夜帯	深夜帯		
和賀郡	4	5	9	(0.13)
西和賀町	4	5	9	(0.13)
胆沢郡	50	34	84	(1.25)
金ヶ崎町	50	34	84	(1.25)
西磐井郡	19	8	27	(0.40)
平泉町	19	8	27	(0.40)
気仙郡	6	5	11	(0.16)
住田町	6	5	11	(0.16)
上閉伊郡	13	4	17	(0.25)
大槌町	13	4	17	(0.25)
下閉伊郡	50	22	72	(1.08)
山田町	29	15	44	(0.66)
岩泉町	20	6	26	(0.39)
田野畑村	1	0	1	(0.01)
普代村	0	1		(0.01)
九戸郡	30	9	39	(0.58)
軽米町	4	3	7	(0.10)
洋野町	17	3	20	(0.30)
野田村	3	3	6	(0.09)
九戸村	6	0	6	(0.09)
二戸郡	8	5	13	(0.19)
一戸町	8	5	13	(0.19)
合計	4,659	2,036	6,695	

おわりに

令和5年2月より、これまでの「こども救急相談電話」(準夜帯：午後7時～午後11時)に続く相談窓口として「夜間ケアダイヤル」(深夜帯：午後11時～翌朝8時)がスタートした。電話相談件数は準夜帯が4,659件、深夜帯が2,036件、合計6,695件(月平均557.9件)であった。比較可能な準夜帯では、過去最高だった令和5年より285件減となっている。

深夜帯に関しては少ない月で122件(11月)、多い月で237件(12月)と差はあったが、月平均では169.7と昨年の平均(166.9)とあまり差はなかった。また、深夜帯も準夜帯に似た傾向であった。

それぞれの内訳をみると昨年までと傾向は大きく変わっていない。年齢別内訳では3歳未満が52.1%を占め、病気の相談では発熱に関する相談(32.4%)が最も多いという傾向は例年と同じである。

市町村別では、盛岡市からの相談が37.6%と最も多く、その他全県下から相談が寄せられているが、県外からの相談も0.19%認めた。また、相談時間は準夜帯では長くなる傾向がみられ、対応に苦慮する事例も少なくないが相談者の99.7%は相談員の対応に納得しており、適切に対応しているといえる。「はじめに」で述べたように、相談員は事例検討会を開催したりするなど日々の相談技術の向上に努めており、その努力に敬意と感謝を表したい。

V 救急医療年譜

- 昭和 40. 1.10 休日当番医制発足（内科、一日2ヵ所）
41. 7 休日当番医制に小児科および外科（それぞれ1日1ヵ所）が参加
51.12. 1 盛岡市夜間急患診療所が少年センター内（中の橋際、旧商工会議所）に開設
53. 3. 岩手県医業課より岩手県医師会、盛岡市医師会に二次体制確立要請
53. 6.16 盛岡市夜間急患診療所開設1周年記念式典開催
54.12. 1 盛岡地区二次救急医療体制発足、二次救急病院群輪番制9病院にて開始
岩手県立中央病院 盛岡市立病院 盛岡赤十字病院
岩手医科大学附属病院 遠山病院 高松病院
栃内病院 河南病院 はらた病院
55.11. 1 岩手県高次救急センター開設
56. 9.10 盛岡市夜間急患診療所開設5周年記念懇談会開催
56.12 内丸病院が二次救急病院群輪番制に参加
57. 2. 6 盛岡市夜間急患診療所が若園町・市役所若園町分庁舎1階に移転、診療開始
57.10.15 盛岡市夜間急患診療所診療時間の変更（夜8:00～12:00→夜7:30～11:30）
58. 7 はらた病院が二次救急病院群輪番制を辞退
62.11. 1 盛岡市夜間急患診療所が肴町盛岡市保健センター2階に新築移転、診療開始
62.11.14 盛岡市夜間急患診療所落成式開催
平成 4. 4. 1 盛岡市・都南村合併
5. 1 河南病院が二次救急病院群輪番制を辞退
7. 4. 1 盛岡繫温泉病院・盛岡友愛病院・川久保病院が二次救急病院群輪番制に参加
輪番病院を南北2ヶ所におく
8.12. 7 盛岡市夜間急患診療所開設20周年記念式典開催
11. 4. 1 小児救急病院群輪番制7病院にて開始
岩手県立中央病院 盛岡市立病院 盛岡赤十字病院
岩手医科大学附属病院 川久保病院 国立療養所盛岡病院
もりおかこども病院
11.11. 1 盛岡市夜間急患診療所診療時間の変更（夜7:30～11:00→夜7:00～11:00）
12. 4. 1 国立療養所盛岡病院が二次救急病院群輪番制に参加
12. 9. 1 南北にそれぞれおいていた輪番病院をA、Bの二グループに変更
Aグループ
岩手県立中央病院 盛岡赤十字病院 岩手医科大学附属病院
Bグループ
盛岡市立病院 遠山病院 高松病院 栃内病院 内丸病院
盛岡繫温泉病院 盛岡友愛病院 川久保病院 国立療養所盛岡病院
13. 2.22 盛岡地区二次救急医療体制20周年記念式典開催
14. 2. 1 岩手県高次救急センターを「岩手県高度救命救急センター」と改称
14. 9. 1 国立療養所盛岡病院が小児救急病院群輪番制を休止
16.10. 1 看護師によるこども救急電話相談の開設
17. 4. 1 川久保病院が小児救急病院群輪番制を休止
17. 9. 1 西根町・松尾村・安代町が合併し「八幡平市」となる
18. 1.10 玉山村が盛岡市と合併

- 19. 3.24 盛岡市夜間急患診療所開設 30 周年を祝う会開催
- 19. 4. 1 盛岡市立病院が小児救急病院群輪番制を休止（産婦人科も休止）
- 20. 4. 1 内丸病院が二次救急病院群輪番制を辞退
- 20. 4. 1 盛岡市が中核市となる
盛岡市夜間急患診療所が盛岡市保健所（神明町：旧競馬会館ビル）に移転開設
- 20. 6.14 岩手・宮城内陸地震発生（最大震度 6 強）
- 20. 6 盛岡市医師会災害時対応マニュアルの作成（全会員へ送付）
- 20. 7.24 岩手県沿岸北部を中心とする地震発生（最大震度 6 強）
- 21. 1 川久保病院が小児救急病院群輪番制を再開
- 21. 3 メキシコにおける豚インフルエンザの発生
- 21. 5 新型インフルエンザの国内発生
- 21. 6 新型インフルエンザの県内発生
- 21.10 夜間急患診療所小児科診療を 2 人体制で対応（H 22.1.3 まで）
- 21.11.26 盛岡地区二次救急医療体制 30 周年記念式典開催
- 22. 4. 1 八角病院が二次救急病院群輪番制に参加（B 群病院として）
- 23. 3.11 東北太平洋沖地震発生（後に東日本大震災）
PM2：46 発災、マグニチュード 9.0（最大震度 7）、
津波による死者・行方不明者 19,000 人超
- 23. 3.12 遺体検案応援が始まる（盛岡市・岩手郡・紫波郡医師会は 6 月まで応援）
- 23. 5. 7 山田町保健センター救護所への当直応援開始（7/3 まで）
※盛岡医師会・岩手郡医師会・二戸医師会で派遣対応
- 23. 7.10 岩手県立山田病院 仮設診療所への日曜・祝祭日の当直応援開始
※盛岡医師会・岩手郡医師会・二戸医師会で派遣対応
- 23. 8. 7 岩手県医師会高田診療所への診療応援開始
※各診療部会で派遣対応
- 24. 5. 8 岩手県による「ドクターヘリ」が運行開始（岩手医大矢巾キャンパス基地）
- 24.12.30 岩手県立山田病院 仮設診療所への日曜・祝祭日の当直応援終了
- 25. 8. 9 大雨により「大雨洪水警報」発令
雫石町国道 46 号線付近で乗用車・バスが孤立、消防本部による救助活動有
- 25. 9.16 台風 18 号の影響により玉山区松川が氾濫、浸水地域で消防本部による救助活動有
- 26. 1. 1 滝沢村が「滝沢市」となる
- 28. 3.20 岩手県医師会高田診療所への診療応援終了（閉所式）
- 28. 8.31 台風 10 号の影響により、岩泉町・久慈市など沿岸地域に甚大な洪水被害有死者・行方不明者 24 名
- 29. 3.13 岩手医科大学附属病院新築工事起工式
- 31. 3. 1 国立病院機構盛岡病院が「国立病院機構盛岡医療センター」に名称変更
- 31. 4. 1 もりおかこども病院が「子どもは未来もりおかこどもクリニック」に名称変更
（無床化のため小児救急病院群輪番制を中止）
- 令和 1. 5.20 岩手県立中央病院（隣接地）にヘリポート完成
- 1. 6.18 国立病院機構盛岡医療センターが重症心身障がい者病棟（さくら病棟）を開棟
- 1. 7.20 岩手医科大学附属病院（矢巾）竣工
- 1. 9.21 岩手医科大学附属病院（矢巾）・内丸メディカルセンター開院
- 1. 9.24 岩手医科大学附属病院（矢巾）外来診療開始

- 令和 1.10. 1 国立病院機構盛岡医療センターが小児救急病院群輪番制への参加を再開
(平成 14 年 9 月に休止)
- 1.12 中国湖北省武漢市における新型コロナウイルス発生
2. 1.24 新型コロナウイルスの国内発生
2. 4. 1 高松病院が二次救急病院群輪番制を休止
川久保病院が小児救急病院群輪番制を休止
2. 4.16 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、岩手県を含む全国が国の緊急事態
宣言の対象地域となる
2. 5.11 新型コロナウイルス感染症の対応に伴い、岩手医科大学附属病院が小児救急
病院群輪番制から一時的に脱退
2. 5.14 岩手県を含む 39 県について緊急事態措置を解除
2. 7.29 県内で新型コロナウイルス感染症患者の判明
- 2.11.23 県内で新型コロナウイルス感染症による死亡例を確認
3. 1.26 感染症対策として二次救急医療対策委員会における会議にテレビ会議システ
ム (Zoom) を導入
3. 5.1 ~ 2 滝沢市アピオにて盛岡市内の医療従事者向けの新型コロナワクチンの接種を
5.22 ~ 23 行う (対象者は約 5,000 人)
3. 8.12 新型コロナウイルスの新規感染者が直近 1 週間で県全体の人口 10 万人当たり
15 人を超えたことにより、県独自の岩手緊急事態宣言が発出 (3.9.16 解除)
4. 1.23 ~ 2 回目となる県独自の岩手緊急事態宣言の発出 (4.5.30 解除)
4. 4. 1 岩手県立中央病院が県内 4 か所目となる救急救命センター (3 次救急医療機関)
に指定される
5. 5. 8 新型コロナウイルス感染症の位置づけが、「新型インフルエンザ等感染症 (い
わゆる 2 類相当)」から「5 類感染症」に変更
- 5.10. 1 栃内病院移転 (肴町から西仙北へ)

VI 規程・協定書及び設置要項等資料

1. 盛岡市夜間急患診療所運営協議会会則

(昭和52年2月1日盛岡市長決裁)

改正 昭和52年4月19日

昭和55年12月1日

平成9年4月1日

平成20年4月1日(平成20年4月1日副市長専決)

平成22年4月1日(平成22年3月3日副市長専決)

平成24年6月1日(平成24年5月30日副市長専決)

- 第1条 盛岡市夜間急患診療所(以下「診療所」という。)の円滑な運営を図るため、盛岡市夜間急患診療所運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。
- 第2条 協議会は、次に掲げる団体等をもって組織し、事務局を盛岡市保健所企画総務課内に置く。
(1) 盛岡市医師会
(2) 盛岡薬剤師会
(3) 岩手県看護協会
(4) 盛岡市
- 第3条 協議会は、次に掲げる事項について協議決定の推進に努めるものとする。
(1) 診療所における医師その他従事者の勤務に関すること。
(2) 診療所において生じた事故処理に関すること。
(3) 診療所の事務改善に関すること。
(4) その他診療所の運営に必要な事項に関すること。
- 第4条 前条各号に掲げる事項を審議するため、協議会に次の各号に掲げる構成団体の区分に応じ、当該各号に定める数の委員を置く。
(1) 盛岡市医師会 7人
(2) 盛岡薬剤師会 2人
(3) 岩手県看護協会 1人
(4) 盛岡市 2人
- 第5条 2 委員の任期は、2年とする。ただし、補充の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
協議会に会長及び副会長1人を置く。
(1) 会長及び副会長は、委員の互選とする。
(2) 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
(3) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 第6条 協議会の会議は、必要に応じ、会長が招集する。
- 第7条 2 協議会の事務を処理させるため協議会に事務局長及び事務局職員を置く。
事務局長は盛岡市職員のうちから、事務局職員は構成団体職員のうちから会長が委嘱する。
- 第8条 この会則に定あるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定ある。
附 則
この規約は、昭和52年4月19日から施行する。
附 則
この規約は、昭和55年12月1日から施行する。
附 則
この規約は、平成9年4月1日から施行する。
附 則
この規約は、平成20年4月1日から施行する。
附 則
この規約は、平成22年4月1日から施行する。
附 則
この規約は、平成24年6月1日から施行する。
2 第4条の2の規定によらず、平成24年6月1日から委嘱する委員の任期については、平成24年6月1日から平成26年3月31日までの1年10か月とし、その後に委嘱する委員の任期については、従前のおりとする。

2. 災害時の医療救護活動に関する協定書

盛岡市医師会長 石川育成

近時、集団災害時医療救助の体制確立は大きな社会問題であると同時に焦眉の急である。

外国に目を移すとその救助活動は目を見張るものであり、残念乍ら我が国は「富国日本は金も出さず人も出さず国際的役割を果たしていない」と批判的的であると言う。国内の体制が整備されない現実を視ればそれも頷かざるをえない事実であろう。

過去を省みるまでもなく、国内に発生した集団災害の医療救助体制は付け焼刃であり必ずしも満足出来るものではない。災害対策基本法に基づいて夫々の地方自治体に体制が現存するとは言え、過去においてその体制の本格的作動は皆無に近い。

地方小都市と言えども集団災害に無縁ではない。近年の高層ビルの林立は集団災害発生の素地を有し、飛行機事故、大地震、津波等々の発生予見は不可能である。斯かる事態発生を想定しての医師集団率先による具体的体制確立が急務であることは言を待たない。

盛岡市医師会は数年来、斯かる問題に鋭意検討、研究を重ねて来たところであるが、出動時の死傷補償が大きな壁であった。然し乍ら補償問題決着の待事では増があかず、体制確立と平行しての行政接衝を条件とし、医道・医心を弁えた会員の総意による『盛岡市医師会災害救助隊設置要項』が昭和61年5月の総会承認を得たのである。

此の度盛岡市当局は勇断をもって盛岡市医師会との協定を締結したが、この協定は医師集団の理念を充分理解したものであり、この実績が県内各市町村に波及する事によって15郡市医師会の足並みが完全に揃い、岩手県医師会の提唱する大目的が達成される原動力になる事を期待するものである。

此の種の問題は画一的にとらえて実行に移す事は極めて困難な部分が多い。地域環境、会員数等々の地域事情も考慮しなければならないが、災害における人命救助活動は医師集団の組織活動力以外にない。地域事情の困難性を越えての体制作りこそ医師集団への期待と信頼が倍加する事になろう。

岩手県医師会は災害救助体制確立を急務としている。底辺からの対応策の集積が「岩手県と岩手県医師会」「岩手県医師会と郡市医師会」「郡市医師会と市町村」「岩手県と市町村」の協定図式の基盤となる事は明白である。

「盛岡地区救急医療体制のあゆみ 1988」より

① 岩手県と岩手県医師会との協定書

岩手県（以下「甲」という。）と社団法人岩手県医師会（以下「乙」という。）は災害時における医療救護について、次のとおり協定を締結する。

（趣 旨）

第1条 この協定は岩手県地域防災計画に基づき、甲が行う医療救護に対する乙の協力に関し、必要な事項を定めるものとする。

（医療班の派遣）

第2条 甲は、岩手県地域防災計画に基づき、医療救護活動を実施する必要がある場合は、乙に対し医療班の編成及び派遣を要請するものとする。

2 乙は、前項の規定により甲から要請を受けた場合は、直ちに医療班を編成し災害現場等の救護所等に派遣するものとする。

（自主出動）

第2条の2 乙は、甲と連絡がとれないとき又は派遣の要請を待ついとまがないときは、自主的に被災地の情報収集を行い、その結果、緊急に医療班を派遣する必要があると認めた場合は、自主的に医療班を編成して、派遣することができる。

2 乙は、前項の規定により医療班を派遣したときは、遅滞なく甲に報告するものとする。

3 乙が前項の規定により派遣した後において、甲が前条に基づき医療班の派遣が必要と認めたときは、乙が派遣したときに要請があったものとみなす。

（災害医療救護計画）

第3条 乙は、前2条の規定により医療救護活動の円滑な実施を図るため、災害医療救護計画を策定し、これを甲に提出するものとする。

（医療班に対する指揮）

第4条 医療救護活動の総合調整を図るため、乙が派遣する医療班に対する指揮は、甲が指定するものを行う。

（医療班の業務）

第5条 乙が派遣する医療班は、甲または市町村が避難所及び災害現場等に設置する救護所において医療救護活動を行うことを原則とする。

2 医療班の業務は次の通りとする。

- (1) 傷病者に対する応急処置及び医療
- (2) 傷病者の収容医療機関への転送の要否及び転送順位の決定
- (3) 被災者の死亡の確認

（医薬品等の供給）

第6条 乙が派遣する医療班が使用する医薬品等は、当該医療班が携行するもののほか、甲が供給するものとする。

（収容医療機関の指定）

第7条 乙は、甲が傷病者の収容医療機関を指定しようとするときは、これに協力するものとする。

(医療費)

第8条 救護所における医療費は無料とする。

2 収容医療機関における医療費は、原則として患者負担とする。

(費用の弁償等)

第9条 甲の要請に基づき、乙が医療救護活動を実施した場合に要する次の費用は、甲が負担するものとする。

- (1) 医療班の編成及び派遣に要する経費
- (2) 医療班が携行した医薬品等を使用した場合の実費
- (3) 医療班員が医療救護活動において負傷し、疾病にかかりまたは死亡した場合の扶助金
- (4) 前各号に該当しない費用であって、この協定実施のために要したもの

(細目)

第10条 この協定を実施するための必要な事項については、別に定める。

(協議)

第11条 この協定に定めのない事項、またはこの協定に関し疑義が生じた事項については、甲乙協議のうえ定めるものとする。

(有効期間)

第12条 この協定の有効期間は、協定の締結の日から起算して1年間とする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、甲乙いずれからも何らかの意思表示がないときは、有効期間満了の日の翌日から起算して1年間この協定は延長され、以降同様とする。

この協定を証するため、本書2通を作成し、甲乙者記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

平成10年3月19日

甲 岩手県
代表者 岩手県知事 増田寛也

乙 盛岡市菜園二丁目8番20号
社団法人 岩手県医師会
会長 石川育成

② 岩手県医師会と盛岡市医師会との協定書

社団法人岩手県医師会（以下「甲」という。）と社団法人盛岡市医師会（以下「乙」という。）とは、平成元年4月20日岩手県知事と岩手県医師会長との間に締結された「災害時の医療救護に関する協定書」に基づき、災害時の医療救護活動について、次のとおり協定を締結する。

（総 則）

第1条 この協定書は、岩手県地域防災計画に基づき、岩手県が行う医療救護活動に対し、岩手県知事と岩手県医師会長との間に協定された災害時の医療救護活動についての乙の協力に関し、必要な事項を定める。

（医療救護班の派遣）

第2条 甲は、医療救護活動を実施する必要がある場合は乙に対し、医療救護班の派遣を要請するものとする。

2 乙は、前項の協定により、甲から要請を受けたときは、直ちに乙の災害医療救護計画に基づき、医療救護班を派遣するものとする。

（自主出動）

第2条の2 乙は、甲と連絡がとれないとき又は派遣の要請を待ついとまがないときは、自主的に被災地の情報収集を行い、その結果、緊急に医療班を派遣する必要があると認めた場合は、自主的に医療班を編成して、派遣することができる。

2 乙は、前項の規定により医療班を派遣したときは、遅滞なく甲に報告するものとする。

3 乙が、前項の規定により派遣した後において、甲が前条に基づき医療班の派遣が必要と認めたときは、乙が派遣したときに要請があったものとみなす。

（災害医療救護計画）

第3条 乙は、医療救護活動の円滑な実施を図るため災害医療救護計画を策定し、これを甲に提出するものとする。

（指揮命令）

第4条 医療救護班に係る指揮命令及び医療救護活動の連絡調整は、甲の指定する者が行うものとする。

（医療救護班の業務）

第5条 乙が派遣する医療救護班は、岩手県または市町村が避難場所、避難所及び災害現場等に設置する救護所において医療救護を行う。

2 医療救護班の業務は次のとおりとする。

- (1) 傷病者に対する応急処置及び医療
- (2) 傷病者の収容医療機関への転送の要否及び転送順位の決定
- (3) 被災者の死亡の確認

（医薬品等の供給）

第6条 乙が派遣する医療救護班が使用する医薬品等は、当該医療救護班が携行するもののほか、原則として岩手県が供給するものとする。

(収容医療機関の指定)

第7条 乙は、岩手県が地域防災計画に基づく収容医療機関を指定しようとするときは、これに協力するものとする。

(医療費)

第8条 救護所における医療費は無料とする。

2 収容医療機関における医療費は、原則として患者負担とする。

(費用弁償等)

第9条 甲の要請に基づき、乙が医療救護活動を実施した場合に要する次の費用については、乙が甲に請求するものとする。

(1) 医療救護班の編成及び派遣に要する経費

(2) 医療救護班が携行した医薬品等を使用した場合の実費

(3) 医療救護班員が医療救護活動において負傷し、疾病にかかり、または死亡した場合の扶助金

(4) 前各号に該当しない費用であって、この協定実施のために要したもの

2 前項第1号、第2号の定めにより請求する費用弁償等の額については、岩手県知事と岩手県医師会長との間に締結された「災害時の医療救護に関する協定書及び同実施細則」によるものとする。

(費用弁償等の請求、報告)

第10条 前条の定めによる費用弁償等の請求、報告については、医療救護活動終了後、速やかに乙が一括して別に定める方式により甲に請求、報告するものとする。

(費用弁償等の支払)

第11条 甲は、乙からの請求、報告に基づき費用弁償等を岩手県へ請求するものとし、岩手県から入金後速やかに乙に支払うものとする。

(協 議)

第12条 前各条に定めのない事項及び協定実施にあたって疑義を生じた場合には、甲乙協議のうえ決定するものとする。

(有効期間)

第13条 この協定の有効期間（以下「協定機関」という。）は、協定の締結の日から起算して1年間とする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、甲乙いずれからも何らかの意思表示がないときは、有効期間満了の日の翌日から起算して1年間この協定は延長され、以降同様とする。

この協定を証するため、本書2通を作成し、甲乙両者記名押印のうえ各自その1通を保有する。

平成10年3月31日

岩手県盛岡市菜園二丁目8番20号

甲 社団法人 岩手県医師会

会 長 石 川 育 成

岩手県盛岡市愛宕町18番6号

乙 社団法人 盛岡市医師会

会 長 小 林 高

③ 盛岡市と盛岡市医師会との協定書

盛岡市（以下「甲」という。）と社団法人盛岡市医師会（以下「乙」という。）とは、災害が発生した場合の医療救護活動について、次のとおり協定を締結する。

（趣 旨）

第1条 この協定は、盛岡市地域防災計画（以下「防災計画」という。）に基づき、甲が乙の協力を得て行う医療救護活動を円滑に実施するため、その実施に関し必要な事項を定めるものとする。

（医療救護班の派遣）

第2条 甲は、防災計画に基づく医療救護活動を行う必要が生じたときは、乙に対し、医師、看護師等で編成する医療救護班（以下「医療救護班」という。）の派遣を要請するものとする。

2 乙は、前項の規定により甲の要請を受けたときは、直ちに、医療救護班を甲の指定する場所に派遣するものとする。

第2条の2 乙は、甲と連絡がとれないとき又は派遣の要請を待ついとまがないときは、自主的に被災地の情報収集を行い、その結果、緊急に医療救護班を派遣する必要があると認めた場合は、自主的に医療救護班を編成して、派遣することができる。

2 乙は、前項の規定により医療救護班を派遣したときは、遅滞なく甲に報告するものとする。

（医療救護班の業務）

第3条 医療救護班の業務は、次のとおりとする。

- (1) 傷病者に対する応急処置
- (2) 後送医療施設への転送の要否及び転送順位の決定
- (3) 助産
- (4) 死亡の確認

（医療救護班の輸送）

第4条 医療救護班の輸送は、原則として甲が行う。

（救護所の設置）

第5条 甲は、災害の状況により必要に応じて救護所を設置する。

2 甲は、前項に定めるもののほか、災害の状況により必要と認めたときは、医療救護活動が可能な被災地周辺の医療施設に乙の協力を得て救護所を設置する。

（使用医薬品等）

第6条 医療救護活動に使用する医薬品、医療材料その他医療関係物品（以下「医療品等」という。）は、原則として甲が備える医薬品等とする。

2 前項の医薬品の輸送は、原則として甲が行う。

（救護所における給食等）

第7条 救護所において必要とする給食及び給水は、甲が行う。

（医療費）

第8条 救護所における医療費は、無料とし、患者に対しては請求しないものとする。

2 後送医療施設における医療費は、患者が負担する。

(費用弁償)

第9条 甲は、次の各号に掲げる費用について、当該各号に定める額を負担する。

- (1) 医療救護班を派遣したときの人件費災害救助法（昭和22年法律第118号）の規定に基づく実費弁償の程度を基準として、甲、乙協議して定める額
- (2) 医療救護班が調達した医薬品等を使用したときのその使用した医薬品等の費用実費の額
- (3) 後送医療施設及び救護所において行った医療救護活動に伴い、当該後送医療施設及び救護所の施設又は設備を損傷したときの当該施設又は設備の現状回復に要する費用実費の額
- (4) 前各号に該当しない費用で、この協定実施のため要したものの甲、乙協議して定める額
(扶助費)

第10条 甲は、医療救護班の医師、看護婦等が医療救護活動において負傷し、疾病にかかり、又は死亡したときは、災害救助法の規定に基づき支給される扶助金の例により扶助費を支給する。

(医事紛争の措置)

第11条 医療救護班が医療活動により患者との間に医事紛争が生じたときは、乙は、直ちに甲に連絡するものとする。

2 甲は、前項の連絡を受けたときは速やかに調査し、乙と協議の上誠意をもって解決のため適当な措置を講ずるものとする。

(報告)

第12条 乙は、医療救護活動終了後速やかに甲の定るところにより医療救護活動従事者の氏名及び人数その他医療救護活動の内容を、甲に報告するものとする。

(費用等の請求)

第13条 乙は、第9条の費用及び第10条の扶助費（以下「費用等」という。）を請求するときは、甲の定めるところにより行うものとする。

(支払)

第14条 甲は、前条の規定により費用等の請求があったときは、その内容を審査し、適当であると認めるときは、その費用等を乙に支払うものとする。

(協議)

第15条 この協定に定めのない事項又はこの協定について疑義が生じた事項については、甲、乙協議して定める。

(協定期間)

第16条 この協定の有効期間は、昭和62年10月1日から昭和63年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了1月前までに甲、乙いずれかから何ら意思表示がないときは、更に期間満了の翌日から1年間この協定を更新するものとし、以後この例による。

この協定の締結の証として、本書2通を作成し、甲、乙記名押印して、それぞれの1通を保有するものとする。

平成11年11月15日

甲 盛岡市

代表者 盛岡市長 桑 島 博

乙 盛岡市愛宕町18番6号

社団法人盛岡市医師会

会 長 小 林 高

3. 盛岡地区二次救急医療対策委員会 設置要項

(設置)

第1条 盛岡市医師会に二次救急医療対策委員会（以下委員会という）を置く。

(所掌)

第2条 委員会は次に掲げる事項を審議する。

- (1) 盛岡地区に於ける救急医療対策に関する事項
- (2) その他二次救急医療対策に伴う必要な事項

(構成)

第3条 委員会は盛岡市医師会長が任命した委員をもって構成し、委員会に若干名の常任委員を置く。

(任期)

第4条 委員の任期は盛岡市医師会役員の任期と同じとする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き委員長は盛岡市医師会長とする。

- (1) 委員長は会務を総括し会議の議長となる
- (2) 委員長が事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する

(会議)

第6条 委員会の会議は必要に応じて委員長が招集する。

- (1) 会議は委員会と常任委員会の二種とする
- (2) 委員長は必要があるときは関係者を出席させ説明又は意見を求めることが出来る

(会議の結果)

第7条 委員会は必要に応じて審議した結果を速やかに医師会長に報告する。

第8条 本委員会の庶務は盛岡市医師会事務局に於いて処理する

(経費)

第9条 委員会の経費は補助金、関連医療機関からの拠出金及びその他の収入金をもって充てる。

- (1) 拠出金の額は毎年3月に委員会に於いて審議決定する

附 則

第 10 条 この要項は昭和 55 年 4 月 1 日から施行する。

この会則は、平成 2 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成 7 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成 8 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成 9 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成 12 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成 20 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成 22 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成 24 年 6 月 26 日一部改正する。

この会則は、平成 31 年 3 月 1 日一部改正する。

この会則は、平成 31 年 4 月 1 日一部改正する。

この会則は、令和 2 年 4 月 1 日一部改正する。

付 表

- 委 員 -

岩手医科大学附属病院 院長 他 4 名

岩手県立中央病院 院長 他 1 名

盛岡赤十字病院 院長 他 1 名

盛岡市立病院 院長 他 1 名

栃内病院 院長 1 名

遠山病院 院長 1 名

盛岡つなぎ温泉病院 院長 1 名

盛岡友愛病院 院長 1 名

川久保病院 院長 1 名

独立行政法人国立病院機構盛岡医療センター 院長 1 名

八角病院 院長 1 名

夜間急患診療所運営委員 4 名

盛岡市医師会理事 8 名

岩手西北医師会 会長 1 名

紫波郡医師会 会長 1 名

その 他 若干名
以上 37 名以内

Ⅶ 編集後記

新型コロナ感染症対応の5類相当への引き下げ後、二次救急医療体制は新型コロナ以前に復したと考えられる。二次救急、小児救急ともに大きな体制変更なく2024年の救急医療体制を維持し得たことに対して関係機関に感謝を申し上げたい。二次救急、小児救急に関する2024年のデータの分布はほぼ例年通りであったが、総数に関しては減少傾向にある。人口減少がその背景にあると考えられる。

さて、2024年のデータをまとめた2025年の「あゆみ」が発刊された。詳細は各報告を参照していただきたい。急激な人口減少と人口構成の変化に伴い、医療需要も急激に変わっていくと予測される。医療需要の変化に伴い医療提供側も体制の調整を求められるであろう。また、医師の高齢化、働き方改革、地域偏在など医療提供側の変化など、救急医療を取り巻く環境変化は枚挙に暇がない。これらの環境変化に対応するためにもデータの把握、蓄積、検討は今後一層重要になるであろうし、その基盤としての「あゆみ」の果たす役割もより重要になってくると考えられる。

最後に寄稿していただきました各位、貴重なデータを毎月報告している各医療機関、保健所の事務職員の皆様、盛岡市医師会事務局の皆様にご感謝申し上げます。

和田 司

盛岡地区救急医療体制のあゆみ
2025

発行日 令和7年9月9日

発行者 盛岡市

盛岡市医師会

盛岡地区二次救急医療対策委員会

印刷所 (株)杜陵印刷